

附 属 資 料

(I) 標 準 掘 削 断 面 図

- ・ 配水管
- ・ 給水管

(II) 路 面 復 旧 図

- ・ 市 道
- ・ 県 道
- ・ 国 道

(III) しゅん工図作成要領

(IV) 工事写真撮影要領

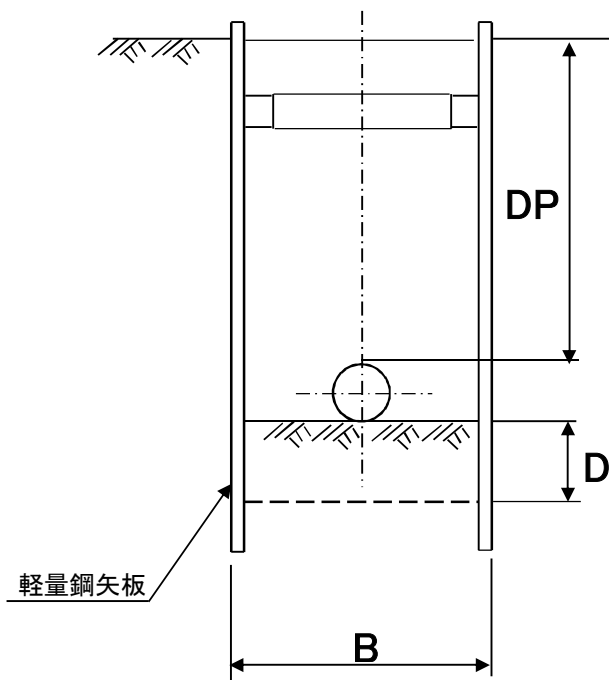
(V) 水道配水用ポリエチレン管標準配管図

(I) 標準掘削断面図

(I) 標準掘削断面図

軽量鋼矢板を使用する場合は、次の標準断面によることができる

※DP1.2mについては標準埋設深度であり、それよりも浅い深度については浅層埋設深度となる。



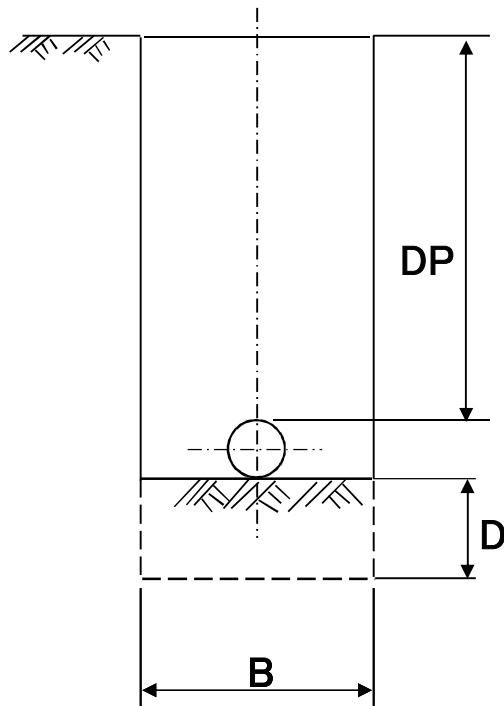
管径 (mm)	B (m)	DP (m)車道	DP (m)歩道	D (m)	L (m)	矢板長 (m)
50	0.85	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
50	0.85	1.00	1.00	0.3	0.5	1.5
50	0.85	1.20	1.20	0.3	0.5	1.5
75	0.85	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
75	0.85	1.20	1.20	0.3	0.5	1.5
100	0.85	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
100	0.85	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
150	0.85	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
150	0.85	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
200	0.85	0.90	0.80	0.3	0.5	1.5
200	0.85	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
250	0.85	0.90	0.80	0.3	0.5	1.5
250	0.85	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
300	0.85	1.00	0.90	0.3	0.5	2.0
300	0.85	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
400	1.00	1.20		0.6	0.8	2.5
500	1.10	1.30		0.6	0.8	2.5
600	1.20	1.50		0.6	0.8	2.5
700	1.50	1.50		0.6	0.8	2.5
800	1.60	1.50		0.6	0.8	3.0
900	1.90	1.50		0.6	0.8	3.0
1000	2.05	1.50		0.6	0.8	3.0

備考 D : 会所掘の掘削深度
L : 会所掘の掘削延長

※φ300NS形はB=0.90

機械掘削(バックホウ)による、標準掘削断面は次のとおりとする

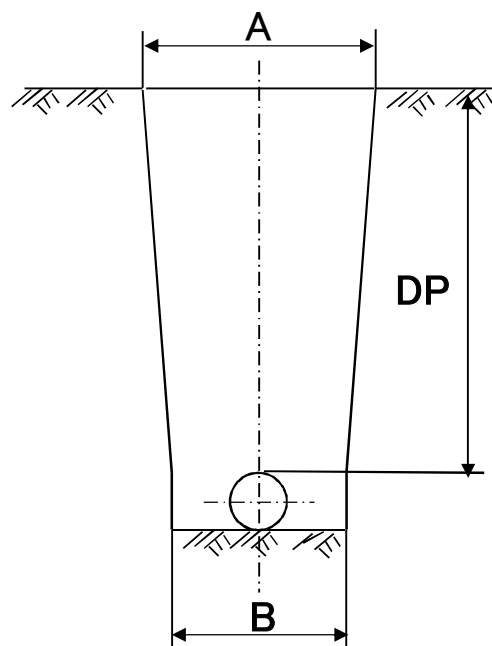
※DP1.2mについては標準埋設深度であり、
それよりも浅い深度については浅層埋設
深度となる。



管径 (mm)	B (m)	DP (m)車道	DP (m)歩道	D (m)	L (m)
50	0.55	0.80	0.80	0.3	0.5
50	0.55	1.00	1.00	0.3	0.5
50	0.55	1.20	1.20	0.3	0.5
75	0.55	0.80	0.80	0.3	0.5
75	0.55	1.20	1.20	0.3	0.5
100	0.55	0.80	0.80	0.3	0.5
100	0.55	1.20	1.20	0.3	0.5
150	0.55	0.80	0.80	0.3	0.5
150	0.55	1.20	1.20	0.3	0.5
200	0.60	0.90	0.80	0.3	0.5
200	0.60	1.20	1.20	0.3	0.5
250	0.65	0.90	0.80	0.3	0.5
250	0.65	1.20	1.20	0.3	0.5

備考 D : 会所掘の掘削深度
L : 会所掘の掘削延長

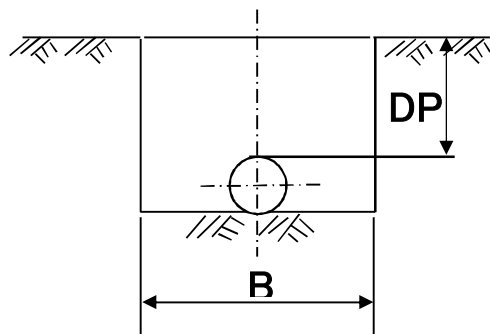
人力による、標準掘削断面は次のとおりとする



管径 (mm)	A (m)	B (m)	DP (m)
50	0.55	0.50	0.50
50	0.55	0.50	0.80
50	0.55	0.50	1.00
50	0.55	0.50	1.20
75	0.55	0.50	0.80
75	0.55	0.50	1.20
100	0.55	0.50	0.80
100	0.55	0.50	1.20

備考 (歩車道共)

人力による、標準掘削断面は次のとおりとする

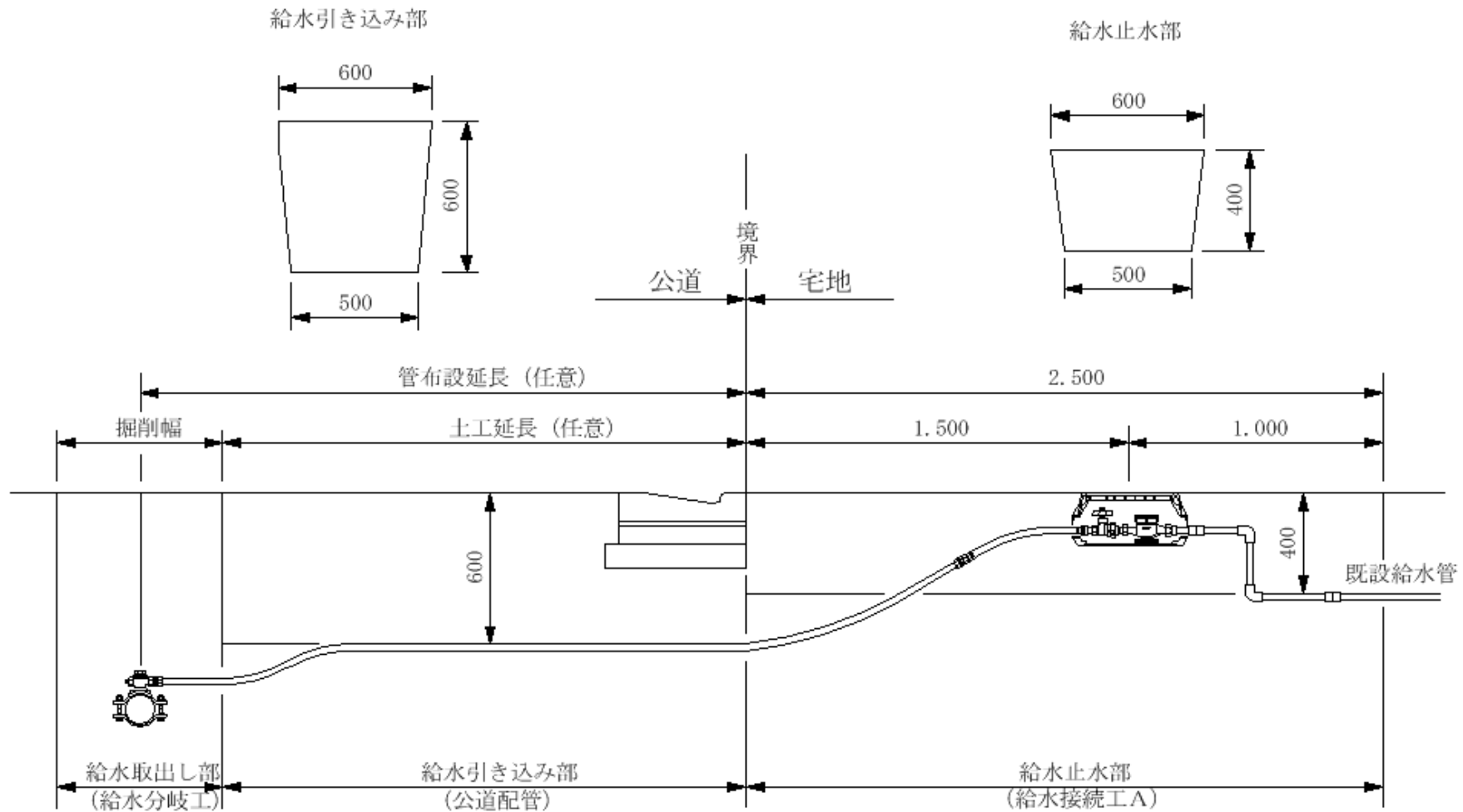


管径 (mm)	B (m)	DP (m)
50	0.50	0.30
100	0.55	0.30
150	0.36	0.30
200	0.65	0.30

備考 仮設管(歩車道共)

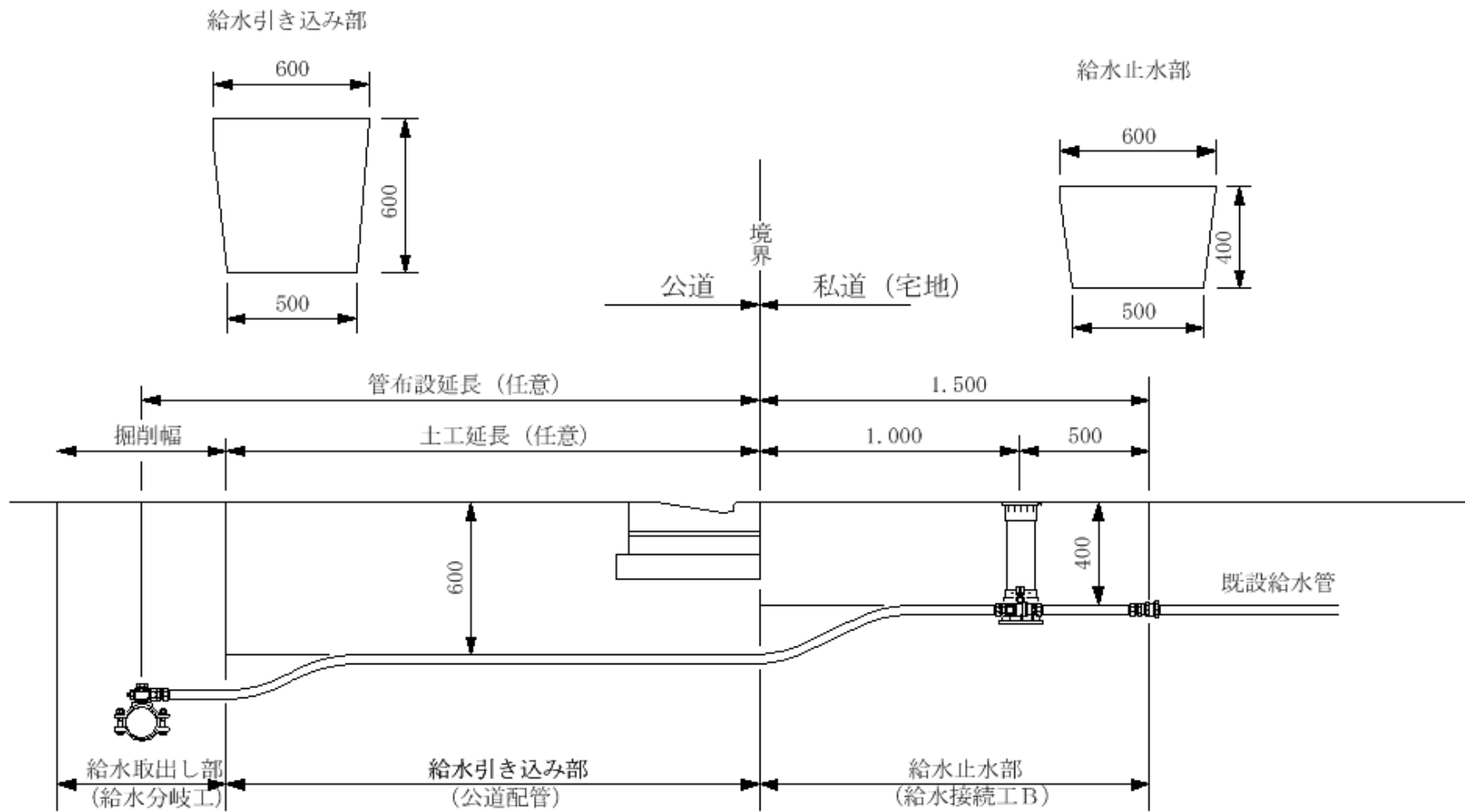
標準給水掘削断面図

給水接続工.
給水分岐工～公道配管～給水接続工A（メータ直接接続口径13～25）



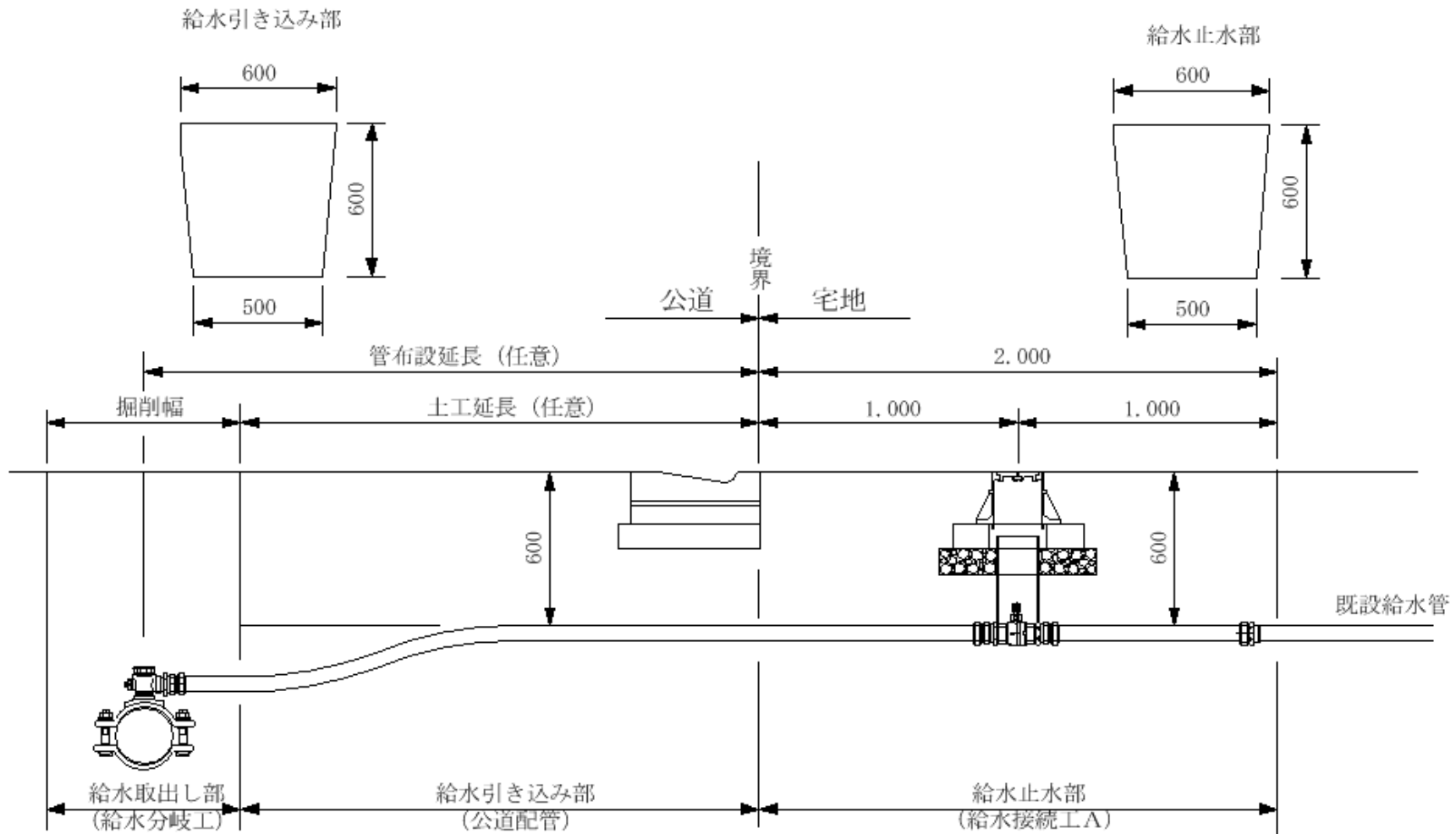
標準給水掘削断面図

給水接続工.
給水分岐工～公道配管～給水接続工B（私道、宅地）



標準給水掘削断面図

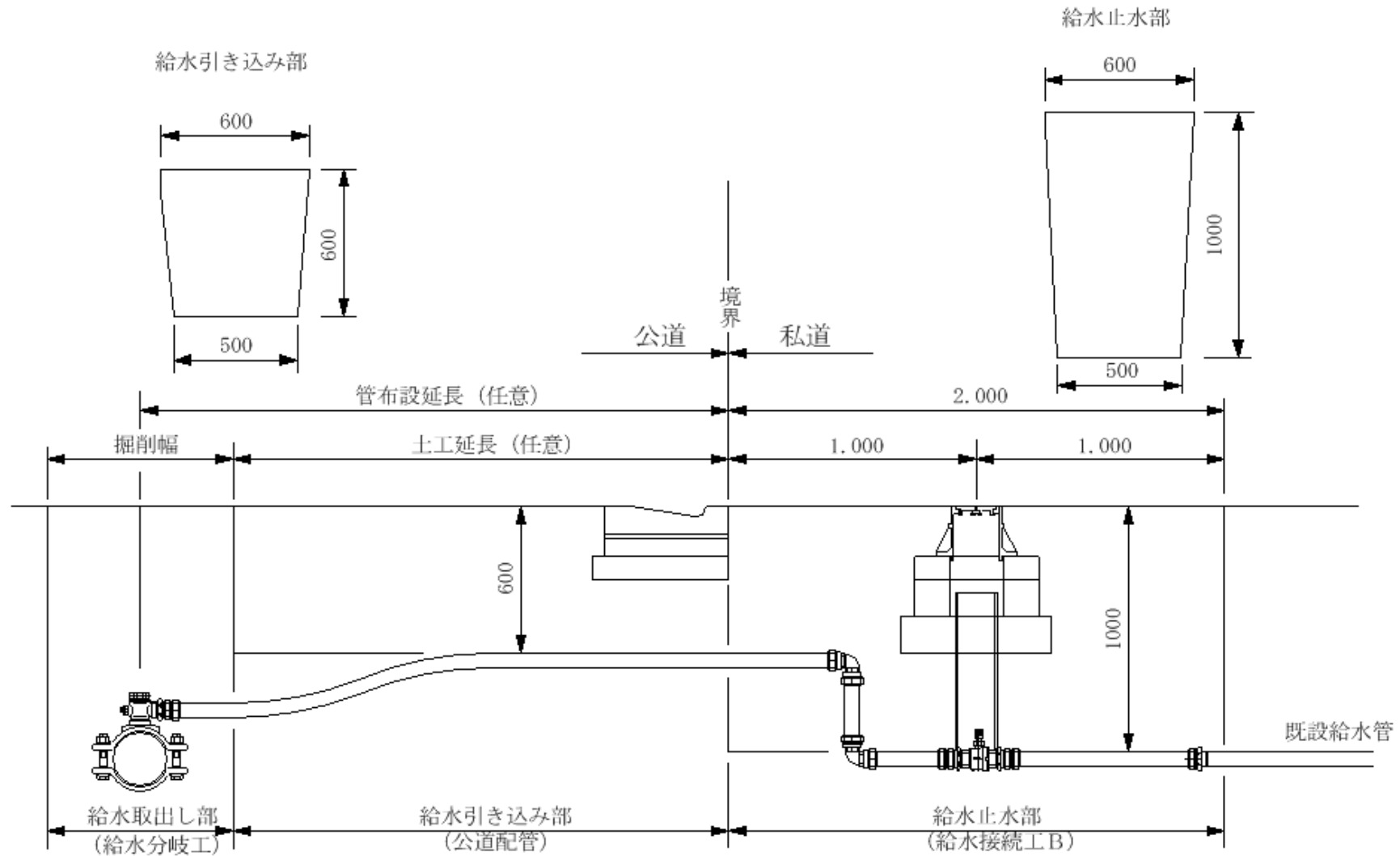
給水接続工.
給水分岐工～公道配管～給水接続工A（メータ直接接続φ50）



標準給水掘削断面図

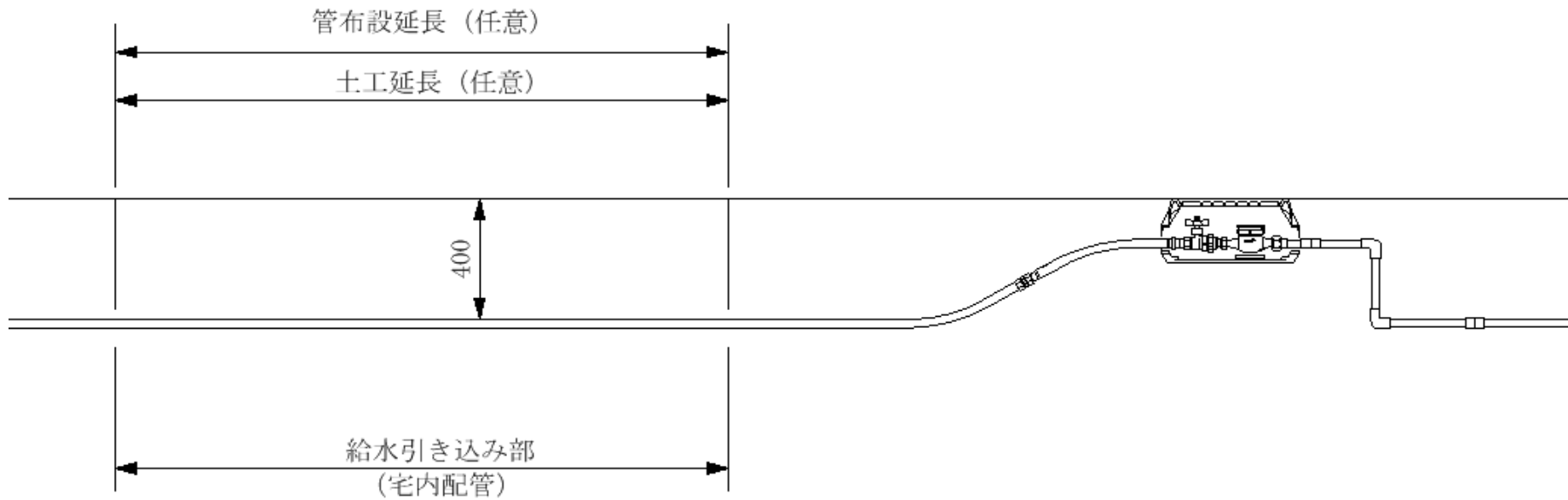
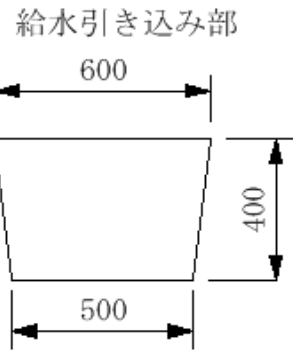
給水接続工.

給水分岐工～公道配管～給水接続工B（私道部接続口径50）



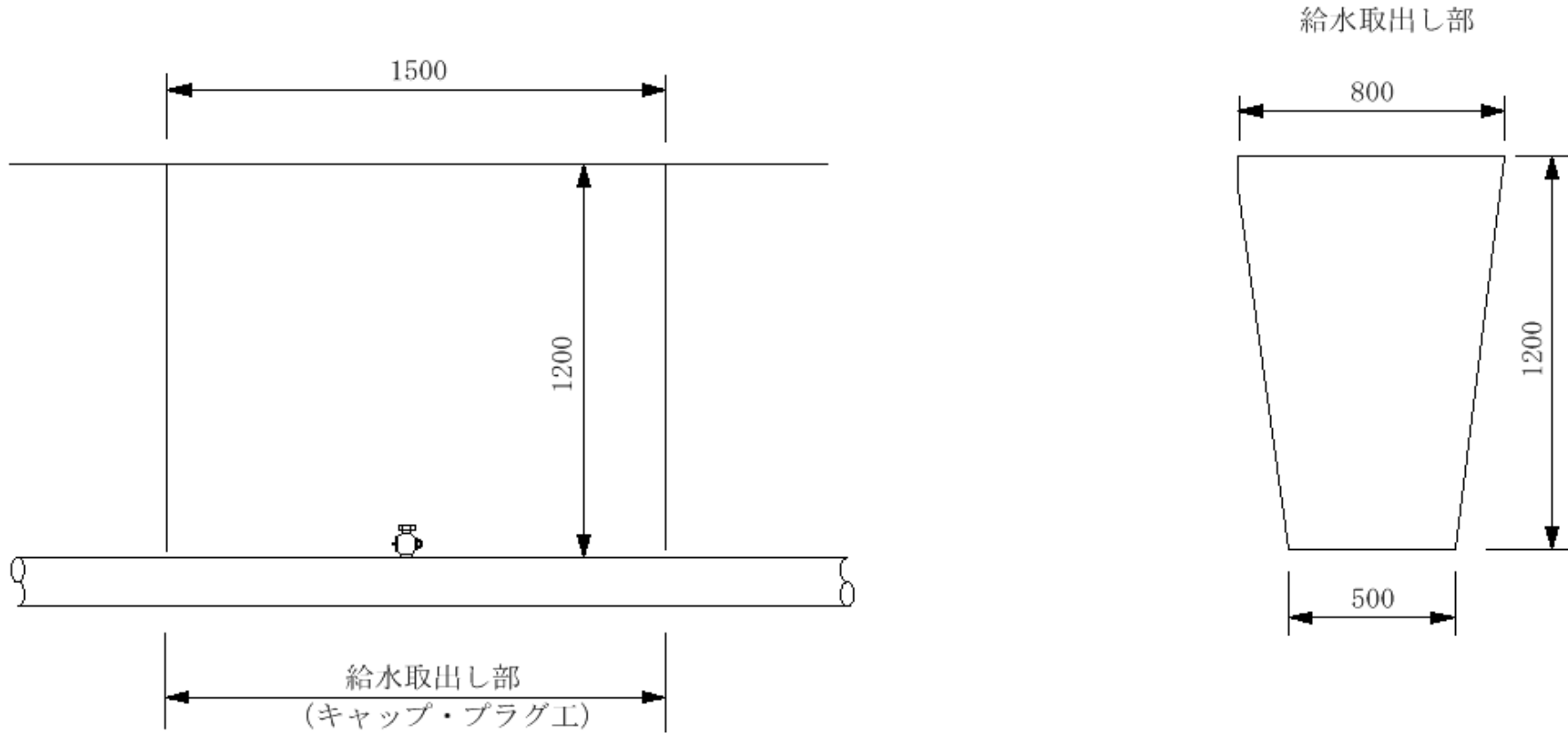
標準給水掘削断面図

給水接続工. 宅内配管



標準給水掘削断面図

給水接続工.
給水取出し部～キャップ・プラグ工

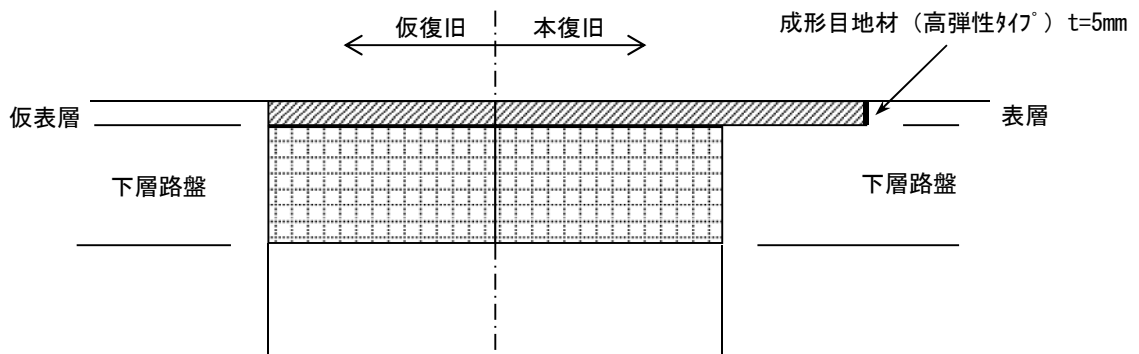


(II) 路面復旧図

(II) 路 面 復 旧 図

設計 CBR が判明している道路

N1 (舗装計画交通量 (台/日・方向) : T < 15)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物	アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	
3	5	-	15	5	-	-	-	15

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※

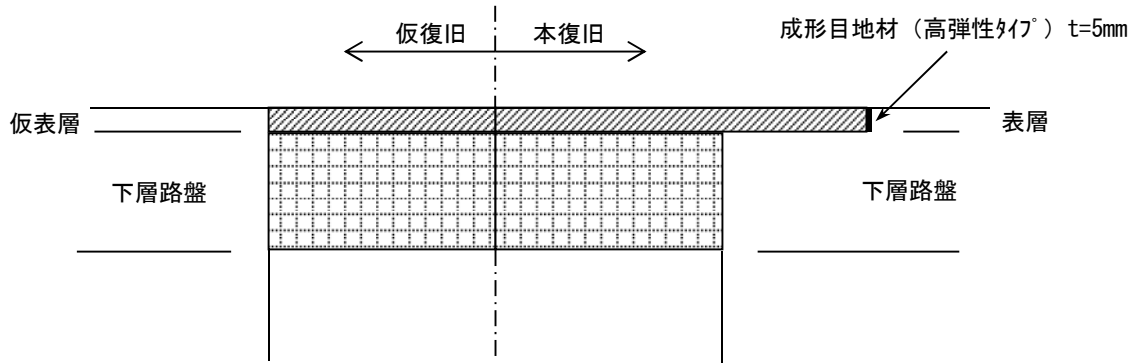
下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし, 下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルト I 型

設計 CBR が判明している道路

N2 (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $15 \leq T < 40$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物	-	アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	-	25	5	-	-	-	25

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※

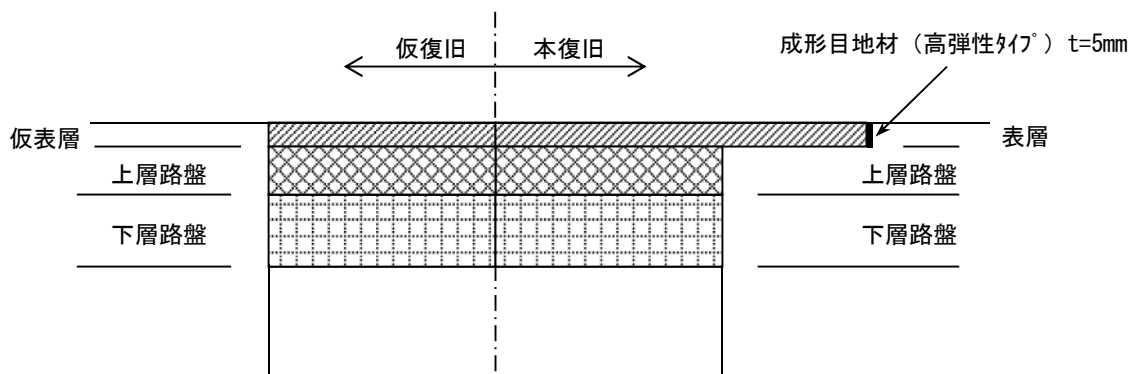
下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし, 下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホ ¹ リマー改質アスファルト I 型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホ ¹ リマー改質アスファルト II 型 (動的安定度(DS)1,500回/mm以上)

設計 CBR が判明している道路

N3（舗装計画交通量（台/日・方向）： $40 \leq T < 100$ ）



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物	-	アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	15	12	5	-	-	15	12

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
 上層路盤 : 粒度調整碎石(M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

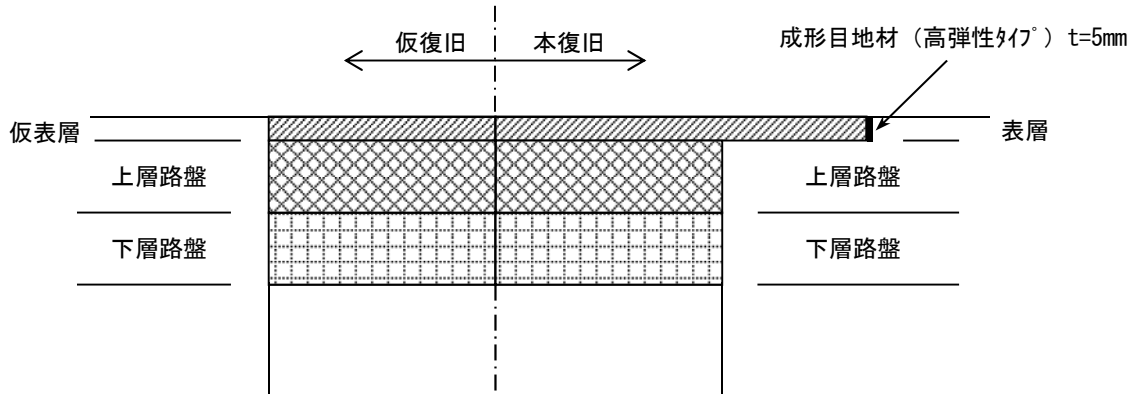
〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※
 上層路盤 : 粒度調整碎石(M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルト I 型
第1種, 第2種, 第3種第1級・第2級, 第4種第1級 (道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホリマー改質アスファルト II 型 (動的安定度(DS)1,500回/mm以上)

設計 CBR が判明している道路

N4 (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $100 \leq T < 250$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	15	35	5	-	-	15	35
4		20	25			-	20	25
6		15	25			-	15	25
8		15	15			-	15	15
12		15	12			-	15	12

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

上層路盤 : 粒度調整碎石(M-40)

下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※

上層路盤 : 粒度調整碎石(M-40)

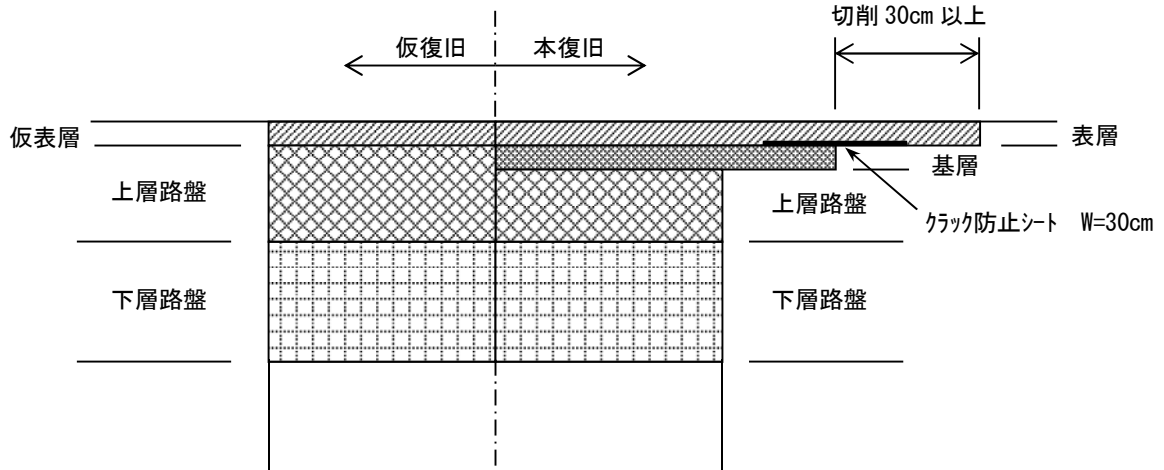
下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし, 下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホ ¹ リマ-改質アスファルト I 型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホ ¹ リマ-改質アスファルト II 型 (動的安定度(DS)1,500回/mm以上)

設計 CBR が判明している道路

N5 (i) (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $250 \leq T < 625$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	30	30	5	5	-	25	30
4		20	35			-	15	35
6		20	25			-	15	25
8		20	15			-	15	15
12		15	15			-	10	15

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
 上層路盤 : 粒度調整碎石(M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

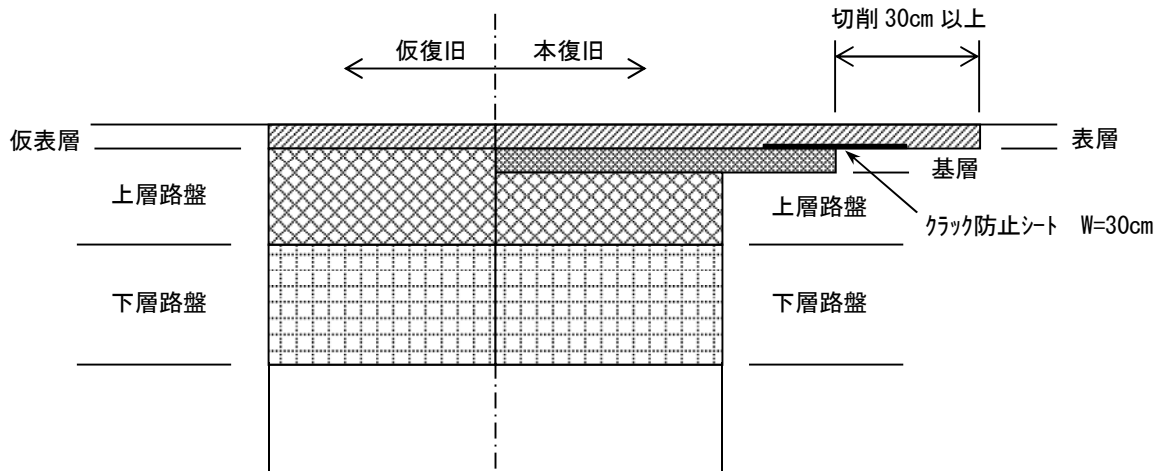
〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※
 基層 : ②粗粒度アスコン(20)
 上層路盤 : 粒度調整碎石(M-25 or M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルト I 型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (交差点部および道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホリマー改質アスファルト II 型 (動的安定度(DS)1,500回/mm以上)

設計 CBR が判明している道路

N5 (ii) (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $625 \leq T < 1,000$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	35	35	5	5	-	30	35
4		30	30			-	25	30
6		25	25			-	20	25
8		20	25			-	15	25
12		20	15			-	15	15

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
 上層路盤 : 粒度調整碎石(M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

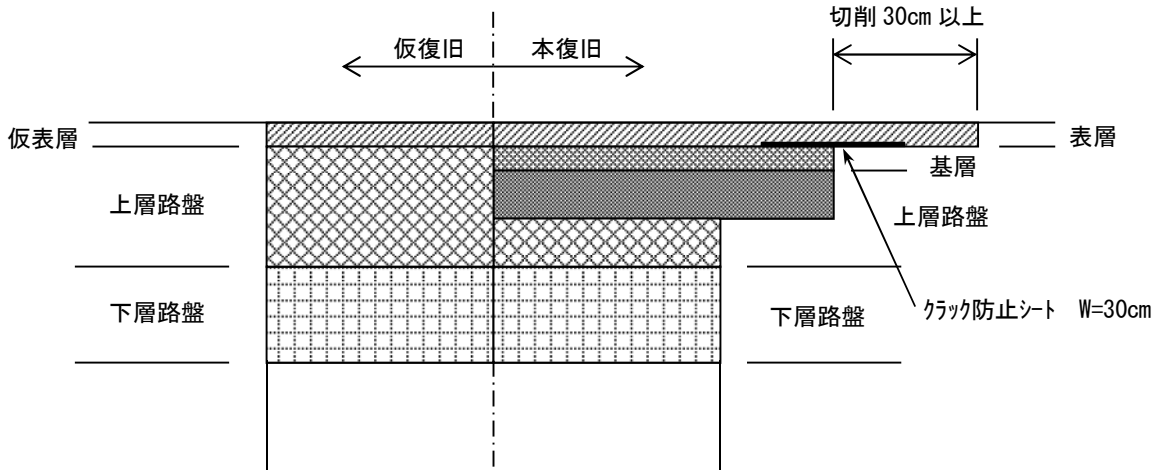
〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※
 基層 : ②粗粒度アスコン(20)
 上層路盤 : 粒度調整碎石(M-25 or M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルト I 型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (交差点部および道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホリマー改質アスファルト II 型 (動的安定度(DS)1,500回/mm以上)

設計 CBR が判明している道路

N6 (i) (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $1,000 \leq T < 2,000$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
6	5	25	35	5	5	5	15	35
8		30	20				20	20
12		25	15				15	15
20		20	12				10	12

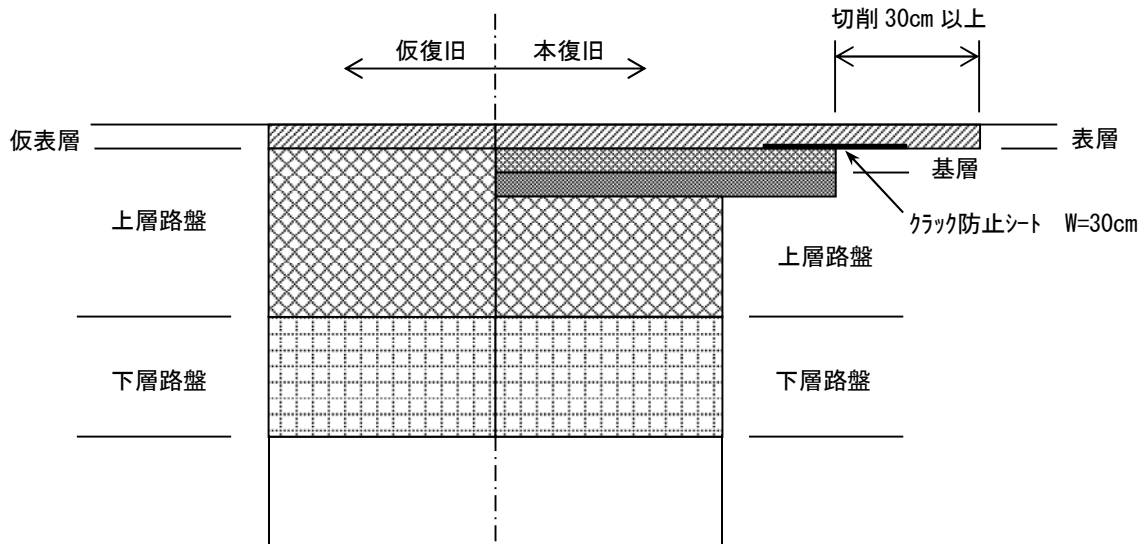
- 〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
 上層路盤 : 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)
- 〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン (新 20FH) . . . ※
 基層 : ②粗粒度アスコン (20)
 上層路盤 : ①アスファルト安定処理 (25), 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし, 下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6% を超える箇所	⑦密粒度アスコン (新 20FH) 再生材 + ホリマー改質アスファルト I 型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (交差点部および道路区分)	⑥密粒度アスコン (新 20FH) ホリマー改質アスファルト II 型 (動的安定度 (DS) 1,500 回/mm 以上)

設計 CBR が判明している道路

N6 (ii) (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $2,000 \leq T < 3,000$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
6	5	40	30	5	5	5	30	30
8		35	25				25	25
12		30	20				20	20
20		25	12				15	12

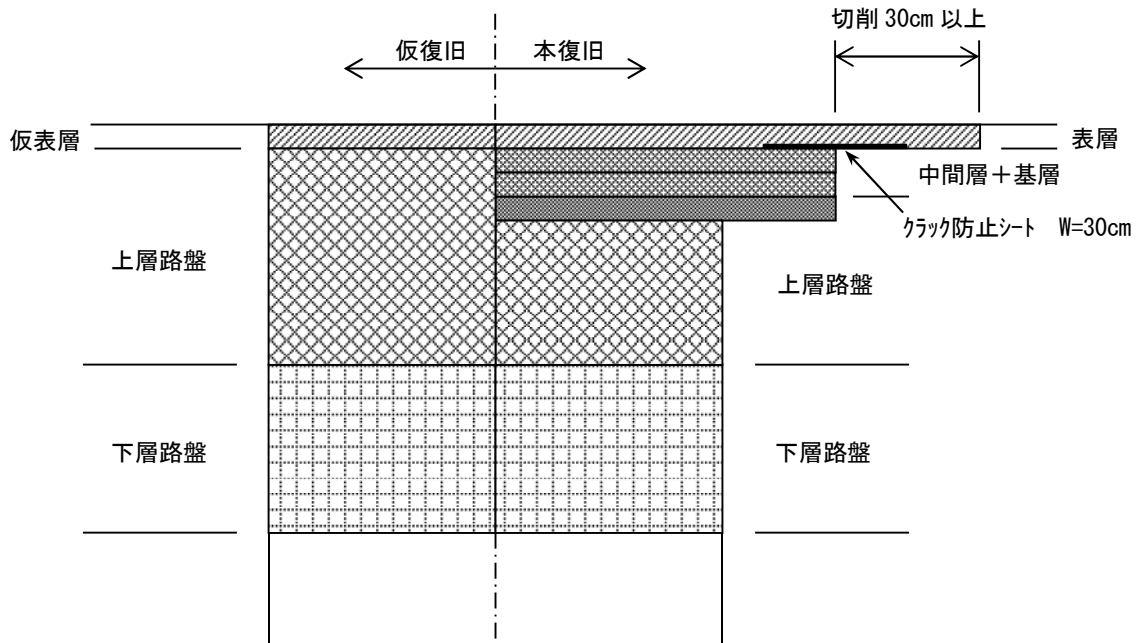
- 〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
 上層路盤 : 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)
- 〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン (新 20FH) . . . ※
 基層 : ②粗粒度アスコン (20)
 上層路盤 : ①アスファルト安定処理 (25), 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)
 下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6% を超える箇所	⑦密粒度アスコン (新 20FH) 再生材 + ホリマー改質アスファルト I 型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (交差点部および道路区分)	⑥密粒度アスコン (新 20FH) ホリマー改質アスファルト II 型 (動的安定度 (DS) 1,500 回/mm 以上)

設計 CBR が判明している道路

N7 (舗装計画交通量 (台/日・方向) : 3,000 ≤ T)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	中間層 + 基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 砕石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 砕石	クラッシャーラン
6	5	50	40	5	5+5	5	35	40
8		45	35				30	35
12		30	35				15	35
20		30	20				15	20

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

上層路盤 : 粒度調整砕石(M-40)

下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホ^レリマ-改質アスファルトⅡ型(動的安定度(DS)3,000回/mm以上)

中間層, 基層 : ②粗粒度アスコン(20)

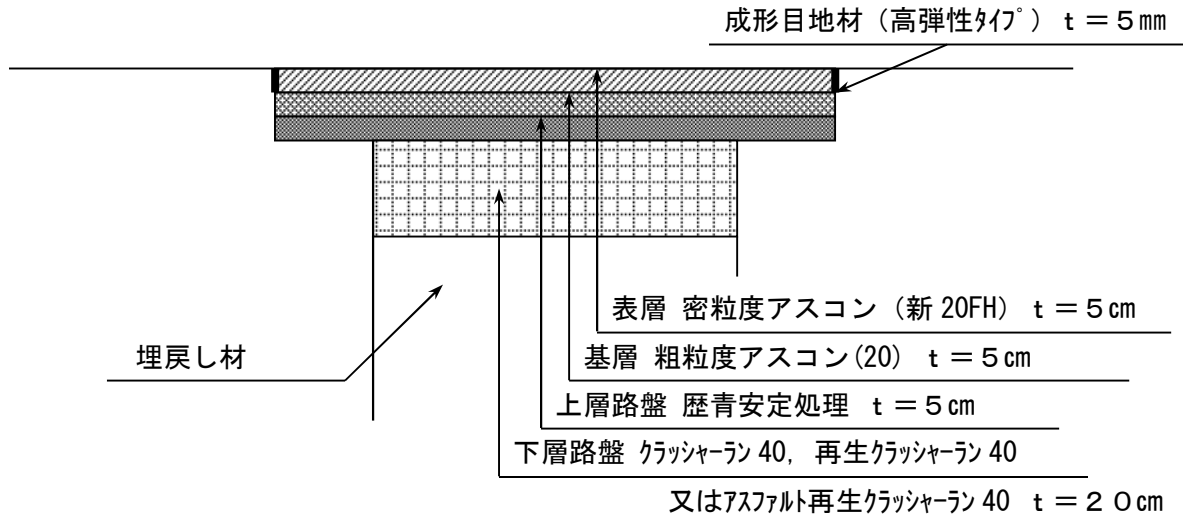
上層路盤 : ①アスファルト安定処理(25), 粒度調整砕石(M-40)

下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

設計 CBR が判明していない道路

A 断面 (都市計画街路及び主要幹線道路)

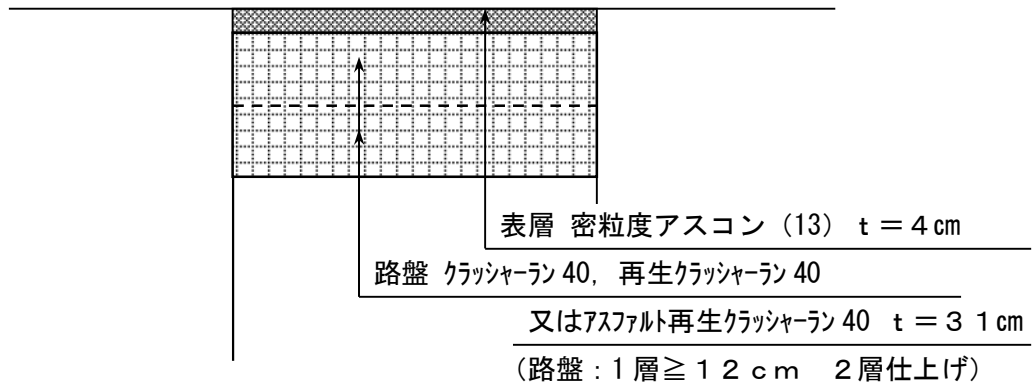
本 復 旧



※埋戻し材 (山砂、良質土又は改良土 $\geq \text{CBR}8$ グリズリアンダー材 $\geq \text{CBR}12$)

※表層工において、必要に応じ、基層と在来舗装のジョイント部にクラック防止シートを施すこと。

仮 復 旧

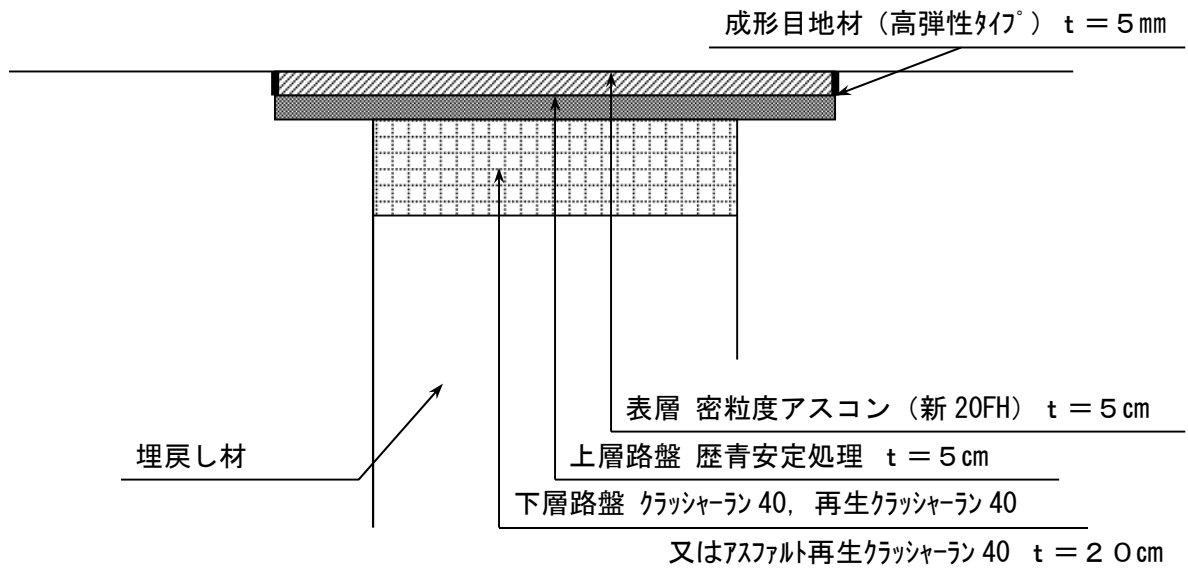


区分	適用	混合物の種類
一般部	橋面舗装 消融雪施設設置箇所	密粒度アスコン (新 20FH) 改質 I 型
すべり止め	縦断勾配 6% を超える 箇所	
交差点部	交差点前後 50m 程度 (交差点内を含む)	密粒度アスコン (新 20FH) 改質 II 型 (DS1500 以上)

※上記表層材料を標準とするが、人力により施工を行う場合、密粒度アスコン 13F を使用することができる。

設計 CBR が判明していない道路

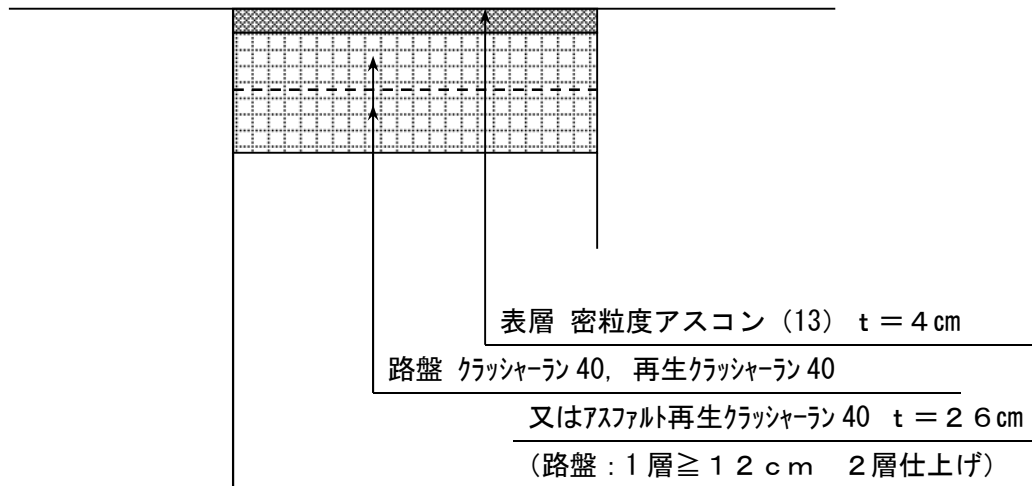
B 断面 (一般道路)
本 復 旧



※埋戻し材 (山砂、良質土又は改良土 \geq CBR8 グリズリアンダー材 \geq CBR12)

※表層工において、必要に応じ、上層路盤と在来舗装のジョイント部にクラック防止シートを施すこと。

仮 復 旧



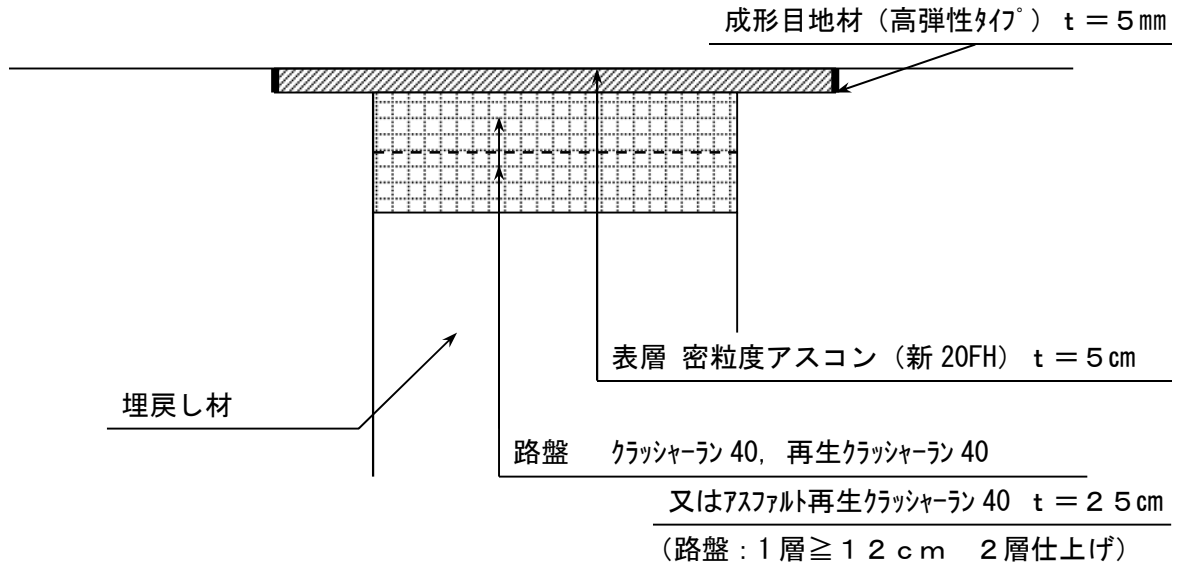
区分	適用	混合物の種類
一般部	橋面舗装 消融雪施設設置箇所	密粒度アスコン (新 20FH) 改質 I 型
すべり止め	縦断勾配 6%を超える 箇所	

※上記表層材料を標準とするが、人力により施工を行う場合、密粒度アスコン 13F を使用することができる。

設計 CBR が判明していない道路

C 断面 (幅員 6 m 以下の生活道路で全幅打換えのとき)

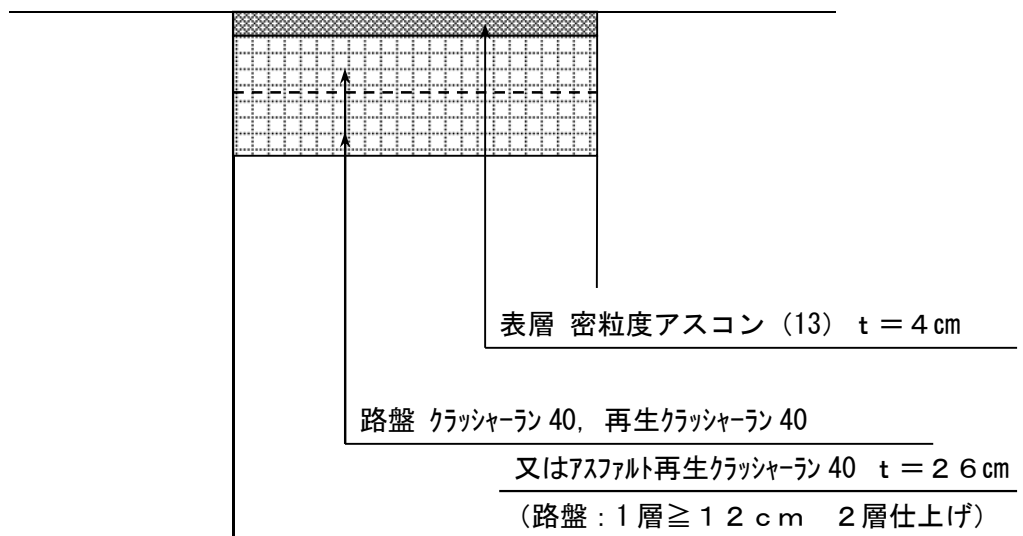
本 復 旧



※埋戻し材 (山砂、良質土又は改良土 $\geq \text{CBR}8$ グリズリアンダー材 $\geq \text{CBR}12$)

※成形目地材は、在来舗装とのジョイント部に施工すること。

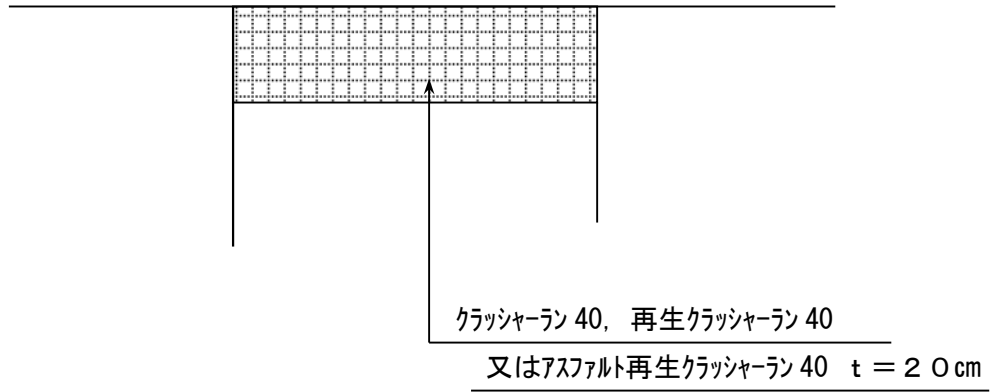
仮 復 旧



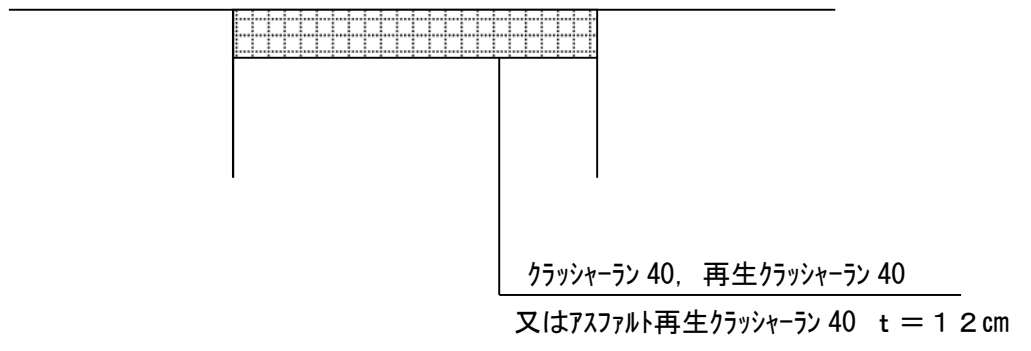
区分	適用	混合物の種類
一般部	橋面舗装 消融雪施設設置箇所	密粒度アスコン (新 20FH) 改質 I 型
すべり止め	縦断勾配 6% を超える 箇所	

砂利道復旧

砂利道復旧

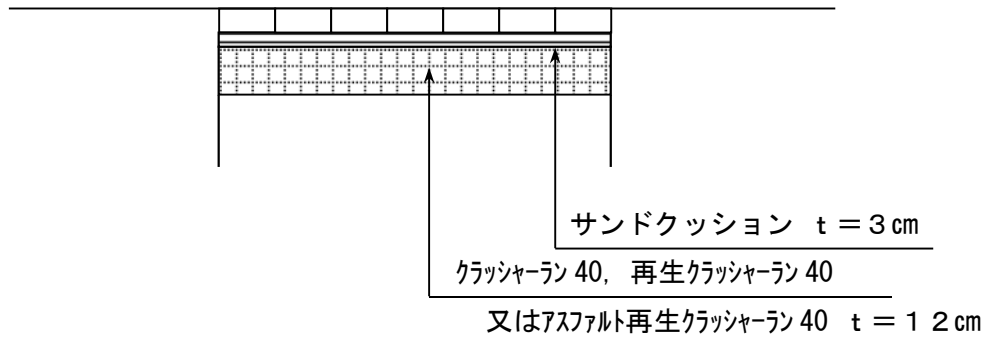


砂利散歩道



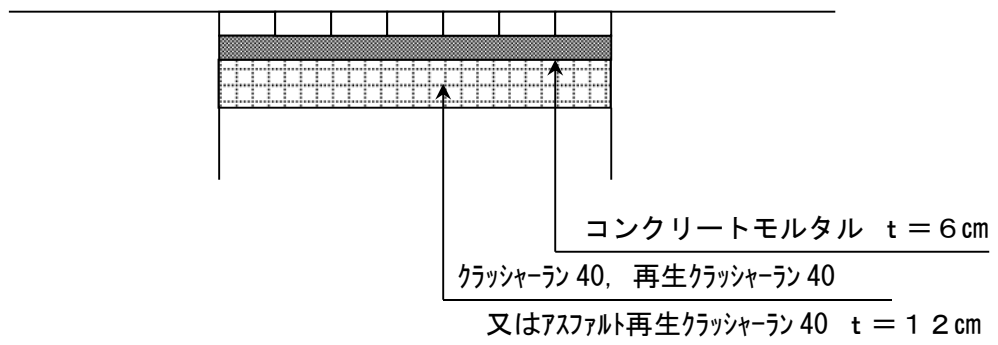
歩道舗装復旧

平板ブロック 1

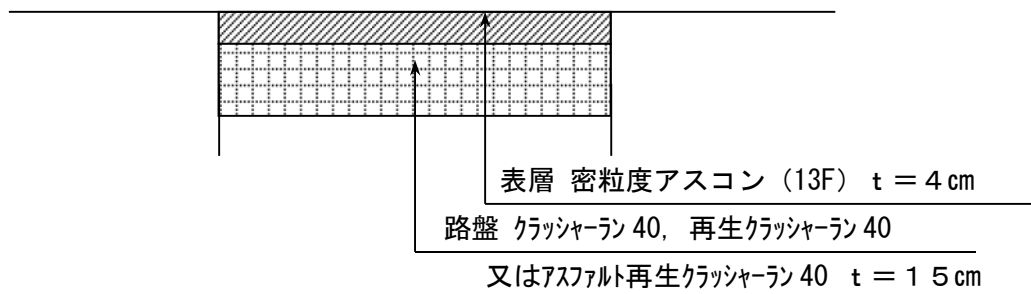


平板ブロック 2

商店街における化粧ブロックなど現道が
コンクリートベースのもの



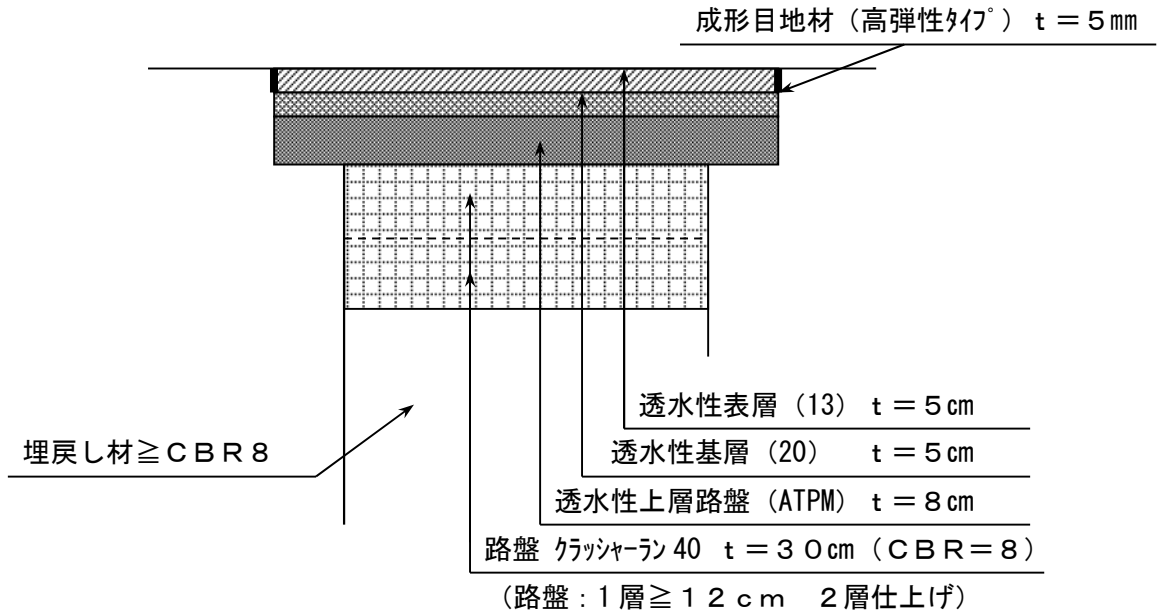
アスファルト舗装



※現道の舗装構成に合わせることを原則とし、全幅打換える場合は上記構成とすること。

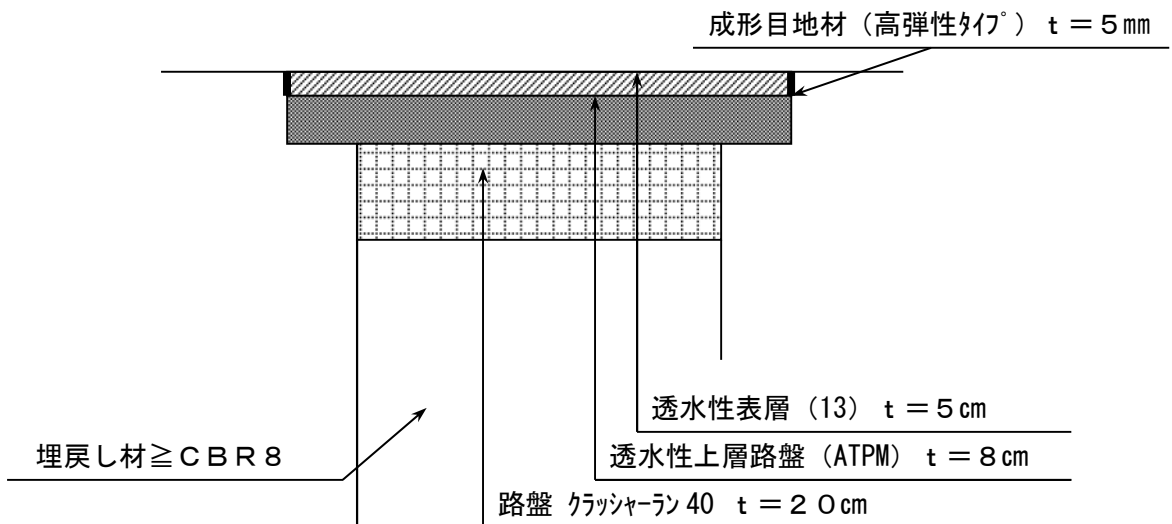
A 断面 (都市計画街路及び主要幹線道路)

本 復 旧



B 断面 (一般道路)

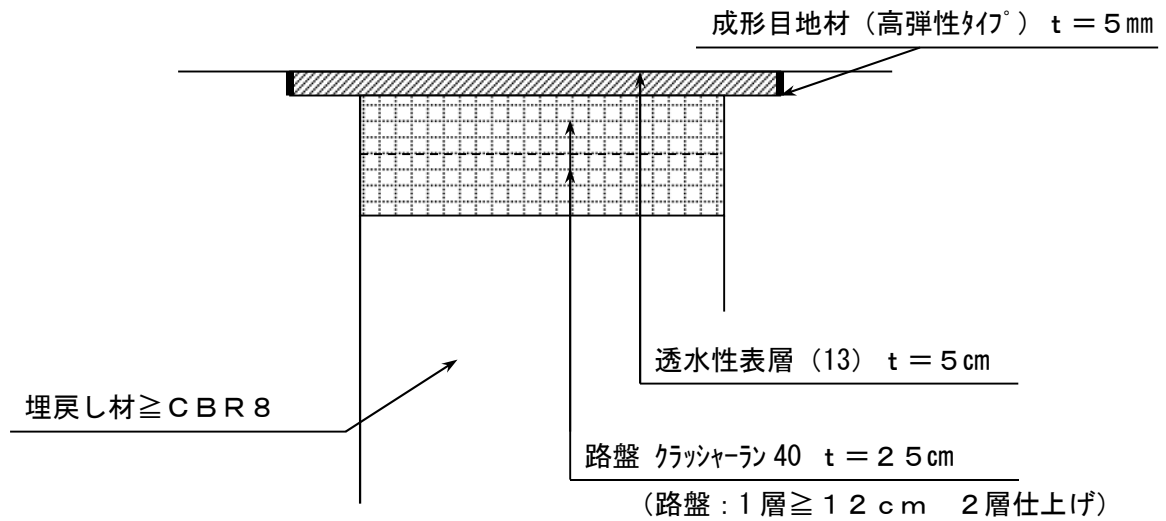
本 復 旧



※透水性舗装は、新潟市舗装研究会による「車道透水性舗装の手引き」(平成19年度改定版)に準ずること。

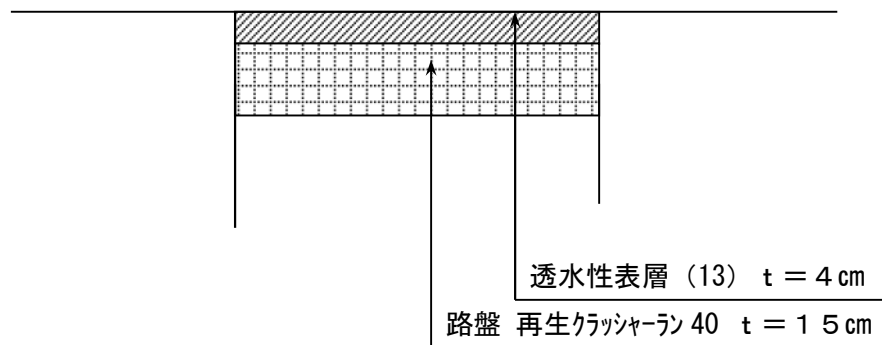
C 断面 (幅員 6 m 以下の生活道路で全幅打換えのとき)

本 復 旧



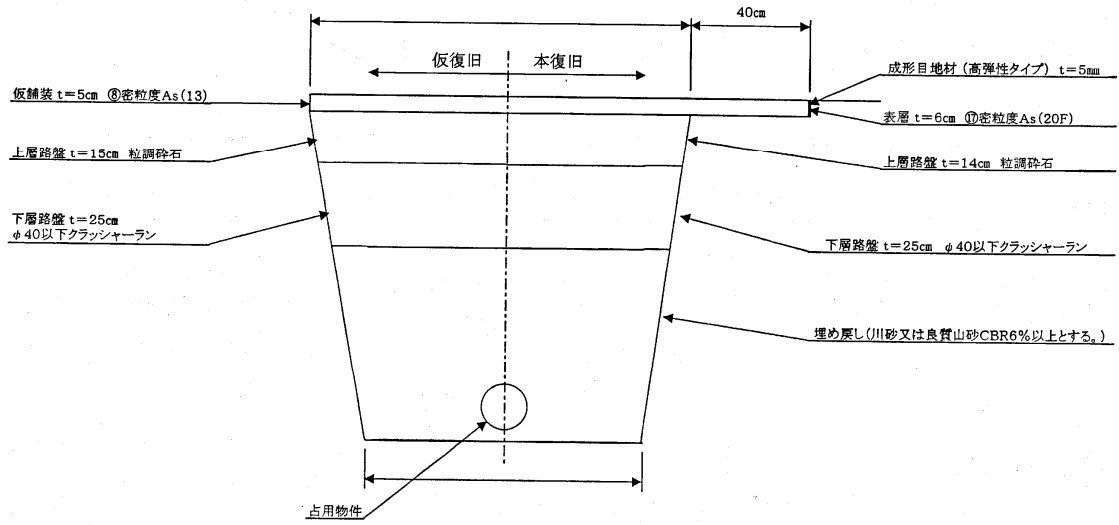
※成形目地材は、在来舗装とのジョイント部に施工すること。

歩 道



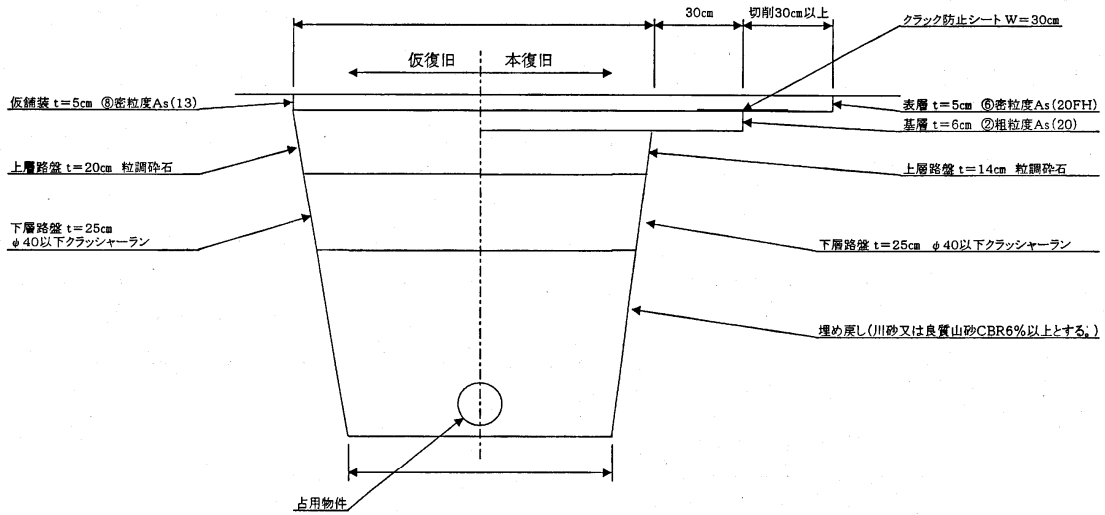
※透水性舗装は、新潟市舗装研究会による「車道透水性舗装の手引き」(平成 19 年度改定版)に準ずること。

A交通 非スベリ止復旧断面図



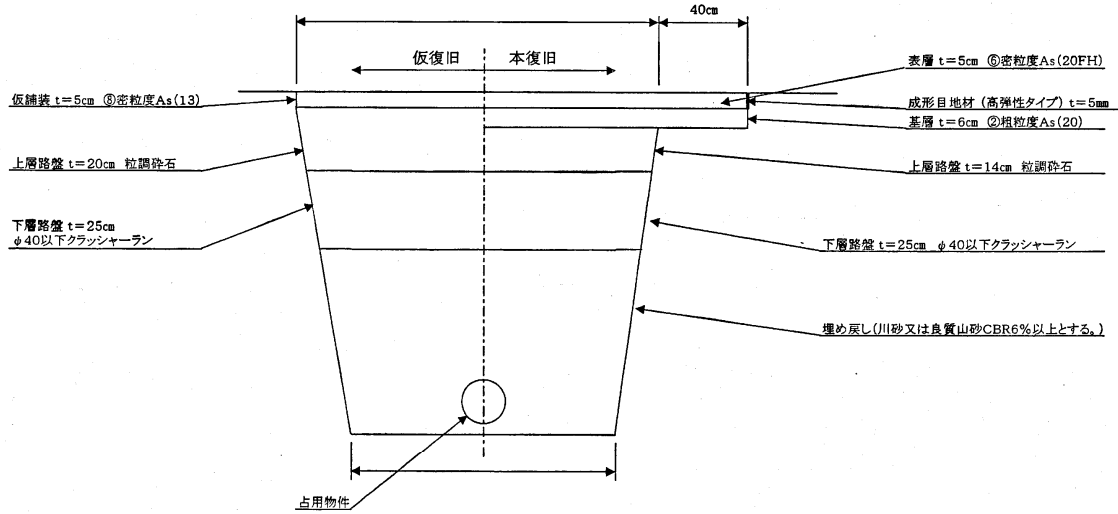
交通	区分	適用	改質	混合物の種類
L ・ A	一般部	橋面舗装	改質Ⅰ型	⑩密粒度アスコン(20F)
		消融警施設設置箇所		⑧密粒度アスコン(20F)
	すべり止め	縦断勾配6%以上		⑦密粒度アスコン(20FH) ⑨密粒度アスコン(20FH)改質Ⅰ型再生材入り

B交通 非スベリ止復旧断面図



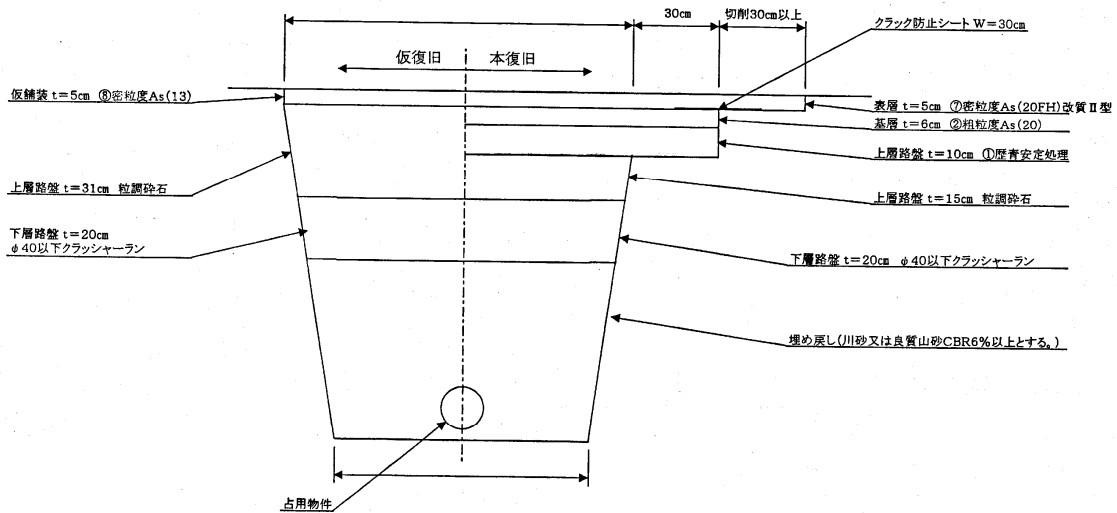
交通	区分	適用	改質	混合物の種類
B	一般部	橋面舗装	改質Ⅰ型	⑦密粒度アスコン(20FH)
		消融警施設設置箇所		⑨密粒度アスコン(20FH) 改質Ⅰ型再生材入り
	すべり止め	縦断勾配6%以上		改質Ⅱ型(DS1500以上)
	交差点部	交差点前後50m程度 (交差点内を含む)		

B交通 非スベリ止復旧断面図 (小規模引込み箇所)



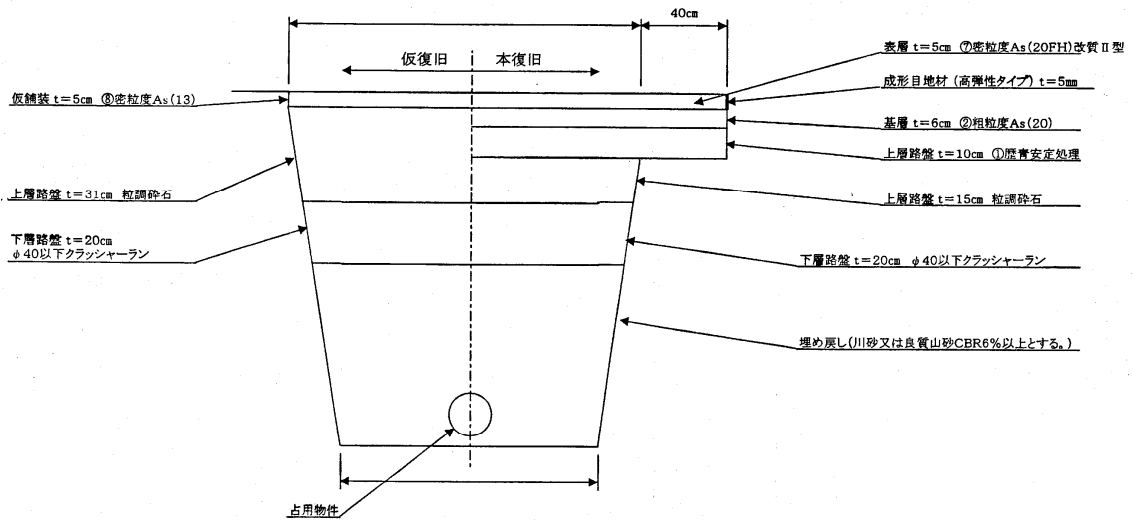
交通	区分	適用	改質	混合物の種類
B	一般部	橋面舗装 消融雪施設設置箇所	改質Ⅰ型	⑦密粒度アスコン(20FH) 〔③密粒度アスコン(20FH) 改質Ⅰ型再生材入り〕
	すべり止め	縦断勾配6%以上		
	交差点部	交差点前後50m程度 (交差点内を含む)	改質Ⅱ型 (DS1500以上)	⑦密粒度アスコン(20FH)

C交通 非スベリ止復旧断面図



交通	区分	適用	改質	混合物の種類
C以上	一般部	原則として施工箇所全部 交差点部等の、特に流動が著しい箇所は基層 も含む。	改質Ⅱ型 (DS1500以上)	⑦密粒度アスコン(20FH)

C交通 非スベリ止復旧断面図 (小規模引込み箇所)



交通	区分	用途	改質	混合物の種類
C以上	一般部	原則として施工箇所全部 交差点部等の、特に流動が著しい箇所は基層も含む。	改質Ⅱ型 (DS1500以上)	⑦密粒度アスコン(20FH)

国 道

仮復旧

本復旧

430	50	密粒度As	密粒度As(20FH)	430	
	50	粗粒度As(20)	粗粒度As(20)		
	330		As安定処理		As安定処理
			粒調碎石		粒調碎石
150		再生クラッシャーラン φ40	再生クラッシャーラン φ40		
		100			

国道(ベンガラ舗装)

仮復旧

本復旧

430	100	粗粒度As(20)	密粒度As(20FH)	430	
	80	As安定処理	As安定処理		
	100	粒調碎石	粒調碎石		
	150		再生クラッシャーラン φ40		再生クラッシャーラン φ40
			100		

国道 歩 道

仮復旧

本復旧

190	40	粗粒度As	密粒度As(13)	190
	150		再生クラッシャーラン φ40	

(Ⅲ) しゅん工図作成要領

1 目的

この要領は、新潟市水道局（以下「局」という。）に提出するしゅん工図面類の作成基準であり、工事完成後における維持管理の適正を図ることを目的とする。

2 適用

- (1) この要領は、配水管の新設、変更または撤去工事で当該受注者が工事標準仕様書に基づき、当局に提出するしゅん工図面類の作成基準を定めるものである。
- (2) この要領に定めない項目は、「製図通則 JIS Z8310」、土木学会制定「土木製図基準」をはじめ製図関係の規格規定に準拠するものとする。

3 しゅん工図面の種類、規格、提出部数、品質

受注者は当該工事が完了後、速やかにしゅん工図面類（表-1）を作成し、提出するものとする。

表-1

種類	規格	提出部数
工事しゅん工図（原図）	A2（A1）	1部
仕切弁・止水栓位置図（原図）	A4	1部
工事しゅん工図	A2（A1）	1部
仕切弁・止水栓位置図	A4	1部

(1) 図面と規格

図面は、総てA列規格とし、仕上げ寸法は仕切弁・止水栓位置図を除きA2版を原則とするが、A2版に作成することが適当でないと局が認めた場合は、A1版とすることが出来る。

また、仕切弁・止水栓位置図についてはA4版に限るものとする。

表-2（図面寸法）

呼び方	A1	A2	A4
寸法 mm	594×841	420×594	210×297

(2) 図面の品質

しゅん工図面の用紙は、下地が白く図がきれいに仕上がる良質なものを図面用紙をいためないように保管ケース等に入れて提出すること。

4 輪郭と標題欄及び記載内容

図面の輪郭と標題欄の記載内容については、次項のとおり設けるものとする。

図-1

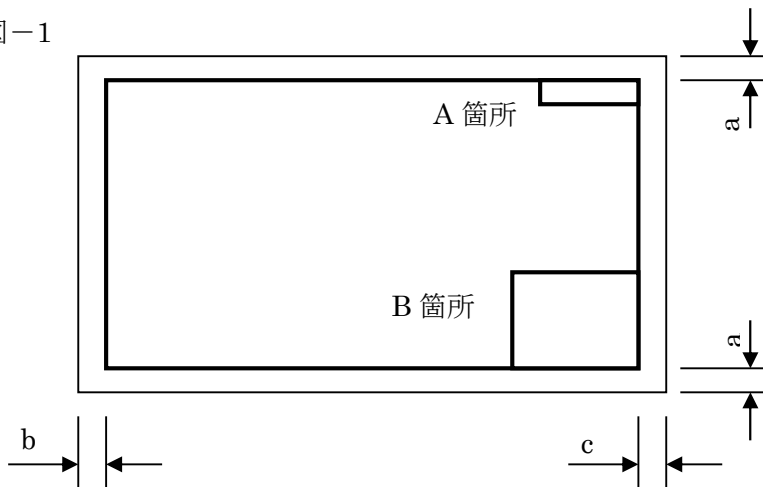


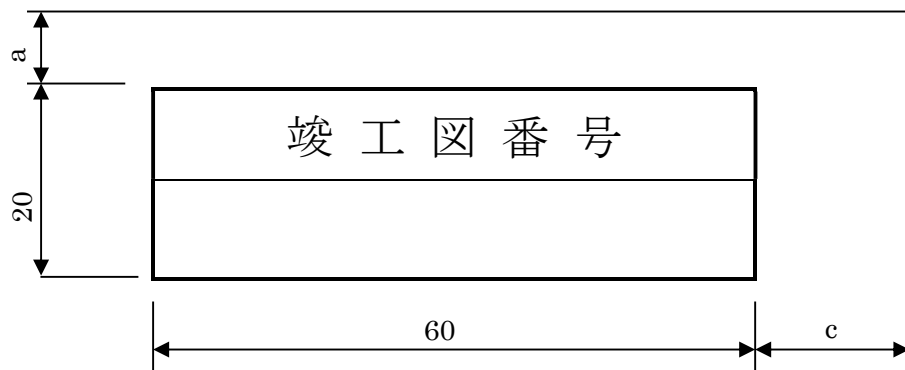
表-3 (輪郭寸法)

単位 (mm)

図面規格		A1	A2	A4
輪郭寸法	a	10	10	15
	b	32	32	32
	c	20	20	13

A箇所

(単位 : mm)



B箇所

(単位：mm)

100		c			
100	新潟市水道局				
	工事番号	〇〇	年度	第 号	
	工事名				
	工事場所	地内			
	図 名	図			
	縮 尺				
	図面番号	第 号	(全 葉)		
	しゅん工 年月日	〇〇	年	月 日	
	施工者				
	管工事				
	総括監督員	主任監督員	設 計 者	担当監督員	
	a				

5 文字・線及び管路・施工区分の表示

文字・記号及び線は濃度を一定とし、均一なラインでシャープな記入をしなければならない。

(1) 文字

- ①文字（数字を含む）は明瞭に書き、横書きを原則とする。
- ②漢字は楷書で、仮名は平仮名を用いるのを原則とするが、品名・名称が外来語の場合は片仮名を用いる。
- ③数字はアラビア数字を用いる。

(2) 線

- ①作図に使用する線の種類は、実線・破線・一点鎖線の3種類を原則とする。
- ②線の太さは、必要に応じて適切な太さとするものとし、最小寸法は下記（表-4）以下になってはならない。

表-4 (線・文字記号の最小基準)






図面規格	A1	A2	A4
線の太さ (mm)	0.3	0.2	0.1
文字・記号の太さ (mm)	0.3	0.2	0.1

(3) 管路・施工区分の表示

平面図上に表示する管・弁栓類の施工区分（新設・既設・未撤去管）は、次の基準により行う。

- ①新設管路は必ず正確な位置に記入する。
- ②施工区分は管路に沿って上側に記載する。
- ③施工区分表示は施工区分が明確に判断できるように、次ぎのように表示する。

表-5

新設配水管		(太い実線)
既設配水管		(太い一点鎖線)
未撤去管		(細い破線に×印)
新設給水管		(細い実線)
既設給水管		(細い破線)

6 寸 法

寸法は、形状及び位置の完成寸法を示すものとし、単位は m 及び mm を原則とする。

7 縮 尺

しゅん工図の縮尺は、原則として次の基準により記載するものとする。

- ①付近見取図 1 / 2,500
- ②平面図 1 / 200 1 / 250 1 / 500
- ③詳細図 適宜
- ④横断面、路面復旧、掘削断面図 適宜
- ⑤給水立面図 Free
- ⑥仕切弁、止水栓位置図 1 / 200

8 しゅん工図面表示記号

(1) 配水管表示記号

しゅん工図面の平面図表示記号は下記(表-6)とする。

表-6(平面図表示記号)

種別	名 称	記 号	種別	名 称	記 号
継 手 の 形 式	印籠ソケット		異 形 管	三受十字管	
	メカニカル(A・K 形)			二受T字管	
	メカニカル(KF 形)			三受T字管	
	メカニカル(SⅡ 形)			受挿片落管	
	メカニカル(S 形)			挿受片落管	
	メカニカル(SⅡ 形) (ライナ使用)			曲管	
	メカニカル(T 形)			両受曲管	
	石綿セメント管			フランジ付T字管	
	石綿鑄鉄(ギボルト)			短管1号	
	CAジョイント			短管2号	
	AVジョイント			フランジ短管	
	ドレッサージョイント			栓(メカニカル)	
	メカニカル(NS 形)			継ぎ輪	
	メカニカル(NS 形) (ライナ使用)			継ぎ輪(長尺継ぎ輪)	
メカニカル(GX 形)					
メカニカル(GX 形) (ライナ使用)					
継 手 の 形 式	フランジ(RF×RF)		P-Link		
	フランジ(RF×GF)		G-Link		
			特殊継ぎ輪		

※ 継手の記号は形式記号で表示する

表-6(平面図表示記号)続き

種別	名 称	記 号	種別	名 称	記 号
異形管	伸縮可撓管(ベローズ形)		仕切弁	仕切弁	
	伸縮可撓管(ボール形)			仕切弁(不断水式)	
	割T字管			仕切弁(不断水式+バタフライ弁)	
		逆止弁			
押輪	漏水防止押輪		空気弁・消火栓	空気弁	
	特殊押輪(メカニカル)			消火栓	
	T形離脱防止金具			空気弁付消火栓	
		排水栓			
				空気弁付排水栓	

(φ75 水道配水用ポリエチレン管関係)

名 称	記 号	名 称	記 号
HPPE 直管 φ75		メカニカル三方チーズ	
EFソケット φ75		90° メカニカルバンド φ75 (HPPE)	
EFチーズ φ75×φ75		45° メカニカルバンド φ75 (HPPE)	
フランジ付 EFチーズ φ75×φ75		22° 1/2 メカニカルバンド φ75 (HPPE)	
EF90° ベンド φ75		11° 1/4 メカニカルバンド φ75 (HPPE)	
EF45° ベンド φ75		メカニカルソケット φ75 (HPPE×HPPE)	
EF22° 1/2 ベンド φ75		メカニカルソケット φ75 (HPPE×VP)	
EF11° 1/4 ベンド φ75		メカニカルソケット φ75 (HPPE×DIP)	
HPPE. キャップ φ75		メカニカルフランジ短管 (RF) φ75	
HPPE. フランジアダプタ(RF) φ75		メカニカルフランジ短管 (GF) φ75	
HPPE. レジューサー φ75×φ50		メカニカルキャップ φ75 (HPPE)	
HPPE. フランジ付T字管 φ75×φ75		サドル付分水栓 (HPPE・メカ) φ75×φ50~20	
HPPE. K・T・NS 形ダクタイル鋳鉄管 異種管継手 φ75		サドル付分水栓 (HPPE・EF) φ75×φ50~20	
HPPE. 挿し口付ソフトシール弁 φ75			

(φ50 水道配水用ポリエチレン管関係)

名 称	記 号	名 称	記 号
HPPE 直管 φ50	—	HPPE ベンド 22° 1/2 φ50	↙
EFソケット φ50	⇕	HPPE キャップ φ50	⊥
HPPE チーズ φ50×φ50	⊥	サドル付分水栓 (HPPE・メカ) φ50×φ25~20	⊕
HPPE ベンド 90° φ50	└	サドル付分水栓 (HPPE・EF) φ50×φ25~20	⊖
HPPE ベンド 45° φ50	↘		

(水道配水用ポリエチレン管、新潟市仕様金属継手材料関係)

名 称	記 号	延 長(mm)
HPPE 用金属ソケットφ50	⊕	11
HPPE 用伸縮金属ソケットφ50	⊕	120
PP-HPPE 用金属ソケットφ50	⊕	8
HPPE 用おねじ付回転金属ソケットφ50	⊕	76
HPPE 用おねじ付回転金属ソケットφ50×φ40	⊕	65
HPPE 用めねじ付金属ソケットφ50	⊕	6
HPPE 用めねじ付分水栓回転金属ソケットφ50	⊕	44
HPPE 用金属エルボφ50	⊕	116
PD 用おねじ付ソケットφ50 (既存品)	⊕	50
VB-HPPE 用金属ソケットφ50	⊕	21
PP-HPPE 用伸縮金属ソケットφ50	⊕	117
VB-HPPE 用伸縮金属ソケットφ50	⊕	123
VB-HPPE 用伸縮金属チーズφ50	⊕	203
PP-HPPE 用金属チーズφ50	⊕	120
HPPE 用伸縮金属チーズφ50	⊕	213
HPPE 用金属パイプエンドφ50	⊕	0

(2) 給水管表示記号

しゅん工図の平面図(管路図)表示記号及び立面図表示記号は下記(表-7)とする。

表-7 (給水管路図表示記号及び立面図表記記号)

名 称	記 号	
	平面図(管路図)	立面図(給水立面図)
サドル分水栓(メカ)		
サドル分水栓(EF)		
止水栓		
配止栓		
ボール止水栓(φ50)		
コック		
VG継手		
メータ		
逆止弁内蔵ボール止水栓		
フレキシブル継手		
VPエルボ		
VPソケット		
VPチーズ		
GPエルボ		
GPソケット		

表-7 (給水管路図表示記号及び立面図表記記号) 続き

名 称	記 号	
	平面図(管路図)	立面図(給水立面図)
GPチーズ		
GPニップル		
PP継手エルボ		
PP継手ソケット		
PP継手チーズ		
特殊鋼管継手伸縮チーズ VB×PP		
特殊鋼管継手ソケット VB×PP		
伸縮ソケット VB×PP		
PP継手おねじ付ソケット(回転式)		
PP継手めねじ付ソケット		
PP継手パイプエンド		
PP継手分・止水栓用ソケット		
PP継手分・止水栓用ソケット(回転式)		
特殊鋼管継手オス		
PP継手用フレキシブル継手(回転式)		
異形		
基準消火栓(空気弁付消火栓含む)		
基準空気弁		
基準仕切弁		
基準コック(ボール止水栓含む)		
基準排水栓(空気弁付排水栓含む)		

※ 上記記号は、給水管路の詳細を表すときの表示記号である

※ 標記にない記号に関しては、各協会発行の資料に準ずる

(3) 仕切弁・止水栓位置図表示記号

しゅん工図面の仕切弁・止水栓位置図表示記号は下記(表一8)とする。

表一8 (仕切弁・止水栓位置図表記記号)



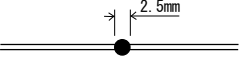
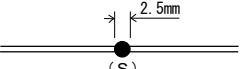
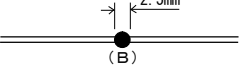
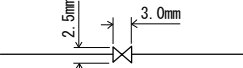
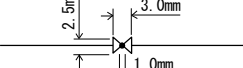
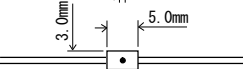
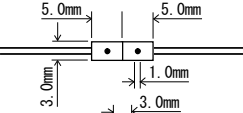

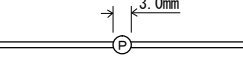
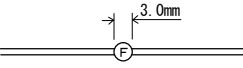
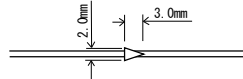
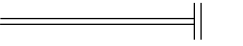
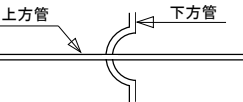





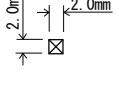
種別	名 称	記 号	備 考
管 口 径	50mm 以下		一点鎖線
	75mm 以上		線の太さは 1.0mm
弁 栓 類	仕切弁		
	ソフトシール弁		
	バタフライ弁		
	コック		
	ボール止水栓 (φ50)		
	消火栓		
	区画消火栓		
	空気弁		
	増圧ポンプ		
	排水栓		
そ の 他	片落管		
	栓止め		
	管の交差		

表-8 (仕切弁・止水栓位置図表示記号) 続き

種別	名 称	記 号	備 考
工 作 物 記 号	電 柱		
	下水マンホール		
	ガスマンホール		
	電話マンホール		
	電気マンホール		
	官民境界杭		

9 管種等表示記号

管種表示記号は表—8 を用いて記入する。

表—8

名 称	表示記号	規 格
水道用鋳鉄管 (A 形)	A. C I P	JWWA G 102
水道用ダクタイル鋳鉄管 (A 形)	A. D I P	JWWA G 102
水道用ダクタイル鋳鉄管 (K 形)	K. D I P	JIS G 5526・5527
水道用ダクタイル鋳鉄管 (T 形)	T. D I P	JIS G 5526・5527
水道用ダクタイル鋳鉄管 (KF 形)	KF. D I P	JIS G 5526・5527
水道用ダクタイル鋳鉄管 (SII 形)	S II. D I P	JIS G 5526・5527
水道用ダクタイル鋳鉄管 (S 形)	S. D I P	JIS G 5526・5527
水道用ダクタイル鋳鉄管 (NS 形)	NS. D I P	JWWA G 113・114
水道用ダクタイル鋳鉄管 (GX 形)	GX. D I P	JWWA G 120・121
水道用ダクタイル鋳鉄管 (PN 形)	PN. D I P	JDPA G 1046
水道用石綿セメント管	ACP	
配管用ステンレス鋼管	SUS	JIS G 3459
水道用塗覆装鋼管	STW	JWWA G 117
水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	SGP-VB	JWWA G 116
水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	SGP-PD	JWWA K 132
水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	SGP-PB	JWWA K 132
水道用亜鉛めっき鋼管	SGPW	JIS G 3442
水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管	HIVP	JIS K 6742
水道用硬質ポリ塩化ビニル管	VP	JIS K 6742
水道用鉛管	LP	JIS H 4312
水道用ポリエチレン管	PP	JIS K 6762
水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管	RR. HIVP	JWWA K 129
水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管	RR. VP	JWWA K 127
水道配水用ポリエチレン管	HPPE	JIS K 144

作図上の留意事項

しゅん工図は、次表に掲げる事項を留意し作成する。

表-9 (表示単位・縮尺・方位・必要事項)

種別	表示 単位	縮尺	方位	必要事項
附近見取図	/	1:2,500	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	<ul style="list-style-type: none"> ①附近見取図は、施工管路を示すものであり、町名・目標となる建物などの名称を記入する。 ②施工管路の位置を太い線で記入、若しくは円で囲こみ工事箇所を記入するなど施工箇所を明示すること。
平面図	m	1:500 (1:200、 1:250 小 規模工 事に適 用)	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	<ul style="list-style-type: none"> ①施工管路の延長は平面延長と管路延長の2種類を表示する ②平面延長と管路延長の表示方法は、総延長は少数点第2位以下を四捨五入し少数点第1位で表示する。 ③地形のほか、鉄道・河川(流水方向等)・用水・排水・鉄道・家郭などの名称や必要事項(メーター口径・布設番号7桁など)を記入すること。 ④施工管路及び既設管路の表示方法は5～9を用いる。 ⑤異形管・仕切弁・消火栓・切管などの名称・形状・寸法などを記入する。但し詳細図がある箇所においては、詳細図にこれらを記入する。 ⑥仕切弁・消火栓などはメーカー名を記入する。また限定承認材料を使用の場合は、名称・型式なども記入する。 ⑦布設延長が長く一連作図が困難な場合は、適宜作図分割する。 ⑧施工管路などの表示は、工種・継手・管種・内面ライニング・口径・延長順で記入する。

詳細図	mm	適宜	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	<ul style="list-style-type: none"> ①原則として施工管路は肉付けで表示する。 ②異形管・仕切弁・消火栓・切管などの名称・形状・寸法などを記入する。 ③仕切弁・消火栓などはメーカー名を記入する。 ④必要に応じ、縦断面図・横断面図を作図する。 ⑤他の埋設物の名称・形状・寸法及び施工管路との離隔を記入する。 ⑥構造物・防護・伏越し・添架・推進・水管橋などの詳細部を作図する。 ⑦限定承認材料を使用の場合は、その材料の名称・形状・メーカー名・型式などを表記し承認図を記載する。
横断面図	mm	適宜		<ul style="list-style-type: none"> ①原則として 50m 毎または、道路形態及び占用位置が変わった際に断面図を作図する。(但し、断面形状が同じ箇所については断面記号を連記し 1 つの断面図でもよい。) ②施工管路・既設管路・撤去管路・他の埋設物などの名称・形状・寸法などを記載すること。 ③道路形態などを詳しく記載すること。
路面復旧図	mm	適宜		路面構造を作図すること。
掘削断面図	mm	適宜		掘削断面を作図すること。
給水立面図	m	Free		<ul style="list-style-type: none"> ①基準となる仕切弁・消火栓等から給水分岐までの、管路平面延長を記入する。 部分布設替えでは、基準水道施設から直線で部分布設替始点を結び、そこから布設平面延長で分岐位置を計測する。 現地状況に応じて、任意点からオフセットを複数求めることを可能とし、その考え方を竣工図に明記する事。 単位は m とし、小数点以下第 2 位を四捨五入し第 1 位まで表示すること。 ②給水分岐部からメーター下流まで作図すること。 ③耐摩板を設置した場合は、材料名称・厚さ・長さを明記すること。
仕切弁位置図 止水栓位置図	m	1:200	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	<ul style="list-style-type: none"> ①オフセットの起点は、撤去のおそれのない地先境界・マンホールなどとし、既設仕切弁・コックも同様に、3 点以上の引照点を定めること。電柱は原則として引照点としないこと。 ②引照点との距離寸法は m 単位で、小数点以下第 3 位を四捨五入し、第 2 位まで表示すること。 ③作図は平板測量とする。 ④表示記号は 8 (3) を用いる。

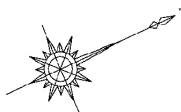
図面名、縮尺を記載する

附近見取図 S = 1/2,500

方向は北を上方とする

工事箇所の記入





方向は北を上方とする

平面図 S = 1/500

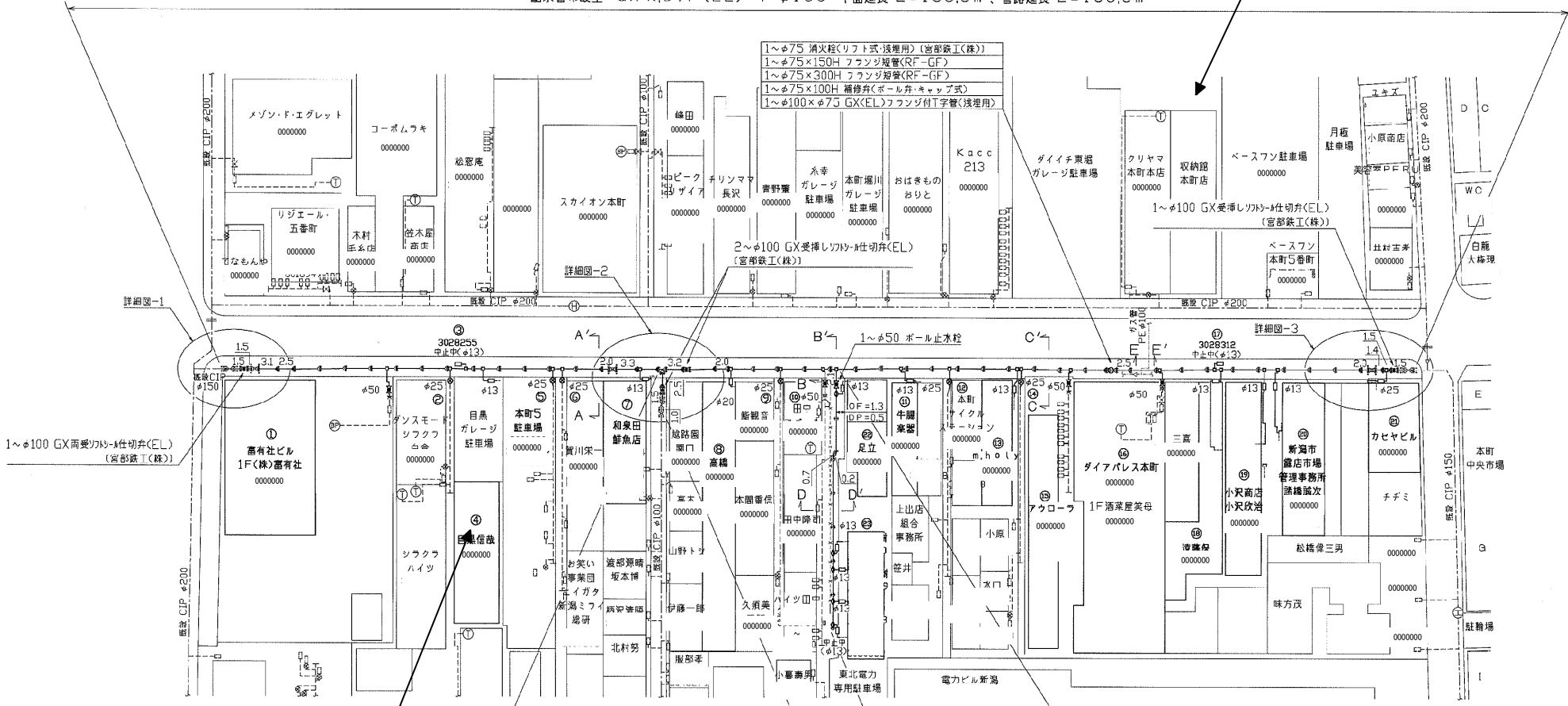
図名、縮尺を記載する

家郭、名称、布設番号 (GIS表示7桁)
メーター口径など記入

配水管布設工 GX・K,DIP (EL) - P φ100 平面延長 L = 185.9m、管路延長 L = 185.9m

- 1~φ75 消火栓(リフト式・挿埋用) (宮部鉄工(株))
- 1~φ75×150H フランジ短管(RF-GF)
- 1~φ75×300H フランジ短管(RF-GF)
- 1~φ75×100H 補修弁(ボール弁・キャップ式)
- 1~φ100×φ75 GX(EL)フランジ付T字管(挿埋用)

2~φ100 GX受挿レリコ-仕切弁(EL)
(宮部鉄工(株))



給水接続番号を記入する

配水管布設工 GX・K,DIP (EL) - P φ100
平面延長 L = 6.6m、管路延長 L = 6.6m

配水管布設工 HPPE φ50
平面延長 L = 39.0m
管路延長 L = 39.0m

配水管材料の管厚まとめ表

口径	継手形状	直管管種	切管管種
φ100	GX形	1種	1種
φ100	K形		1種

* φ100GX、継輪に、GX特殊押輪(GX形継輪用)を使用。
メーカー名: コスモ工業(株)
型番: CMGX

◻ : フィナ使用箇所

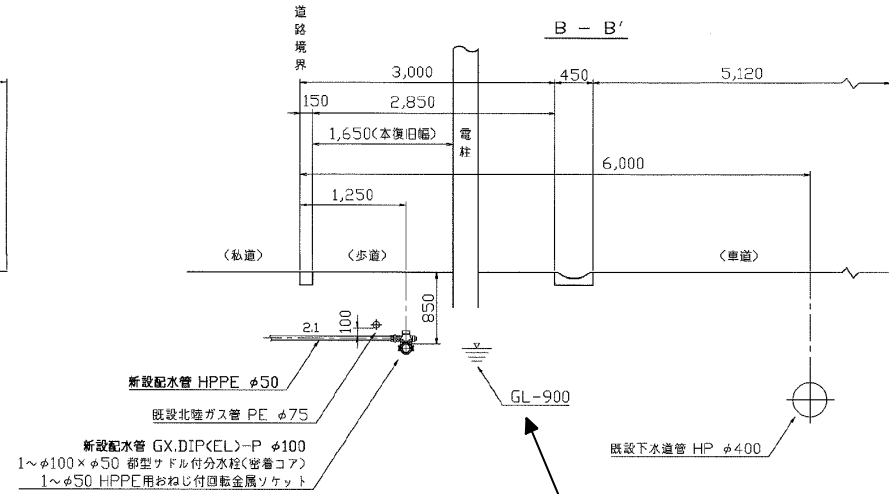
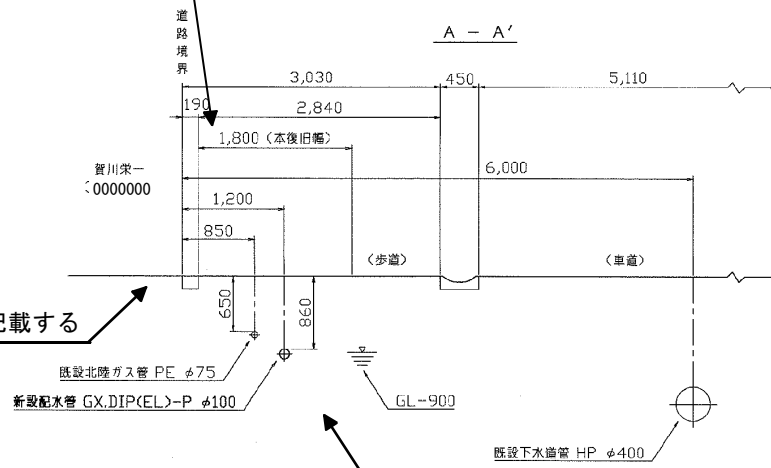
図面名、縮尺を記載する

横断面図 S = 1/50

本復旧幅、オーバーレイ幅を記載する

道路形態を記載する

他の埋設物を記載する



地下水位を記載する

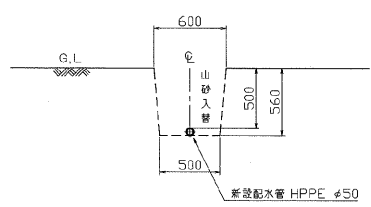
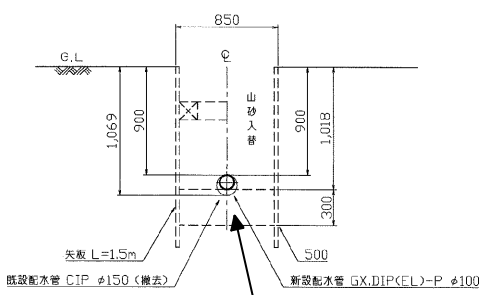
路面復旧図 S = 1/10

路面構造を記載する

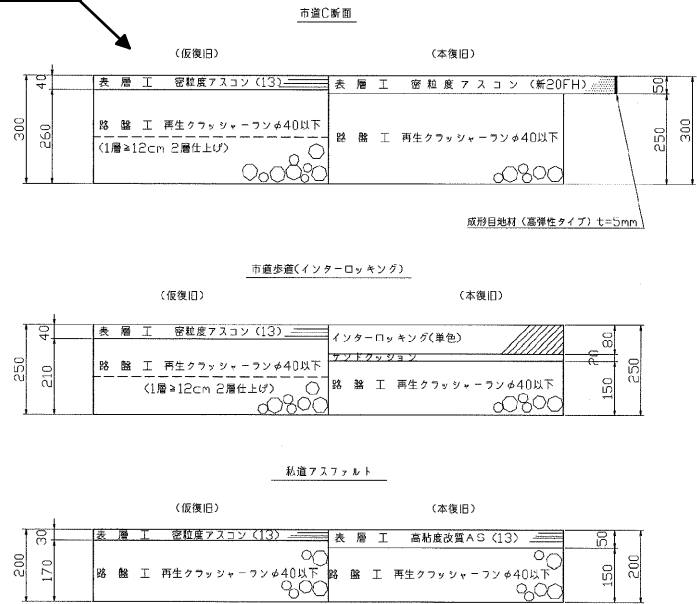
掘削断面図 S = 1/30

φ100布設工

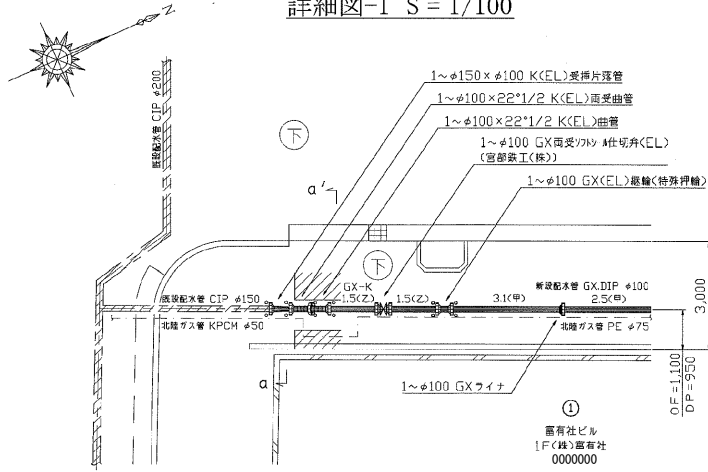
φ50布設工



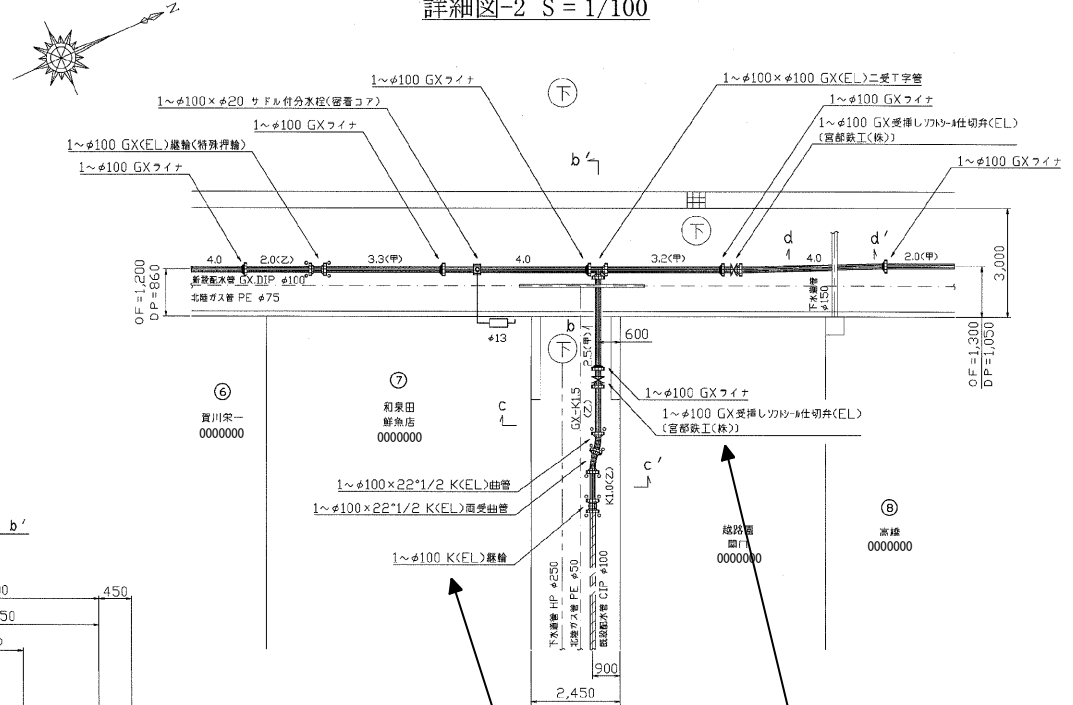
新設配水管を記載する



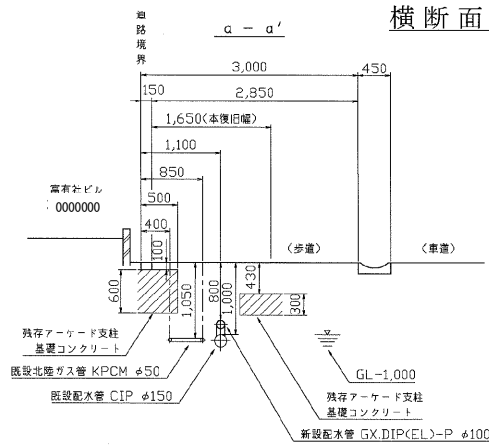
詳細図-1 S = 1/100



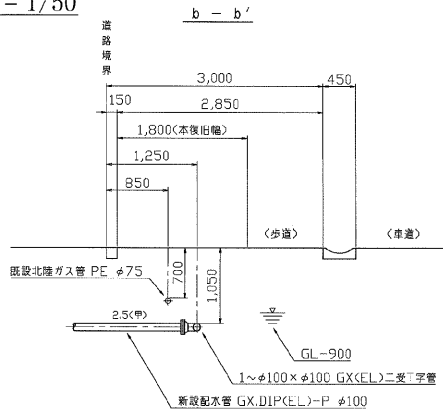
詳細図-2 S = 1/100



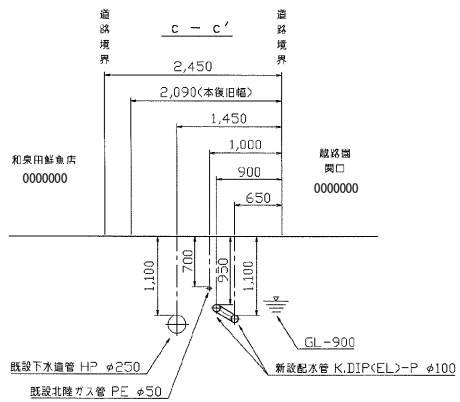
横断面図 S = 1/50



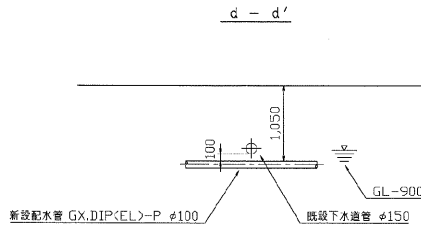
b - b'



縦断面図 S = 1/50



d - d'



メーカー名を記載する

異形管の数量、口径、名称を記載する

図面名、縮尺を記載する

給水立面図① S = Free

・給水管の使用者または所有者
・布設番号 (GIS 7桁表示)

基準点位置からの距離
(単位はm、少数第1位まで表記)

①	中央 太郎
布設番号 NO	1000001

②	東 次郎
布設番号 NO	1000002

③	西 三郎
布設番号 NO	1000003

④	北 四郎
布設番号 NO	1000004

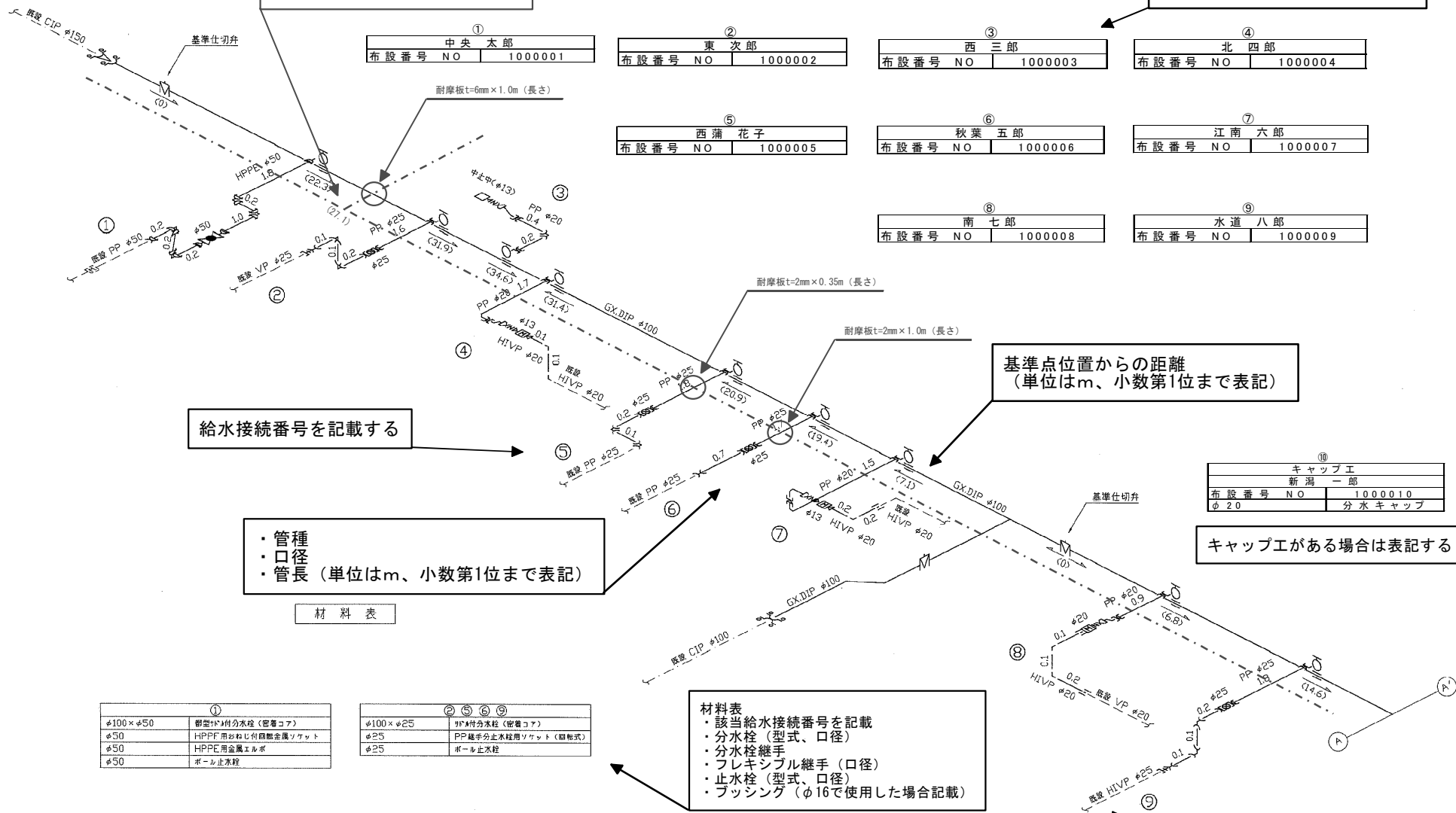
⑤	西 蒲 花子
布設番号 NO	1000005

⑥	秋 葉 五郎
布設番号 NO	1000006

⑦	江 南 六郎
布設番号 NO	1000007

⑧	南 七郎
布設番号 NO	1000008

⑨	水 道 八郎
布設番号 NO	1000009



給水接続番号を記載する

基準点位置からの距離
(単位はm、小数第1位まで表記)

・管種
・口径
・管長 (単位はm、小数第1位まで表記)

⑩	キャップエ
新 潟 一 郎	
布設番号 NO	1000010
φ 20	分水キャップ

キャップエがある場合は表記する

材 料 表

①	φ100×φ50	部型付分水栓 (密着コア)
	φ50	HPPF用おねじ付回転金属ソケット
	φ50	HPPF用金属エルボ
	φ50	ボール止水栓

② ⑤ ⑥ ⑨	φ100×φ25	部型付分水栓 (密着コア)
	φ25	PP継手分止水栓用ソケット (回転式)
	φ25	ボール止水栓

③	φ100×φ20	部型付分水栓 (密着コア)
	φ20	PP継手分止水栓用ソケット (回転式)
	φ20	PP継手エルボ
	φ20	フレキシブル継手
	φ20×φ13	逆ボ止水栓

④ ⑦	1~φ100×φ20	部型付分水栓 (密着コア)
	2~φ20	PP継手分止水栓用ソケット (回転式)
	1~φ20	フレキシブル継手
	1~φ20×φ13	逆ボ止水栓

材料表
・該当給水接続番号を記載
・分水栓 (型式、口径)
・分水栓継手
・フレキシブル継手 (口径)
・止水栓 (型式、口径)
・プッシング (φ16で使用了した場合記載)

⑧	φ100×φ20	部型付分水栓 (密着コア)
	φ20	PP継手分止水栓用ソケット (回転式)
	φ20	フレキシブル継手
	φ20	逆ボ止水栓

既設接続管の管種・口径

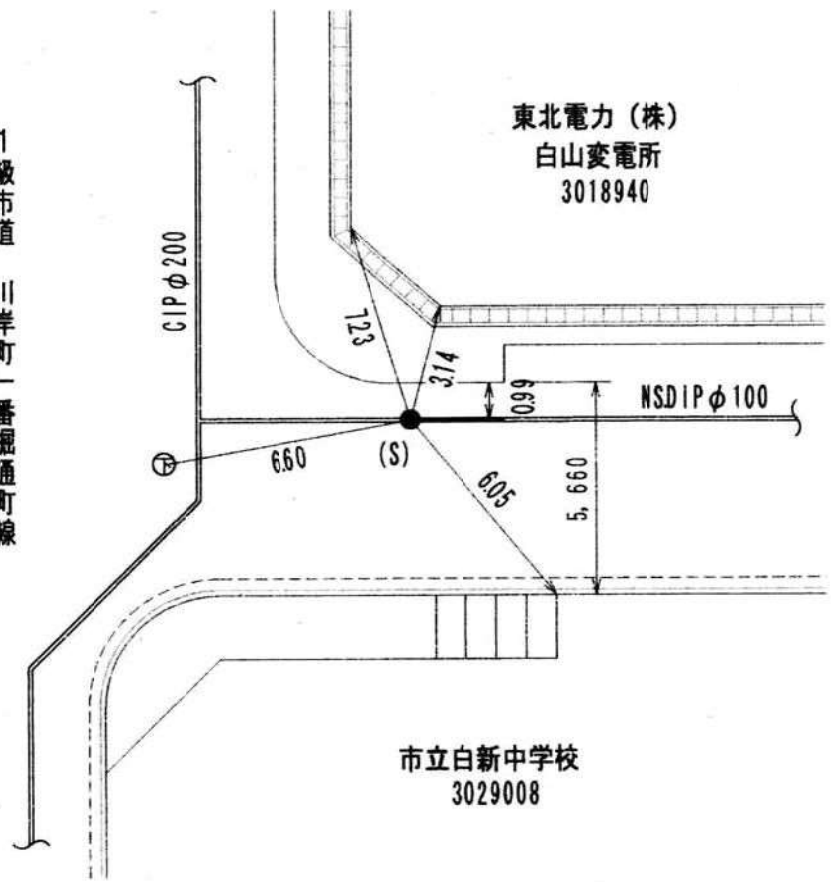
仕切弁 止水栓	位置図番号	設置場所	縮尺	作成年月日
		中央区 川岸町2丁目 地内	S=1/200	令和××年××月××日



↑至市役所

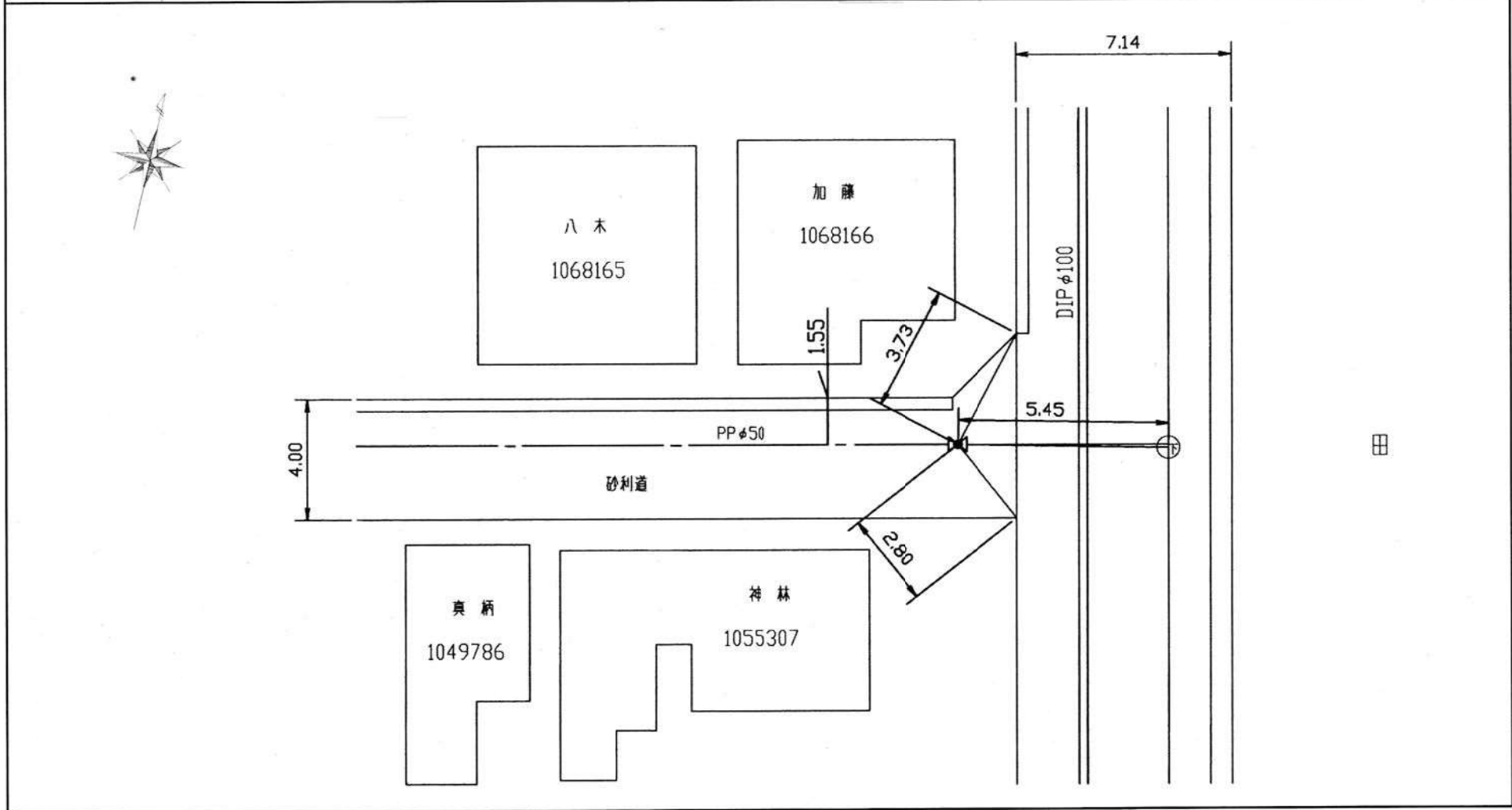
至ガンセンター↓

1級市道 川岸町一番掘通町線



※仕切弁、止水栓が同じ場所にあっても位置図については別々に提出となる。

仕切弁 止水栓	位置図番号	設置場所 東区 竹尾4丁目 地内	縮尺 S=1/200	作成年月日 令和××年××月××日
------------	-------	---------------------	---------------	----------------------



※仕切弁、止水栓が同じ場所にあっても位置図については別々に提出となる。

(IV) 工事写真撮影要領

1 目的

この要領は、配水管布設工事などにおいて施工記録と工事完成後の出来形確認の資料とするため、工事写真の撮影及び整理について基本的な事項を定めるものである。

2 撮影方法

工事写真は、表-1 に示す箇所のほか、局の監督員（以下「監督員」という）が指定する箇所または記録に残す必要がある箇所について撮影しておくこと。

また、この要領に定めのないものについては、日本水道協会「水道工事標準仕様書」によるものとする。

3 撮影内容および頻度

撮影内容及び頻度については、表-1 による。

4 撮影基準

工事写真は、撮影意図がわかる様に撮影しなければならない。

(1) 写真の撮影にあたっては、原則として次の項目を記載した小黒板(縦 50cm×横 30cm 程度)を被写体と共に写し込むものとする。

- ① 工 事 名
- ② 工 種 名
- ③ 測 点(位 置)
- ④ 実 測 寸 法
- ⑤ 被写体の概要図
- ⑥ 施 工 者 名

(2) 位置の確認が必要な場合については、出来るだけ付近の家屋などを入れるものとする。
なお、1 枚の写真で位置が不明となる場合は、貼り合わせてもよい。

(3) 工事写真は施工管理の手段であり、各工事の施工段階および工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況などを撮影し整理するものである。

特に、不可視となる出来形部分および完成検査時に確認困難な箇所については写真により施工内容、出来形寸法が容易に確認できるよう留意して撮影しなければならない。

(4) 特殊な場合での撮影は、監督員の指示によるものとする。

5 留意事項

(1) 工事写真には、所定の施工寸法などが明確に判るように、必ず幅広テープなどを入れ撮影すること。

(2) 撮影方向は、起点から終点に向かうことを原則とする。

(3) 撮影方向は、同一とすること。

(4) 夜間工事は、夜間の状況が判定できる写真であること。

(5) 掘削構内・構造物内では、照明に注意し鮮明な映像を得ること。

- (6) 被写体が重複し判別しがたい場合は、中間にしゃへい物をいれること。
- (7) 撮影は次の工程に移る直前に行くこと。
- (8) 必要に応じて遠方とアップを撮影すること。
- (9) 撮影時には、手ブレ、フラッシュなどによる反射に注意し、撮影者は後で写真を見る側の立場に立った撮影をすること。
- (10) 施工状況（不断水施工等）の写真については、ビデオ等の活用ができるものとする。

6 緊急報告

事故など緊急に報告を必要とする場合は、インスタント写真を使用してもよい。

7 写真の編集等

写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。

8 写真の仕様等

- (1) 写真はカラーとする。
- (2) 有効画素数は小黒板の文字が判読できることを指標とする（100 万画素から 300 万画素程度）。プリンターはフルカラー300dpi 以上、インク・用紙は通常の使用条件のもとで3年間程度に顕著な劣化が生じないものとする。

9 写真等の整理

- (1) 写真は撮影後、速やかに現像・焼付けした後、工事の進行順に写真帳に貼り余白に整理番号・説明を付すこと。
 - (2) 写真帳には巻頭に案内図を付し、撮影箇所と写真が容易に対比できるようにしておくこと。
 - (3) 写真帳の大きさは、四つ切版フリー台紙（323mm×270mm）付き、または A4 版とする。表紙及び背表紙には、施工年度・工事番号・工事名・工事場所・しゅん工年月・施工者名を表示すること。
 - (4) 電子媒体で提出する場合は、原本を写真帳の巻末に添付すること。
 - (5) 電子媒体は、CD-R を原則とし、提出時における有効画素 100 万画素以上とする。ただし、これ以外の電子媒体については、監督員の承諾を得るものとする。
- ※ (1)、(2)とも説明に用いる用語・数字等は明瞭な文字で記入すること。

10 写真帳の提出

- (1) 要領に基づいて撮影した写真を写真帳に整理し、監督員に報告すること。
- (2) 工事完成後、提出関係図書と同時に写真帳（ネガフィルム・電子媒体）を速やかに提出すること。

表—1 撮影内容及び頻度

区分	工 種	撮 影 箇 所 及 び 内 容	撮 影 頻 度
一 般	着 工 前	<ul style="list-style-type: none"> ・施工部全景が確認できるように撮影し、各々の写真に背景を入れ場所を明確にする。 ・関係構造物など（側溝、ブロック塀、付近家屋など）後で問題の起こる可能性のあるものは、関係者と立会いの上すべてを撮影する。 	<p>工事起点及び終点</p> <p>状況に応じて中間点も撮影する。</p>
	完 了 後	<ul style="list-style-type: none"> ・着手前と同じ箇所、同じ方向で撮影する。 ・着手前の写真と対比できる形で貼付けする。 	<p>工事起点及び終点</p> <p>状況に応じて中間点も撮影する。</p>
	工 事 標 識 等	<ul style="list-style-type: none"> ・工事表示板のすべての記載事項が確認できるように撮影する。 	標準的箇所
	保 安 設 備	<ul style="list-style-type: none"> ・工事標識と兼ねてもよいが、作業現場全景が入るよう撮影する。 ・交通整理員の配置状況が確認できるように撮影する。 	<p>標準的箇所</p> <p>昼/夜工事状況が判読できる事</p>
	調 査 及 び 試 掘	<ul style="list-style-type: none"> ・調査及び試掘の目的に沿って、埋設管の配列・離隔などの状況が確認できるように撮影する。 	全箇所
	舗 装 切 断 工	<ul style="list-style-type: none"> ・切断中心及び切断深度が確認できるように撮影する。 	50m 毎
	舗 装 版 撤 去 工	<ul style="list-style-type: none"> ・施工中のもので、積み込み方法と最終処分地が確認できるものを撮影する。 	<p>50m 毎</p> <p>各処分地毎</p>
土 工	掘 削 工	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削状況（機械・人力）掘削深さ、天巾、敷巾などが確認できるように撮影する。 	50m 毎
	埋 戻 工	<ul style="list-style-type: none"> ・埋戻中の状況（機械・人力、埋戻し材料など）が確認できるように撮影する。 ・埋戻し時の転圧状況及び各層毎の厚さが確認できるように撮影する。 	50m 毎
	残 土 処 分 工	<ul style="list-style-type: none"> ・施工中のもので、積み込み方法と最終処分地が確認できるものを撮影する。 	<p>50m 毎</p> <p>各処分地毎</p>

区分	工 種	撮 影 箇 所 及 び 内 容	撮 影 頻 度
配	布 設 工	・土被り、離れを同時に幅広テープまたはスタッフなどにより確認できるように撮影する。	50m 毎を原則とするが占用位置が変る毎
	布 設 工 (連 絡 部)	・全ての連絡箇所について既設管との配管状況及び連絡完了後の状況が確認できるように撮影する。 ・施工中の写真は、重要な箇所を選んで作成する。	各箇所
	弁栓等の設置状況	・弁栓等の設置状況が確認できるように撮影する。	各箇所
	覆 設 置 工	・覆設置の状況や、栗石等の基礎厚などが確認できるように撮影する。	全箇所を原則とする
	給水管接続工	・分岐部から既設管接続までの配管状況が確認できるように撮影する。	全箇所
	異形管使用部分	・異形管を「なぜ」、「どのように」使用したか理解できるように撮影する。 ・表示板と管路の方向が一致するように撮影する。	全箇所
	管 撤 去 工	・施工中の状況が確認できるように撮影する。 ・管閉塞状況が確認できるように撮影する。 ・石綿管撤去については最終処分状況が確認できるものを撮影する。	50m 毎 各処分地毎
管	管被覆工等 ・ポリエチレンスリーブ被覆工 ・管明示テープ ・管明示シート ・耐摩板	・異形管部を除いた一般配管部では、布設工や管の表示と兼ねて撮影してもよいが、表示板記載図と管路の向きが一致するように撮影する。 ・ポリエチレンスリーブの被覆状況を撮影する。 ・管明示テープ及び管明示シートの設置状況を撮影する。 ・耐摩板は配管状況および離隔や設置状況が確認できるように撮影する。	50m 毎 耐摩板設置箇所全て
	他埋設物との関係	・交差及び平行した場合、離隔など位置的状況が理解できるように撮影する。 ・他埋設物の防護状況が確認できるように撮影する。また、異形管使用部と兼ねてよい。	交差部は全て 全箇所
	水 圧 試 験 管 洗 浄 工	・水圧ゲージが確認できるように撮影する。 ・水圧試験箇所が確認できるように撮影する。 ・管洗浄作業状況が確認できるように撮影する。 ・ポリピック使用は挿入と排出状況を撮影する。	試験箇所すべて 全箇所

区分	工 種	撮 影 箇 所 及 び 内 容	撮 影 頻 度
仮 設 工	土 留 工	<ul style="list-style-type: none"> 土留工（親杭、矢板等）の形状寸法、打ち込み長さ及び打ち込み（引き抜き）状況が確認できるように撮影する。 	50m 毎
	水 替 工	<ul style="list-style-type: none"> 稼動状況が確認できるように撮影する。 ウェルポイントの場合は、ライザー打ち込み、ヘッダーパイプ設置など各工程のものが確認できるように撮影する。 	50m 毎
路 面 復 旧 工	路 盤 工	<ul style="list-style-type: none"> 舗装種別毎に、砕石厚さ及び幅が確認できるように幅広テープ等により撮影する。 	50m 毎
	本・仮復旧工	<ul style="list-style-type: none"> 施工中に合材や砕石の厚さ及び幅を、幅広テープなどで確認できるように撮影する。 舗装種別、施工工程、使用材料および作業の内容が確認できるように撮影する。 	50m 毎
そ の 他	鉄 筋 工	<ul style="list-style-type: none"> 組み立て状況（径、配筋ピッチ等の寸法）が幅広テープなどで確認できるように撮影する。 ガス圧接を行う場合はその状況を撮影する。 各種試験状況が確認できるものを撮影する。 	全箇所
	コンクリート工	<ul style="list-style-type: none"> 型枠設置及び検査状況を撮影する。 コンクリート打設状況及び養生状況を撮影する。 出来形寸法（コンクリート部材厚等）が幅広テープなどで確認できるように撮影する。 各種試験状況が確認できるものを撮影する。 	全箇所
	溶 接 工	<ul style="list-style-type: none"> 各作業状況、検査状況が確認できるように撮影する 	全箇所
	塗 装 工	<ul style="list-style-type: none"> 下地処理、塗装状況及び検査状況が確認できるように撮影する 	全箇所

(V) 水道配水用ポリエチレン管 (HPPE)

標準配管図

水道配水用ポリエチレン管 (HPPE) の標準配管 1

《φ75関係》

		被分岐管	分岐管	
既設配水管からの分岐	T字管からの分岐	DIP φ100, 150	HPPE φ75	図 - 1 - 1
	不断水分岐	DIP φ100~300		図 - 1 - 2
	EFチース分岐	HPPE φ75		図 - 1 - 3
		DIP φ75		図 - 1 - 5
		HIVP・VP φ75		図 - 1 - 7
		ACP φ75		図 - 1 - 9
	メカカル三方チース分岐	HPPE φ75		図 - 1 - 4
		DIP φ75		図 - 1 - 6
		HIVP・VP φ75		図 - 1 - 8
		ACP φ75		図 - 1 - 10

弁類への接続	ソトシル仕切弁への接続		図 - 1 - 11
	消火栓への接続		図 - 1 - 12

異種管への接続	ダクタイル鋳鉄管への接続	HPPE φ75	DIP φ75	図 - 1 - 13
	塩ビ管への接続		HIVP・VP φ75	図 - 1 - 14
			HIVP・VP φ50	図 - 1 - 15
	石綿管セメント管への接続		ACP φ75	図 - 1 - 16
ポリエチレン管への接続	PP φ50	図 - 1 - 17		

給水分岐	EFサドル分岐	HPPE φ75	PP φ20, 25	図 - 1 - 18
	サドル分岐			図 - 1 - 19

※ 水道配水用ポリエチレン管(HPPE)の接合は、EF接合を基本とするが地下水位・既設管の止水状況等によりEF接合が困難な場合はメカニカル接合とする。

水道配水用ポリエチレン管 (HPPE) の標準配管 2

《φ50関係》

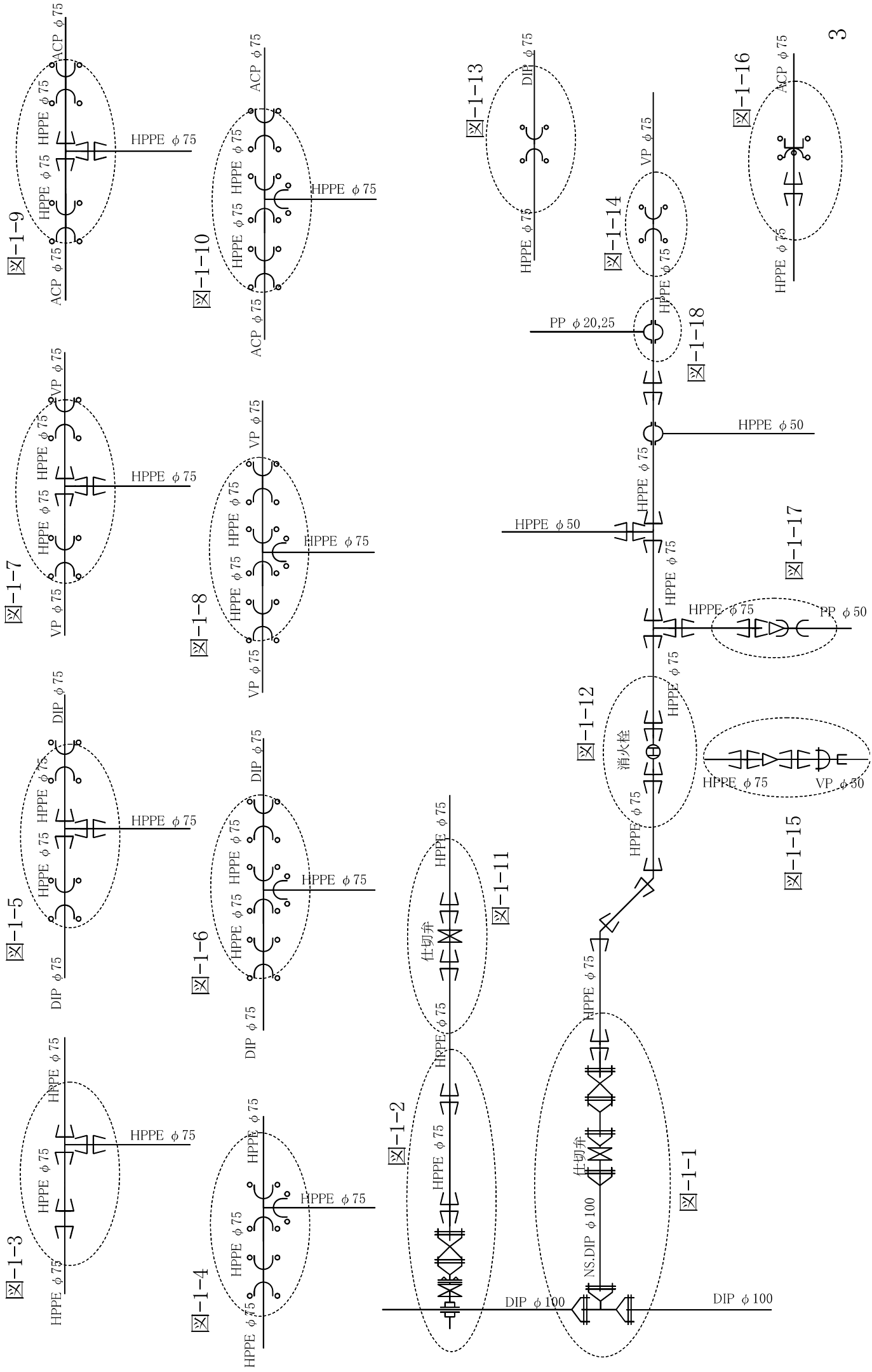
		被分岐管	分岐管	
既設配水管から の分岐	EF チーズ分岐	HPPE φ75	HPPE φ50	図 - 2 - 1
		HPPE φ50		図 - 2 - 2
	サドル分岐	HPPE φ75	HPPE φ50	図 - 2 - 4
	金属チーズ分岐	VP φ50		図 - 2 - 15
		PP φ50		図 - 2 - 16
		HPPE φ50		図 - 2 - 17

HPPE 管との 接続	EF 接続	HPPE φ75	HPPE φ50	図 - 2 - 5
				図 - 2 - 7
	金属接続	HPPE φ50	HPPE φ50	図 - 2 - 8
				図 - 2 - 9

異種管への接続	VB との接続	HPPE φ50	VB φ50	図 - 2 - 10 図 - 2 - 11 図 - 2 - 13
	PD との接続		PD φ50	図 - 2 - 14
	PP との接続		PP φ50	図 - 2 - 12 図 - 2 - 12-1

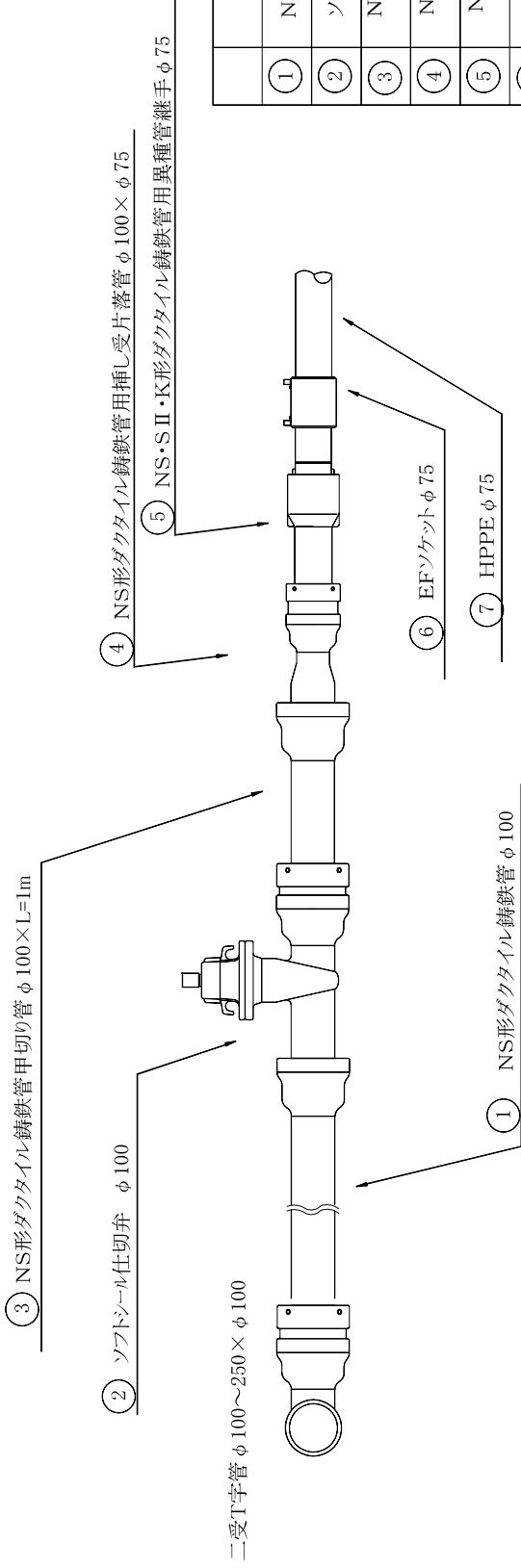
給水分岐	サドル分岐	HPPE φ75	φ50	図 - 2 - 3
	メタ接続	φ50	φ40	図 - 2 - 3-1

φ75 水道配水用ポリエチレン管配管パターン図



ダクタイル鋳鉄管 (φ100, 150) から HPPE φ75 への分岐 (T字分岐) 標準図

図 - 1 - 1

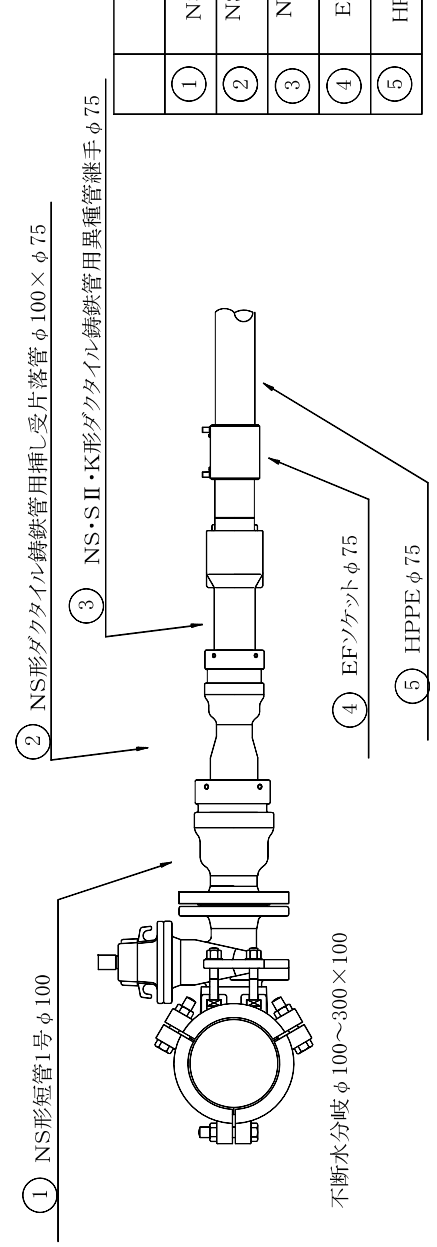


二受T字管 φ100~250×φ100

	品名	呼び径	備考
①	NS形ダクタイル鋳鉄管 φ100		
②	ソフトシール仕切弁 φ100		
③	NS形ダクタイル鋳鉄管 甲切り管 φ100×L=1m		
④	NS形ダクタイル鋳鉄管用 挿し受片落管 φ100×φ75		
⑤	NS・SII・K形ダクタイル鋳鉄管用 異種管継手 φ75		PTC G 32
⑥	EFソケット φ75		JWWA K145
⑦	HPPE直管 (φ75)		JWWA K144

ダクタイル鋳鉄管 (φ100~300) から HPPE φ75 への分岐 (不断水分岐) 標準図

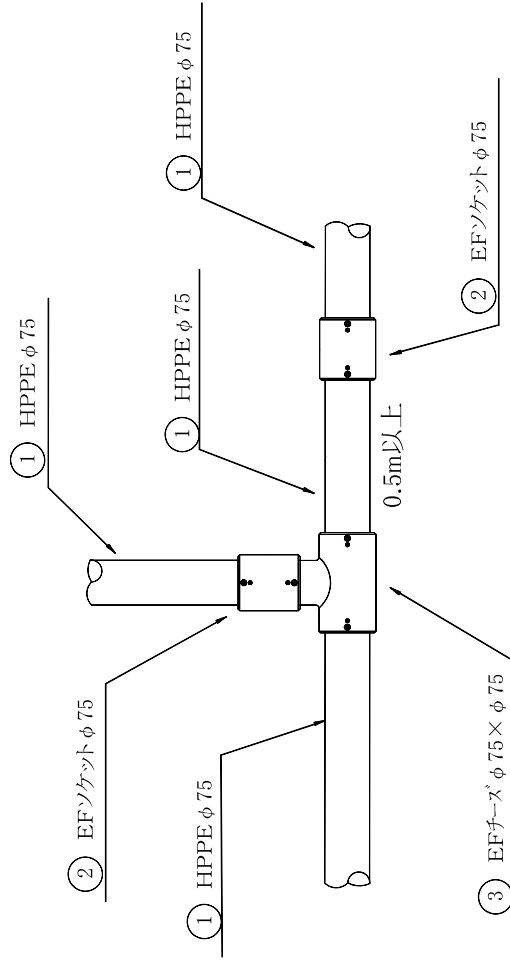
図 - 1 - 2



不断水分岐 φ100~300×100

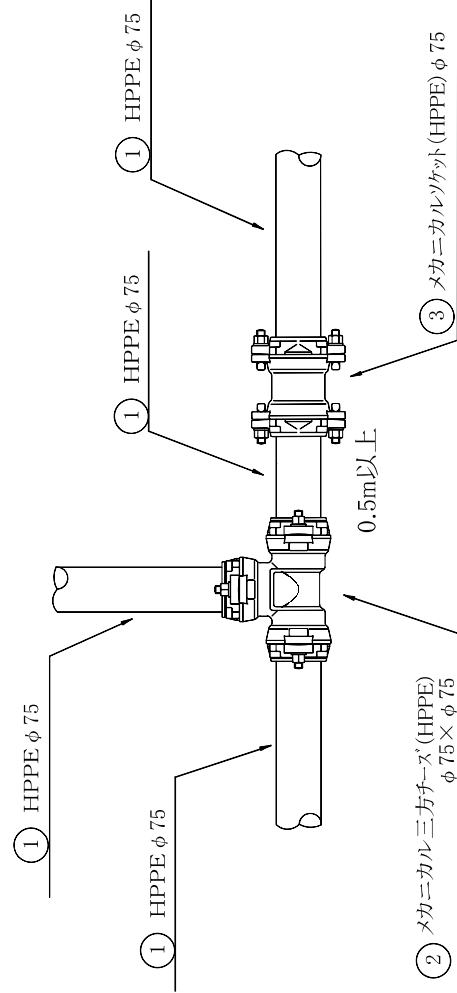
	品名	呼び径	備考
①	NS形短管1号 φ100		PTC G 32
②	NS形ダクタイル鋳鉄管用 挿し受片落管 φ100×φ75		JWWA K145
③	NS・SII・K形ダクタイル鋳鉄管用 異種管継手 φ75		PTC G 32
④	EFソケット φ75		JWWA K145
⑤	HPPE直管 (φ75)		JWWA K144

HPPE φ 75からのEFチーz分岐標準図



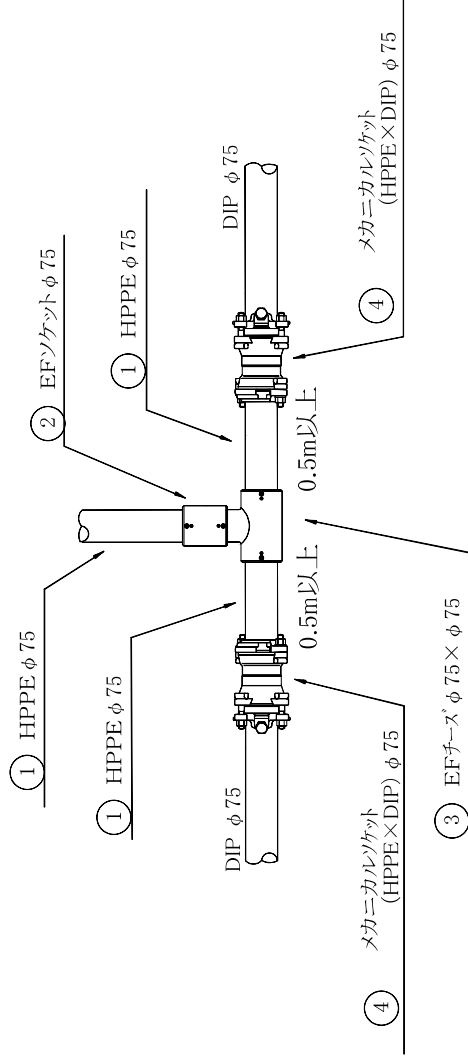
	品名	呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K145
②	EFソケット φ 75		JWWA K144
③	EFチーz φ 75 × φ 75		PTC K 13

HPPE φ 75からの メカニカル三方チーz分岐標準図



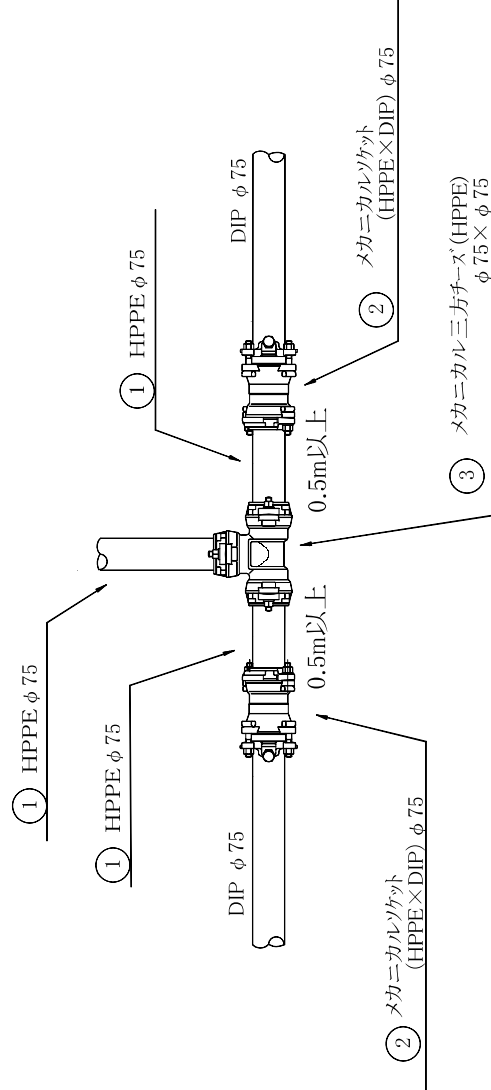
	品名	呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカル三方チーz (HPPE) φ 75 × φ 75		PTC G 30
③	メカニカルソケット (HPPE) φ 75		PTC G 30

ダクタイプ 鋳鉄管 φ75からの EFチーzus分岐標準図



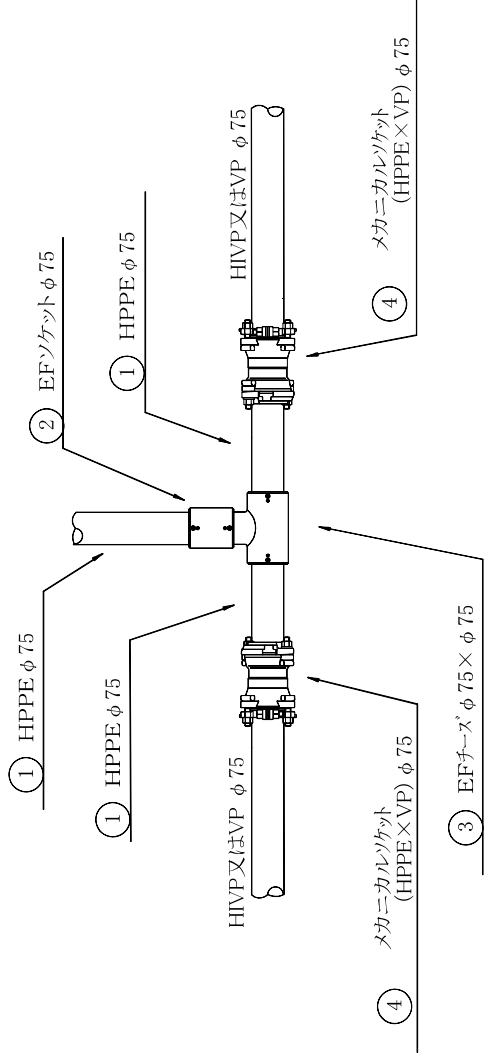
	品名	呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ75)		JWWA K144
②	EFソケット φ75		JWWA K145
③	EFチーsus φ75×φ75		PTC K 13
④	メカニカルソケット (HPPE×DIP) φ75		PTC G 30

ダクタイプ 鋳鉄管 φ75からの メカニカル三方チーsus分岐標準図



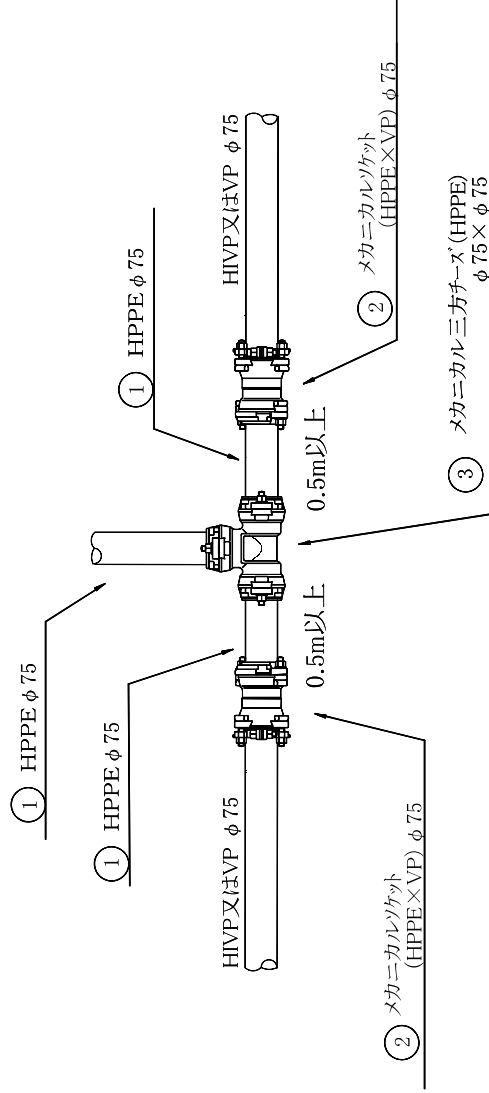
	品名	呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ75)		JWWA K144
②	メカニカルソケット (HPPE×DIP) φ75		PTC G 30
③	メカニカル三方チーsus (HPPE) φ75×φ75		PTC G 30

ビニル管 φ 75からのEFチーz分岐標準図



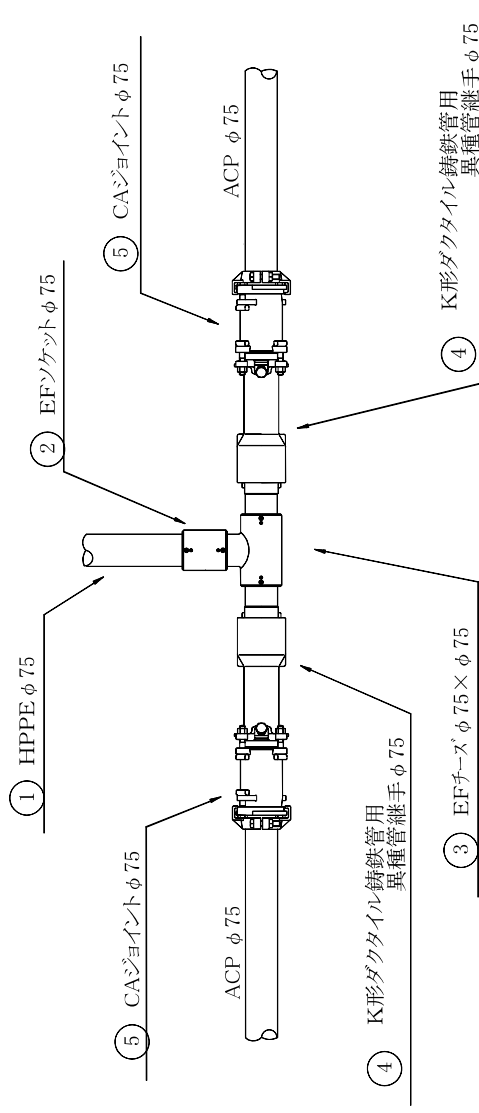
	品名	呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	EFチーz φ 75 × φ 75		PTC K 13
④	メカニカルソケット (HPPE×VP) φ 75		PTC G 30

ビニル管 φ 75からのメカニカル三方チーz分岐標準図



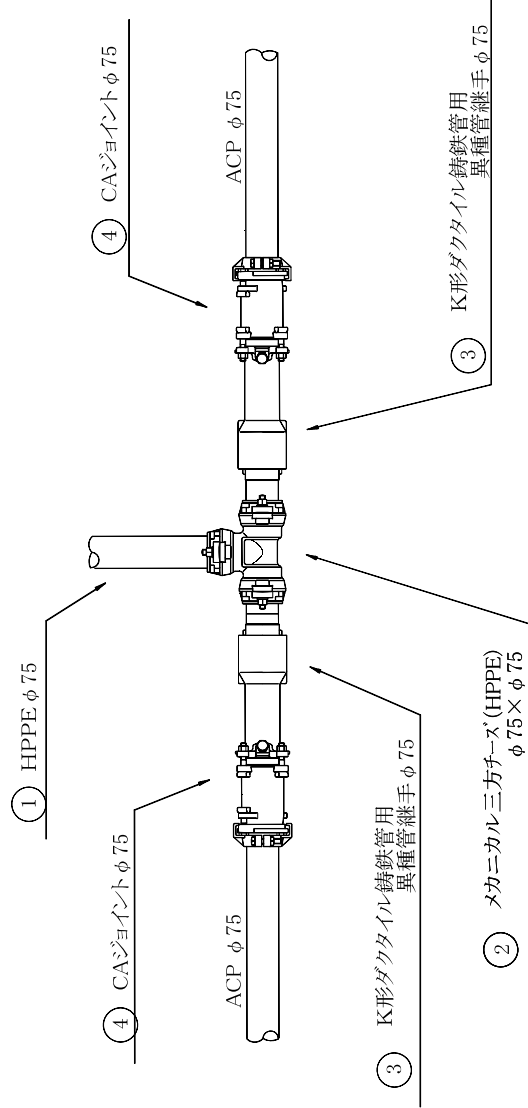
	品名	呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカルソケット (HPPE×VP) φ 75		PTC G 30
③	メカニカル三方チーz (HPPE) φ 75 × φ 75		PTC G 30

石綿管 φ 75からのEFチーubs分岐標準図



	品名	呼び径	備考
①	HIPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	EFチーubs φ 75 × φ 75		PTC K 13
④	K形ダクタイル鑄鉄管用 異種管継手 φ 75		PTC G 32
⑤	CAジョイントφ 75		

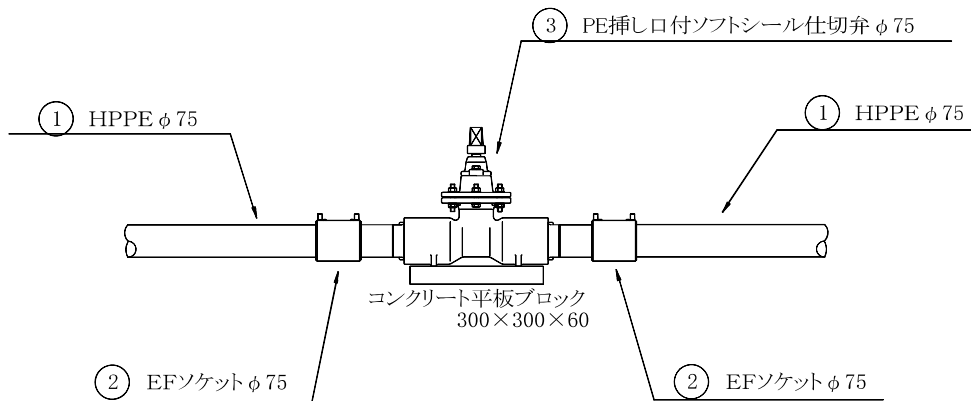
石綿管 φ 75からのメカニカル三方チーubs分岐標準図



	品名	呼び径	備考
①	HIPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカル三方チーubs (HIPPE) φ 75 × φ 75		PTC G 30
③	K形ダクタイル鑄鉄管用 異種管継手 φ 75		PTC G 32
④	CAジョイントφ 75		

HPPE φ 75からPE挿し口付き ソフトシール仕切弁への接続標準図

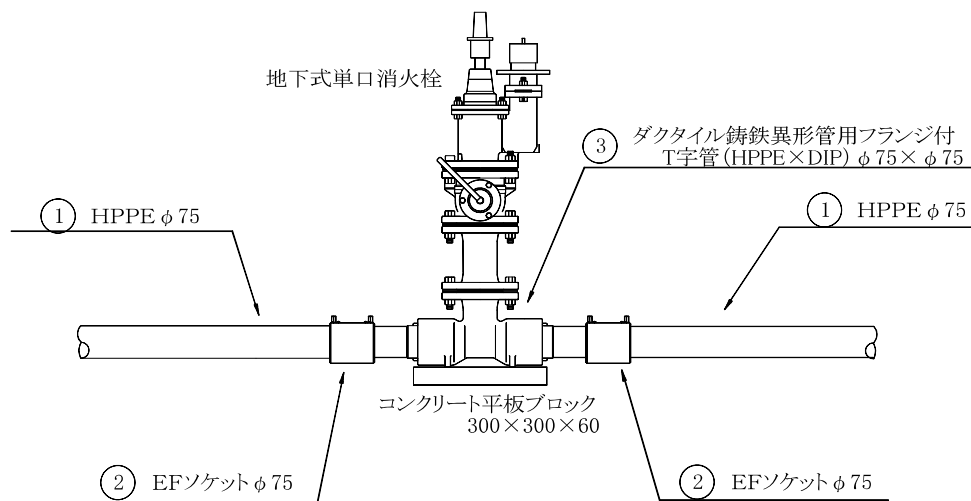
図 - 1 - 11



	品名 呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)	JWWA K144
②	EFソケット φ 75	JWWA K145
③	PE挿し口付ソフトシール仕切弁 φ 75	PTC B 22

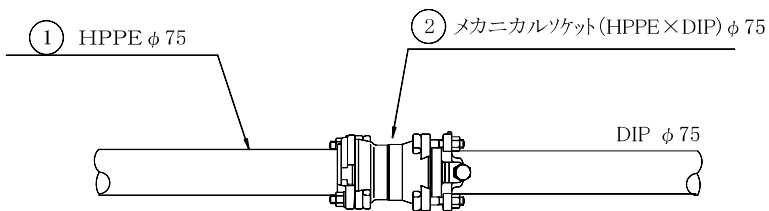
HPPE φ 75から消火栓への接続標準図

図 - 1 - 12



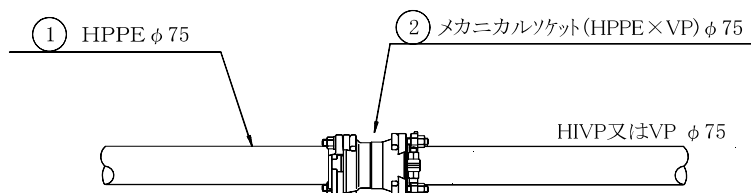
	品名 呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)	JWWA K144
②	EFソケット φ 75	JWWA K145
③	ダクタイル鋳鉄異形管用フランジ付 T字管 (HPPE×DIP) φ 75×φ 75	PTC G 32

図 - 1 - 13 HPPE φ 75からDIP φ 75への接続標準図



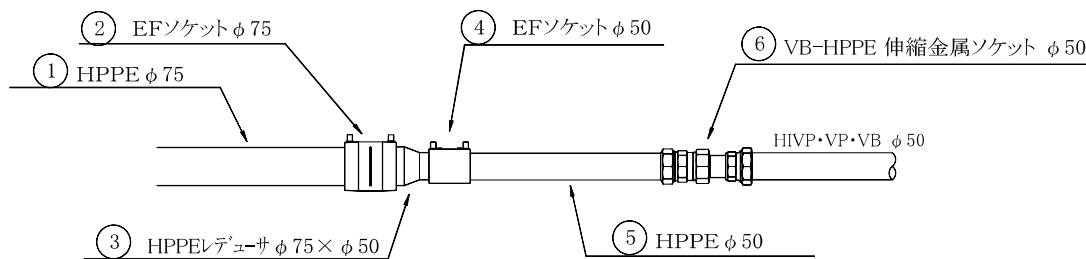
	品名 呼び径	備考
①	HPPE直管(φ 75)	JWWA K144
②	メカニカルソケット(HPPE×DIP)φ 75	PTC G 30

図 - 1 - 14 HPPE φ 75から塩ビ管 φ 75への接続標準図



	品名 呼び径	備考
①	HPPE直管(φ 75)	JWWA K144
②	メカニカルソケット(HPPE×VP)φ 75	PTC G 30

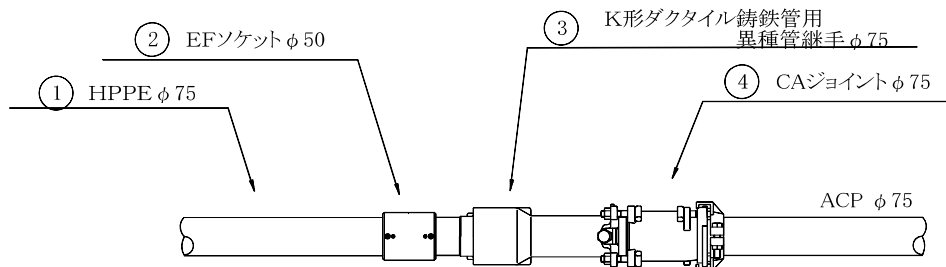
図 - 1 - 15 HPPE φ 75から塩ビ管、鋼管 φ 50への接続標準図



	品名 呼び径	備考
①	HPPE直管(φ 75)	JWWA K144
②	EFソケット φ 75	JWWA K145
③	HPPEレデュサ φ 75 × φ 50	PTC K 13
④	EFソケット φ 50	JWWA K145
⑤	HPPE直管(φ 50)	JWWA K144
⑥	VB-HPPE 伸縮金属ソケット φ 50	新潟市仕様

図 - 1 - 16

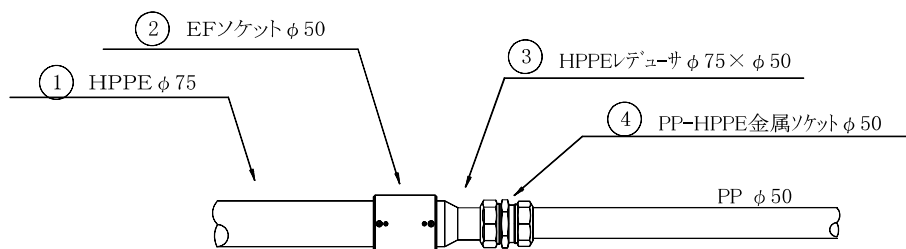
HPPE φ 75からACP φ 75への接続標準図



	品名 呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)	JWWA K144
②	EFソケット φ 75	JWWA K145
③	K形ダクタイル 鋳鉄管用 異種管継手 φ 75	PTC G 32
④	CAジョイント φ 75	

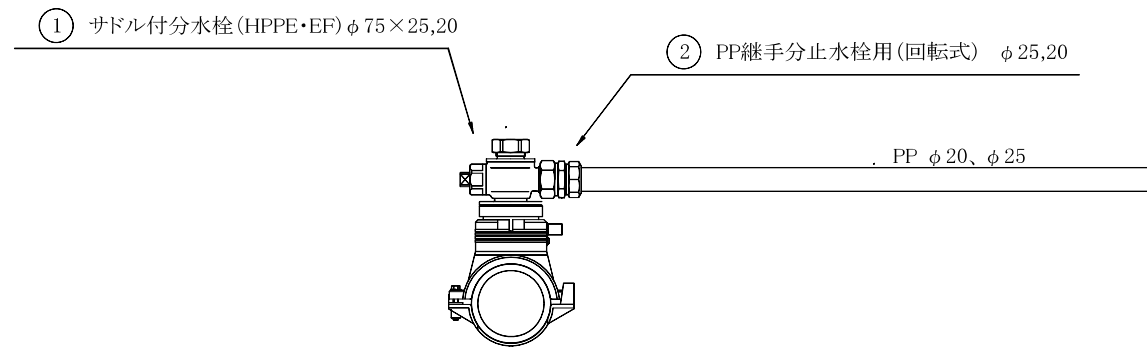
図 - 1 - 17

HPPE φ 75からPP φ 50への接続標準図



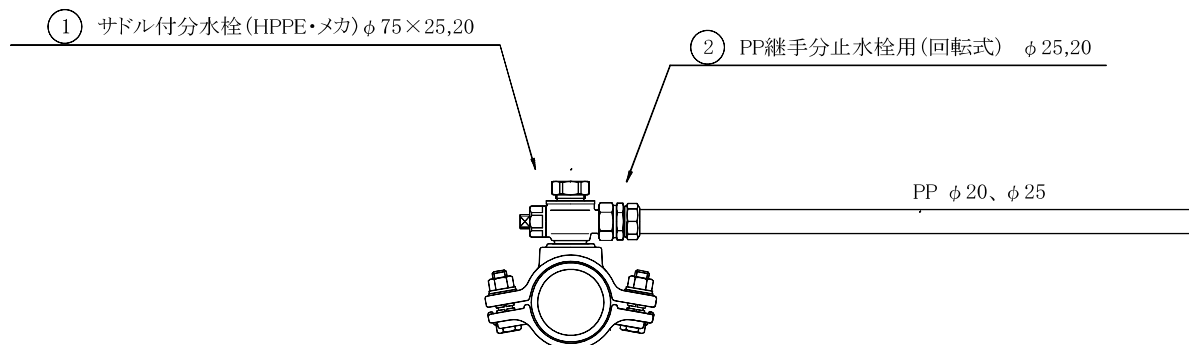
	品名 呼び径	備考
①	HPPE直管 (φ 75)	JWWA K144
②	EFソケット φ 75	JWWA K145
③	HPPEレデュース φ 75 × φ 50	PTC K 13
④	PP-HPPE金属ソケット φ 50	新潟市仕様

HPPE φ 75からPP φ 20,25へのEFサドル分岐標準図



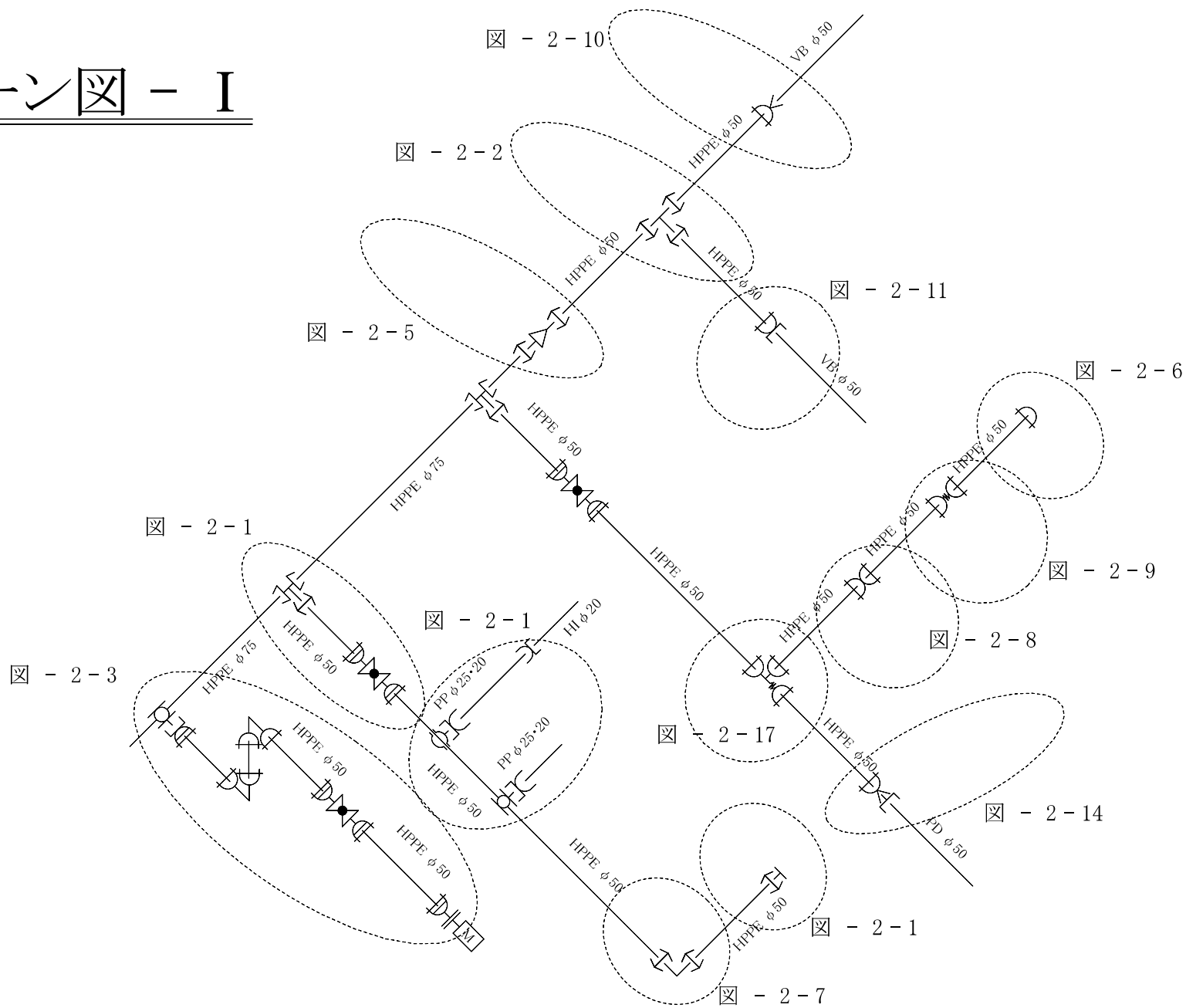
	品名 呼び径	備考
①	サドル付分水栓(HPPE・EF) φ 75×25,20	PTC K 13
②	PP継手分止水栓用(回転式) φ 25,20	

HPPE φ 75からPP φ 20,25へのサドル分岐標準図

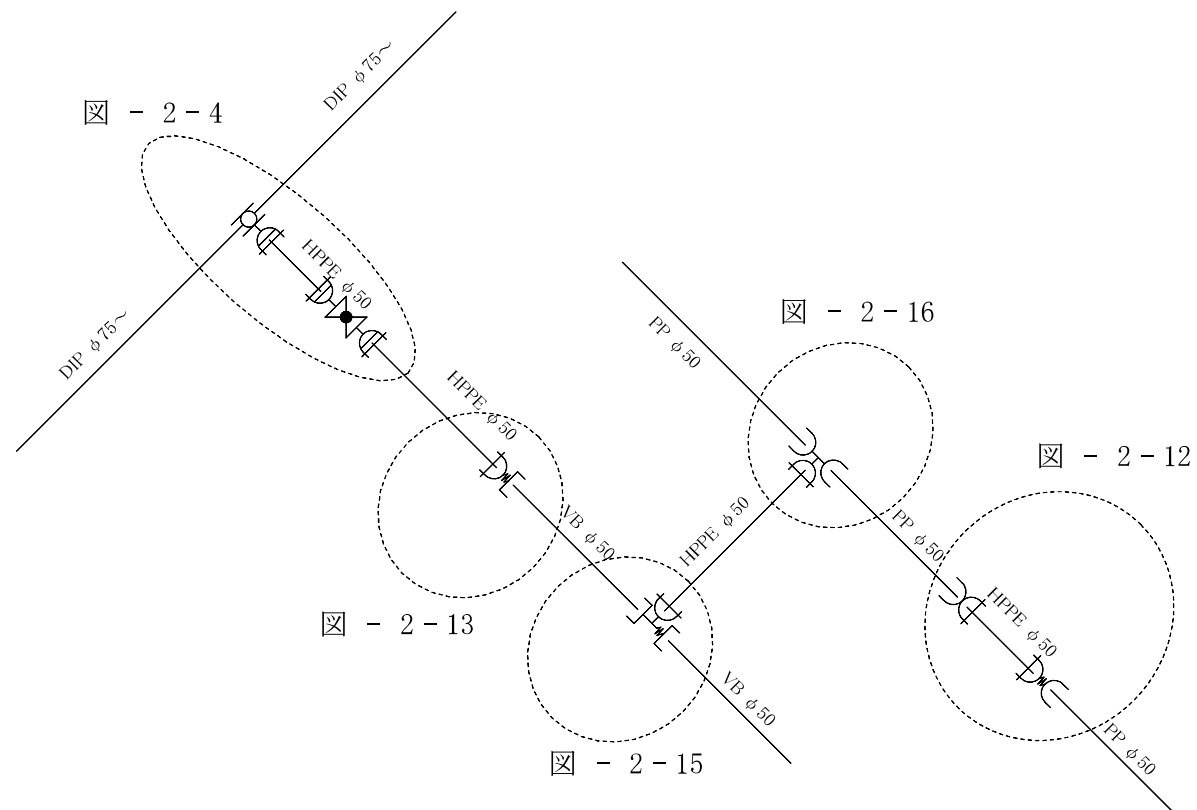


	品名 呼び径	備考
①	サドル付分水栓(HPPE・メカ) φ 75×25,20	PTC B 20
②	PP継手分止水栓用(回転式) φ 25,20	

配管パターン図 - I

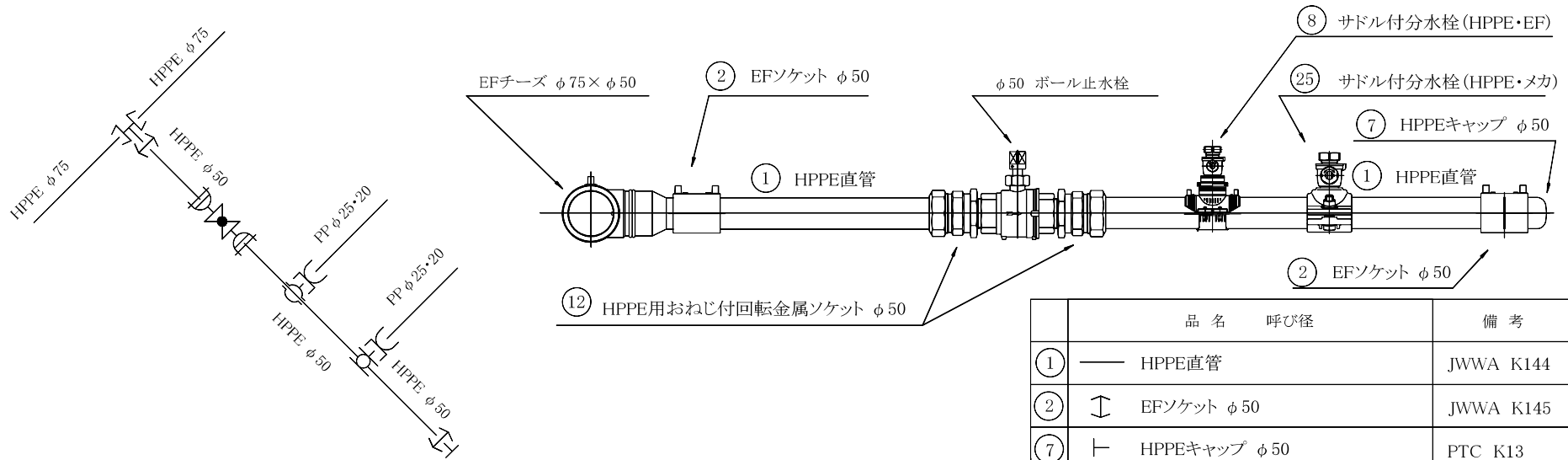


配管パターン図 - II



HPPE φ75×φ50

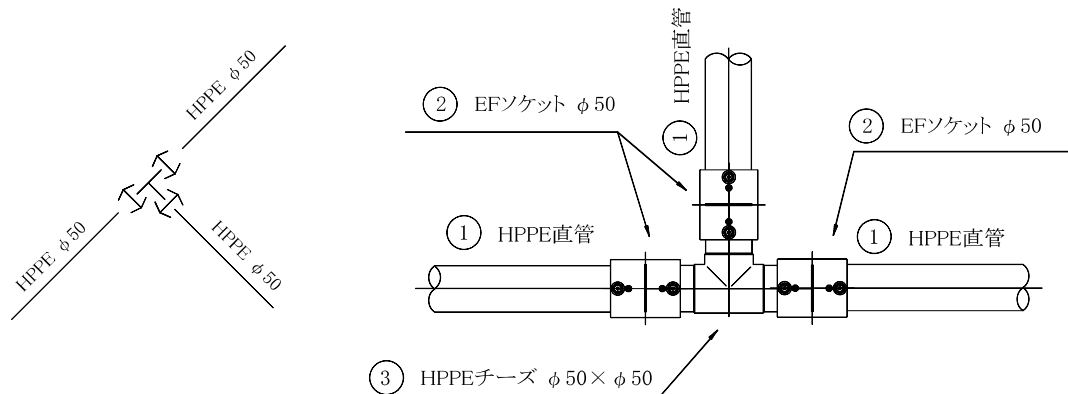
図 - 2 - 1 熱融着継手使用 給・配水管取出し 標準配管図



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⌋	EFソケット φ50	JWWA K145
⑦	⌋	HPPEキャップ φ50	PTC K13
⑧	⌋	サドル付分水栓 (HPPE・EF)	PTC K13
⑫	⌋	HPPE用おねじ付回転金属ソケット φ50	新潟市仕様
⑫	⌋	サドル付分水栓 (HPPE・メカ)	PTC B20

HPPE φ50×φ50

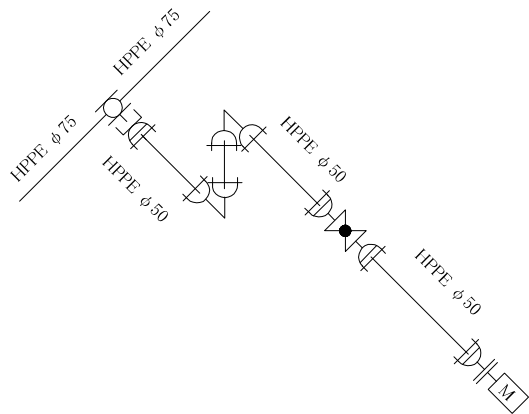
図 - 2 - 2 熱融着分岐図



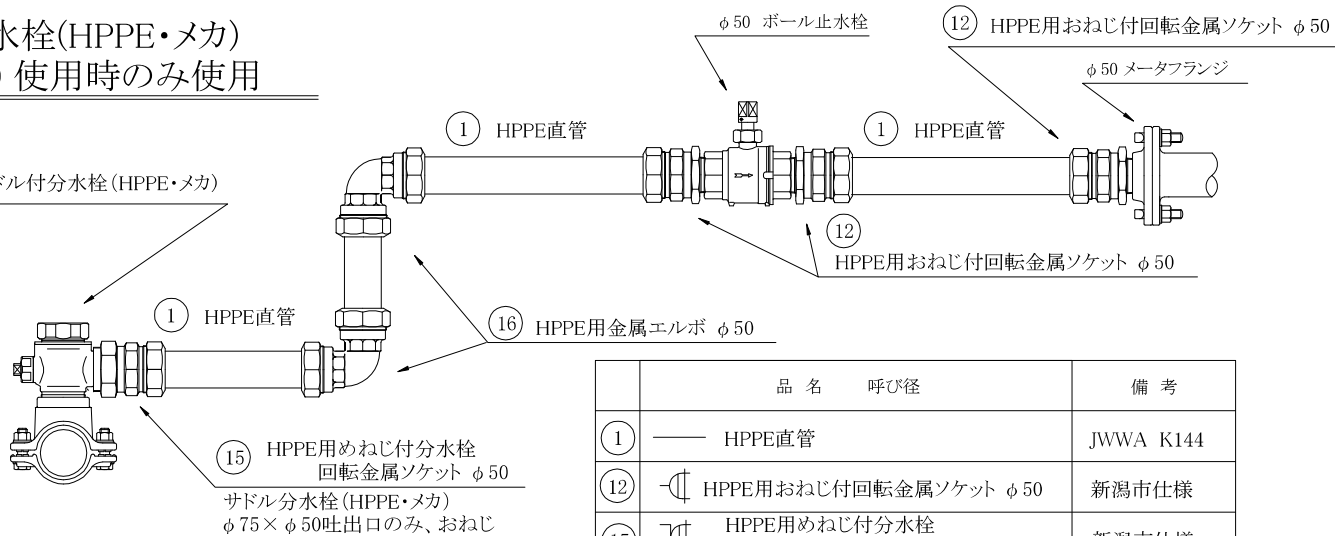
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⌋	EFソケット φ50	JWWA K145
③	⌋	HPPEチーズ φ50×φ50	PTC K13

金属継手使用 給・配水管取出し 標準配管図 給水配管 φ50メートル金属継手接続

⑮材料はサドル分水栓(HPPE・メカ)
φ75×φ50 使用時のみ使用

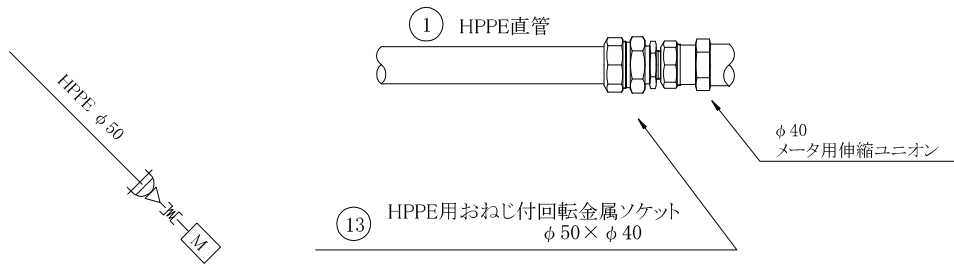


⑮ サドル付分水栓 (HPPE・メカ)



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑫	⊖	HPPE用おねじ付回転金属ソケット φ50	新潟市仕様
⑮	⊕	HPPE用めねじ付分水栓 回転金属ソケット φ50	新潟市仕様
⑰	⌒	HPPE用金属エルボ φ50	新潟市仕様
⑲	⊕	サドル付分水栓 (HPPE・メカ)	PTC B20

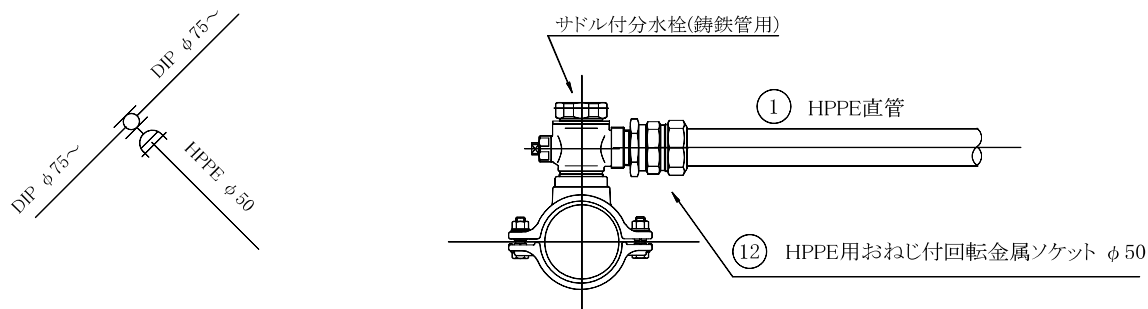
給水配管 φ40メートル接続に使用



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑬	⊖	HPPE用おねじ付回転金属ソケット φ50×φ40	新潟市仕様

図 - 2 - 4

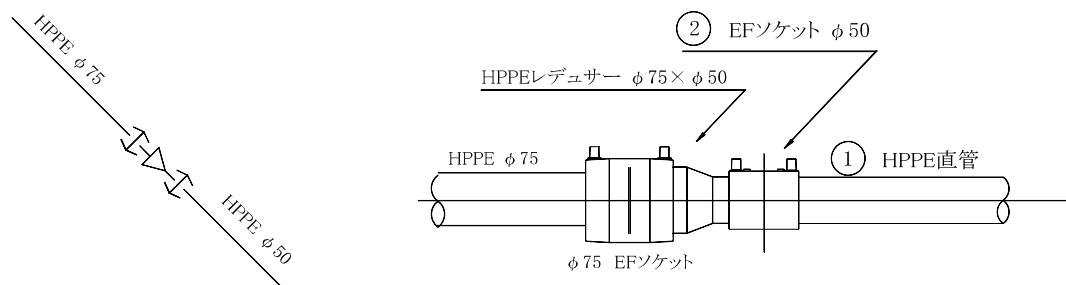
鋳鉄管 φ75以上 × φ50 鋳鉄サドル分岐図



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑫	⊘	HPPE用おねじ付回転金属ソケット φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 5

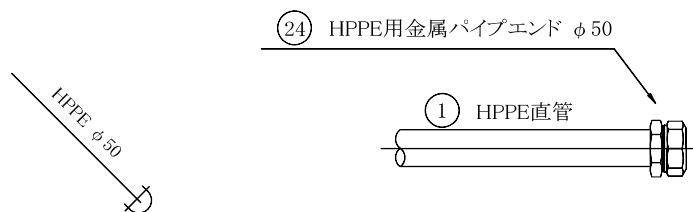
HPPE φ75 × φ50 熱融着縮径図



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⊘	EFソケット φ50	JWWA K145

図 - 2 - 6

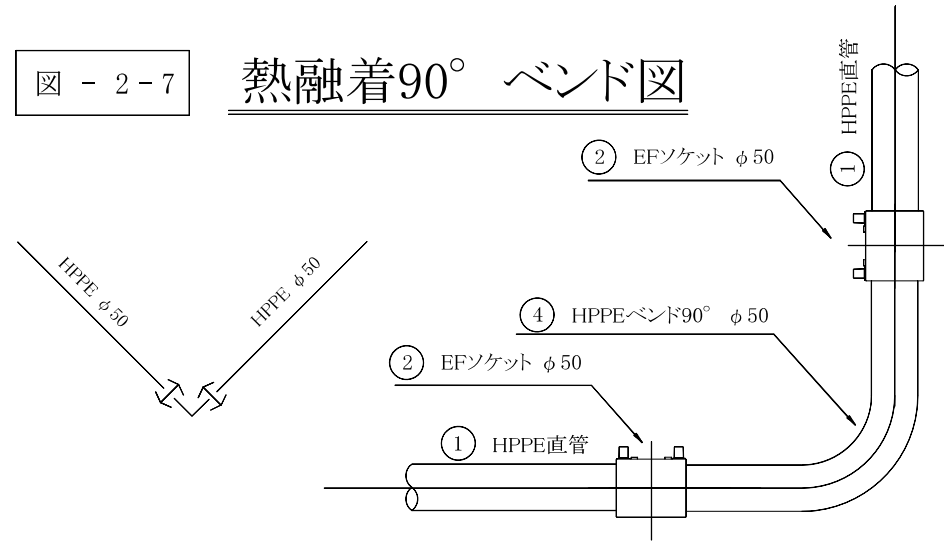
修繕時・他 金属継手パイプエンド図



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑲	⊘	HPPE用金属パイプエンド φ50	新潟市仕様

図 - 2-7

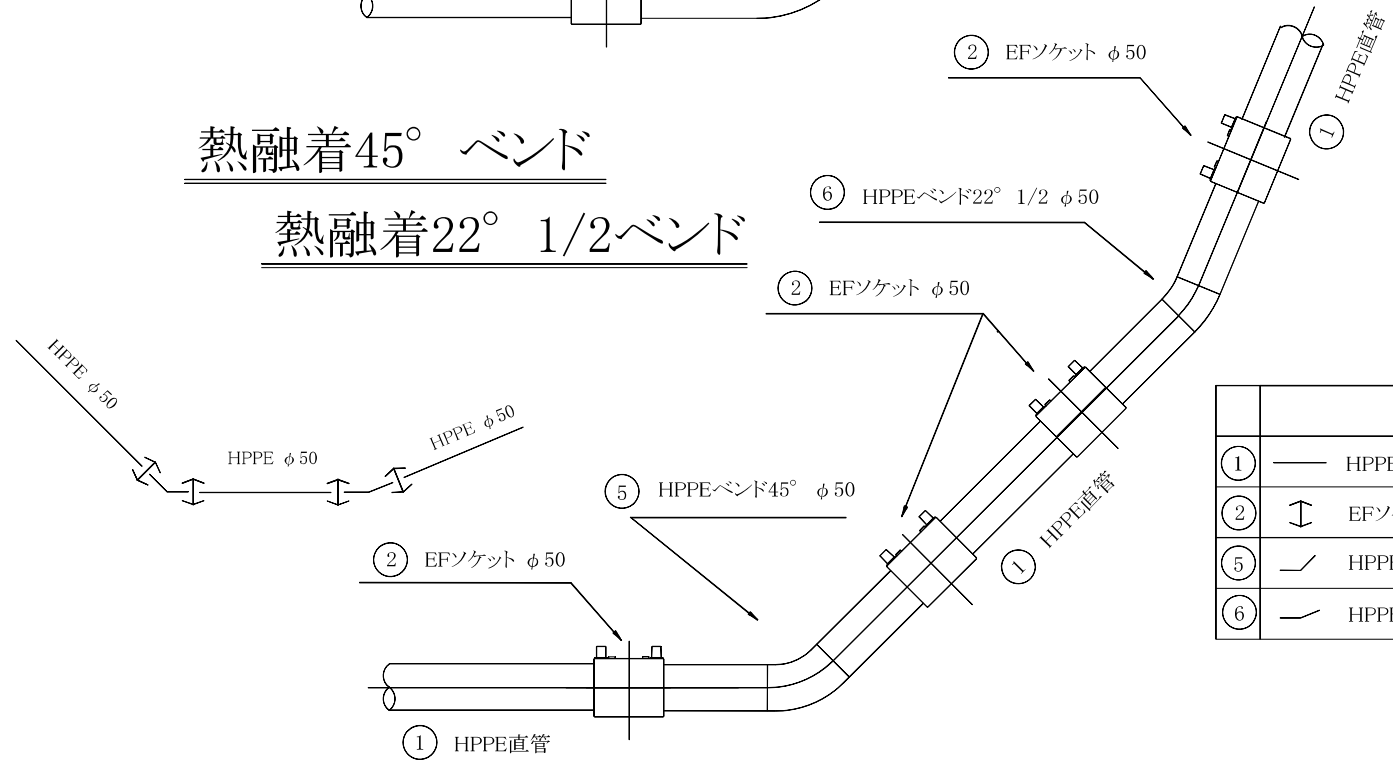
熱融着90° ベンド図



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⇄	EFソケット φ50	JWWA K145
④	└	HPPEベンド90° φ50	PTC K13

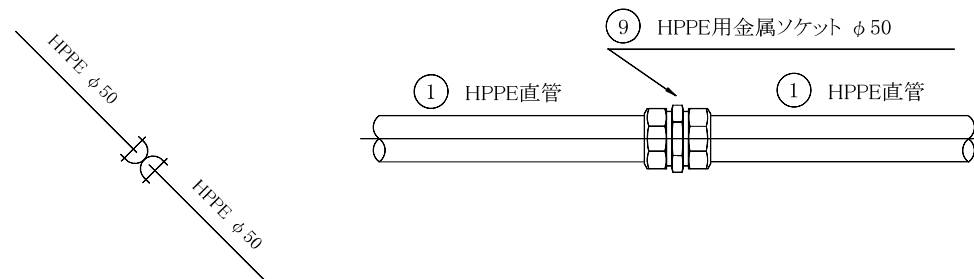
熱融着45° ベンド

熱融着22° 1/2ベンド



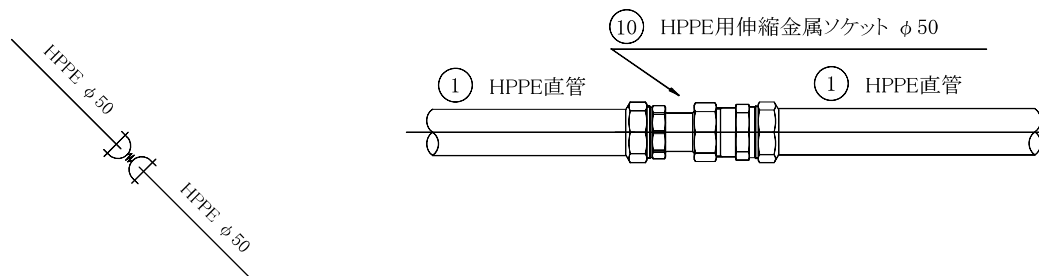
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⇄	EFソケット φ50	JWWA K145
⑤	↙	HPPEベンド45° φ50	PTC K13
⑥	↗	HPPEベンド22° 1/2 φ50	PTC K13

図 - 2-8 HPPE - HPPE 金属継手接続図



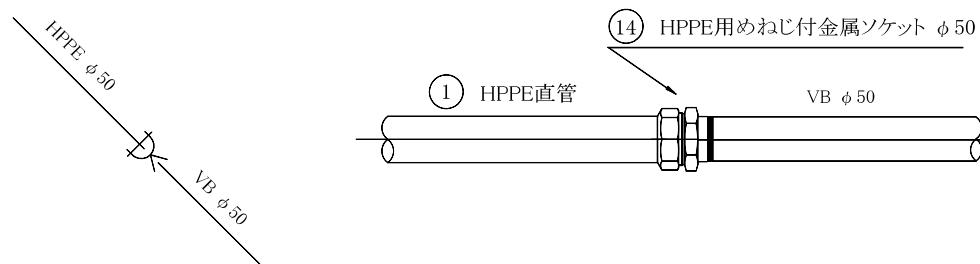
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑨		HPPE用金属ソケット φ50	新潟市仕様

図 - 2-9 修繕時 HPPE - HPPE 金属継手接続図



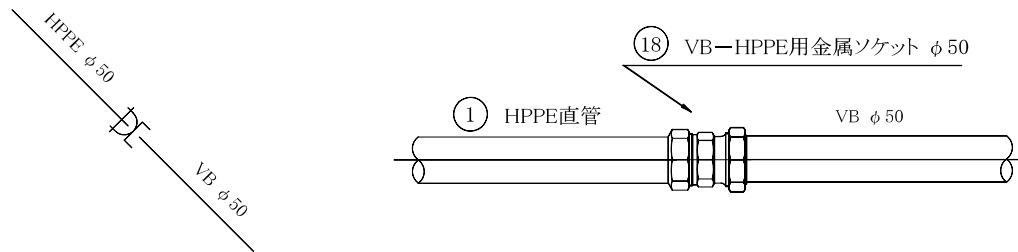
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑩		HPPE用伸縮金属ソケット φ50	新潟市仕様

図 - 2-10 鋼管おねじ - HPPE 金属継手接続図



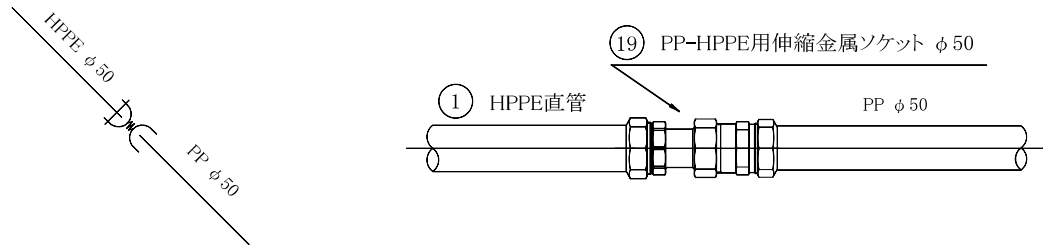
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑭		HPPE用めねじ付金属ソケット φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 11 鋼管・HI - HPPE 金属継手接続図



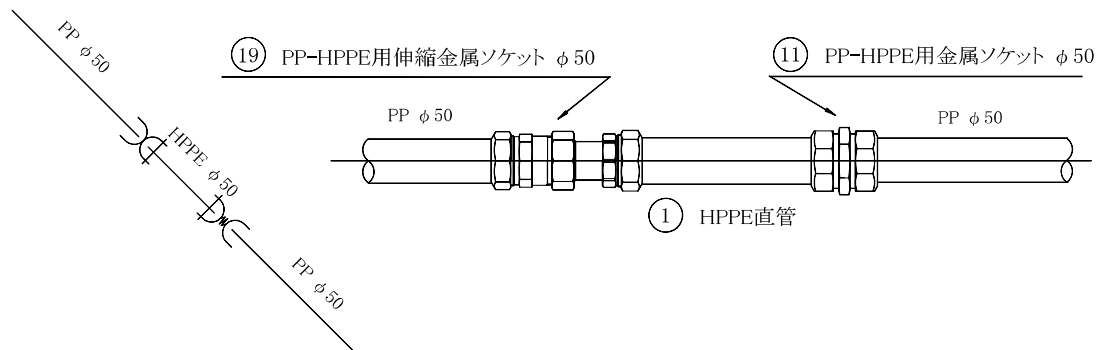
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑱		VB-HPPE用金属ソケット φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 12 PP - HPPE 金属継手接続図



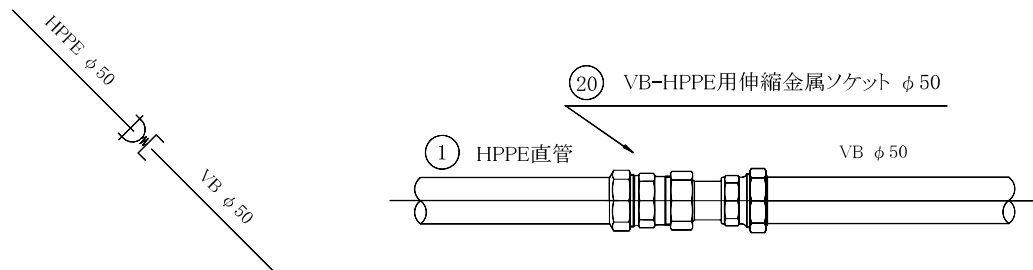
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑲		PP-HPPE用伸縮金属ソケット φ50	新潟市仕様

修繕時等 PP - HPPE 金属継手接続図



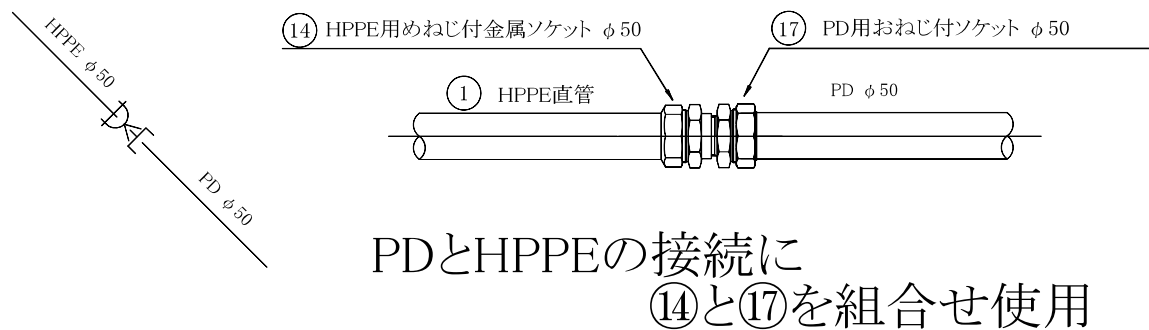
	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑪		PP-HPPE用金属ソケット φ50	新潟市仕様
⑲		PP-HPPE用伸縮金属ソケット φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 13 鋼管・HI - HPPE 金属継手接続図



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②0		VB-HPPE用伸縮金属ソケット φ50	新潟市仕様

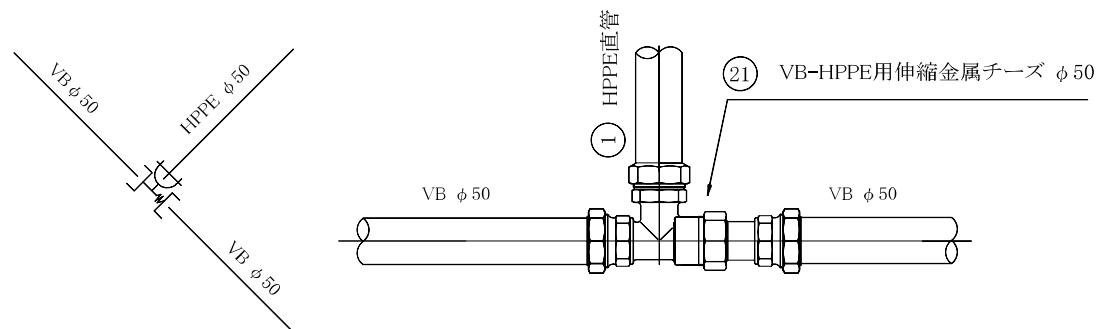
図 - 2 - 14 PD - HPPE 金属継手接続図



	品名	呼び径	備考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
①4		HPPE用めねじ付金属ソケット φ50	新潟市仕様
①7		PD用おねじ付ソケット φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 15

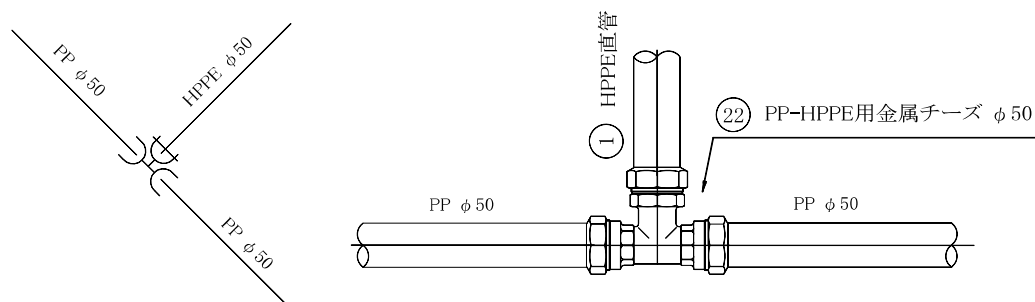
鋼管・HI - HPPE 金属継手分岐図



	品名 呼び径	備考
①	— HPPE直管	JWWA K144
②1	VB-HPPE用伸縮金属チーズ φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 16

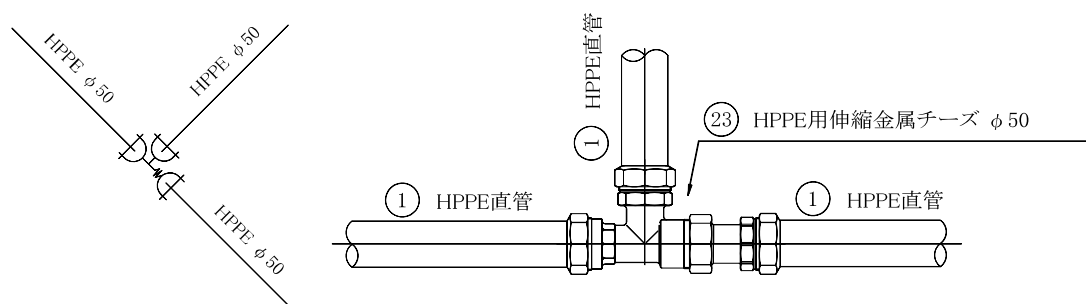
PP - HPPE 金属継手分岐図



	品名 呼び径	備考
①	— HPPE直管	JWWA K144
②2	PP-HPPE用金属チーズ φ50	新潟市仕様






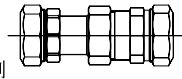

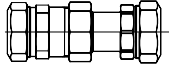



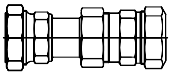



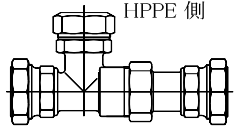



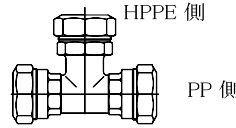



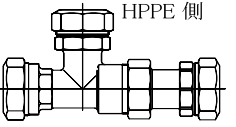





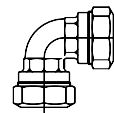



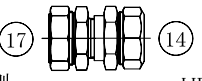
図 - 2 - 17

HPPE - HPPE 金属継手分岐図



	品名 呼び径	備考
①	— HPPE直管	JWWA K144
②3	HPPE用伸縮金属チーズ φ50	新潟市仕様

水道配水用ポリエチレン管用 金属継手(新潟市仕様)

<p>⑨  HPPE用金属ソケット φ50 HPPEとHPPEの接続に使用</p> <p>HPPE側  HPPE側</p> <p>図-2-8参照</p>	<p>⑱  VB-HPPE用金属ソケット φ50 鋼管・HIとHPPEとの接続に使用</p> <p>VB側  HPPE側</p> <p>図-2-11参照</p>
<p>⑩  HPPE用伸縮金属ソケット φ50 修繕時 HPPEとHPPEの接続に使用</p> <p>HPPE側  HPPE側</p> <p>図-2-9参照</p>	<p>⑲  PP-HPPE用伸縮金属ソケット φ50 PPとHPPEとの接続に使用</p> <p>PP側  HPPE側</p> <p>図-2-12参照</p>
<p>⑪  PP-HPPE用金属ソケット φ50 PPとHPPEの接続に使用</p> <p>PP側  HPPE側</p> <p>図-2-12参照</p>	<p>⑳  VB-HPPE用伸縮金属ソケット φ50 鋼管・HIとHPPEとの接続に使用</p> <p>VB側  HPPE側</p> <p>図-2-13参照</p>
<p>⑫  HPPE用おねじ付 回転金属ソケット φ50 鋳鉄サドル及びボール止水栓に使用</p> <p>鋳鉄サドル ボール止水栓 φ50メータF側</p> <p> HPPE側</p> <p>図-2-1 図-2-3 図-2-4参照</p>	<p>㉑  VB-HPPE用伸縮金属チーズ φ50 鋼管・HIからの分岐時に使用</p> <p>VB側  HPPE側 VB側</p> <p>図-2-15参照</p>
<p>⑬  HPPE用おねじ付 回転金属ソケット φ50×φ40 φ40メータ接続に使用</p> <p>φ40メータF側  HPPE側</p> <p>図-2-3参照</p>	<p>㉒  PP-HPPE用金属チーズ φ50 PPからの分岐時に使用</p> <p>PP側  HPPE側 PP側</p> <p>図-2-16参照</p>
<p>⑭  HPPEめねじ付金属ソケット φ50 鋼管おねじとの接続に使用</p> <p>VB側  HPPE側</p> <p>図-2-10 図-2-14参照</p>	<p>㉓  HPPE用伸縮金属チーズ φ50 HPPEからの分岐時に使用</p> <p>HPPE側  HPPE側 HPPE側</p> <p>図-2-17参照</p>
<p>⑮  HPPE用めねじ付分水栓 回転金属ソケット φ50 サドル付分水栓(HPPE用) φ75×φ50に使用</p> <p>サドル付分水栓 (HPPE用) φ75×φ50側  HPPE側</p> <p>図-2-3参照</p>	<p>⑳  HPPE用金属パイプエンド φ50 パイプエンド</p> <p> HPPE側</p> <p>図-2-6参照</p>
<p>⑯  HPPE用金属エルボ φ50 90° エルボ</p> <p> 図-2-3参照</p>	
<p>⑰  PD用おねじ付ソケット φ50(既存品) PDとHPPEの接続に⑭と組合せ使用</p> <p>PD側  HPPE側</p> <p>図-2-14参照</p>	<p>⑭ + ⑰ の組合せ状況</p> <p> PD-HPPE 継手ソケット φ50</p> <p>PD側  HPPE側</p> <p>⑰ ⑭ 図-2-14参照</p>

水道配水用ポリエチレン管金属継手の色別

HPPE管側受口色	ブルー (青)
VB(HI)管側受口色	グレー (灰色)
PP管側受口色	無色(砲金地肌)